一 避病院ニハ左ノ割合ヲ以テ醫師、調劑掛、看護人、事務員ヲ置クヘシ

一醫長　一人　一醫員　患者十五名乃至二十名ニ付一人

一調劑掛　二人以上　一看護人　患者五名ニ付一人

一事務員　若干

町村ニ於テハ其狀況ニヨリ別ニ醫長、調劑掛ヲ置カス醫員ニ於テ之ヲ兼ヌルコトヲ得

○布告第百六十三號　明治六年五月十五日

方今牛豚類ノ牧畜盛ニ行ハレ候處溫暑ノ時ニ方テハ其臭氣人身ノ健康ヲ害スルノミナラス近來獸類ノ傳染病流行往々人生ノ傷害ヲ釀シ候ニ付自今三府市街ノ區內ハ勿論各地一般人家稠密ノ場所ニテ豢養ノ儀堅ク禁止候條右區內ニ於テ從前營業ノ者ハ布令到達ノ日ヨリ卅五日以內ヲ以テ郊外便宜ノ地ニ立退豢養可致事

但東京府下朱引內ハ假令草野空間ノ地ト雖モ豢養不相成候尤乳汁搾取ノタメ豢養候ハ被差許候ヘ共不潔臭穢ノ儀モ有之候ヘハ詮議ノ上可令取拂事

府縣

病死禽獸ヲ食料ノタメ致賣買候ハ兼テ嚴禁ニ候處天然老死或ハ尋常ノ病ニ斃候モノハ皮剝取骨肉等田園ノ培養ニ相用候儀不苦候條各地方ニ於テ右辨別厚ク可致注意候事

但流行病死ノモノハ燒棄勿論ニ候事

墓地、埋葬、墓表等ノ取締

〔沿革〕明治五年八月大藏省第百十八號達ヲ以テ人民私有耕地ノ畔際ヘ擅ニ遺骸ヲ埋葬スルヲ嚴禁ス○同年九月敎部省第十七號ヲ以テ神墓地ノ件伺出方ヲ達ス○六年七月第二百五十三號布告ヲ以テ火葬ヲ禁止ス○六年十月第三百五十五號達ヲ以テ所有地タリトモ墓地ヲ新設スルヲ禁ス○八年五月第八十九號布告ヲ以テ火葬禁止ノ布告ヲ廢ス○同年六月內務省乙第八十號達ヲ以テ燒場取扱方心得書ヲ定ム○十三年十一月大藏省乙第三十七號達ヲ以テ耕宅地ニアラサル共葬墓地々租ノ蠲除ヲ府縣ニ委任ス○十六年五月同省二十三號達ヲ以テ耕宅地共葬墓地地租ノ蠲除ヲ府縣ニ委任ス○十七年十月第二十五號布達ヲ以テ墓地及埋葬取締規則ヲ定ム○同年同月第八十二號達ヲ以テ同上規則違犯者處分法ヲ定ム○同年十一月內務省乙第四十號達ヲ以テ規則第八條方法細則ノ標準ヲ定ム○十九年二月同省甲第五號達ヲ以テ同上標準ノ第拾五條ヲ刪除ス○廿四年七月內務省令第十一號ヲ以テ刑死者ノ墓表寫眞等ニ係ル取締法ヲ定ム

○太政官布達第二十五號　明治十七年十月四日

墓地及埋葬取締規則左ノ通定ム

墓地及埋葬取締規則

第一條　墓地及火葬場ハ管轄廳ヨリ許可シタル區域ニ限ルモノトス

第二條　墓地及火葬場ハ總テ所轄警察署ノ取締ヲ受クヘキモノトス

第三條　死體ハ死後二十四時間ヲ經過スルニ非サレハ埋葬又ハ火葬ヲナスヿヲ得ス

但別段ノ規則アルモノハ此限ニアラス

第四條　區長若クハ戸長ノ認許證ヲ得ルニ非サレハ埋葬又ハ火葬ヲナスヿヲ得ス

但改葬ヲナサントスル者ハ所轄警察署ノ許可ヲ受クヘシ

第五條　墓地及火葬場ノ管理者ハ區長若クハ戸長ノ認許證ヲ得タル者ニ非サレハ埋葬又ハ火葬ヲナサシムヘカラス

又警察署ノ許可證ヲ得タルニ非サレハ改葬ヲナサシムヘカラス

第六條　葬儀ハ寺堂若クハ家屋構内又ハ墓地若クハ火葬場ニ於テ行フヘシ

第七條　凡ソ碑表ヲ建設セント欲スル者ハ所轄警察署ノ許可ヲ受クヘシ其許可ヲ得スシテ建設シタルモノハ之ヲ取除ケシムヘシ

但墓地外ニ建設スルモノ亦之ニ準ス

第八條　此規則ヲ施行スル方法細則ハ警視總監府知事縣令ニ於テ便宜取設ケ内務卿ニ届出ツヘシ

右布達候事

○太政官達第八十二號　明治十七年十月四日

警視廳　府縣

今般第二十五號ヲ以テ墓地及埋葬取締規則布達候ニ付此規則ニ違背スルモノハ違警罪ノ刑ヲ以テ處分スヘシ此旨相達候事

○内務省達乙第四十號　明治十七年十一月十八日

府　縣

本年第二十五號布達第八條ニ記載セル方法細目ハ左ノ條件ヲ標準トスヘシ此旨相達候事

第一條　墓地ハ從前許可セラレタル者ニ限ル

但已ムヿヲ得サル事情アリテ之レヲ取廣メ又ハ新設スル場合ニ於テハ地方

廳ニ願出ヘシ

第二條　墓地ヲ新設スルハ國道縣道鐵道大川ニ沿ハス人家ヲ隔ルコト凡ソ六拾間以上ニシテ土地高燥飲用水ニ障ナキ地ヲ撰ムヘシ

第三條　墓地ハ種族宗旨ヲ別タス其町村ニ本籍ヲ有シ若クハ其町村ニ於テ死シタルモノハ何人ニテモ之ニ葬ルコトヲ得其從前別段ノ習慣アルモノハ此限ニアラス

但死刑ニ處セラレタル者ハ墓地ノ一隅ヲ區劃シテ其内ニ埋葬スルモノトス

第四條　墓地ノ周圍墓地ト墓地ニ非サルトノ境界ヲ云フニハ樹木ヲ栽ユヘシ墓地ノ内ニハ一丈以上ノ樹木塀墻ヲ存スヘカラサルモノトス

但從前ヨリ現存スル者ハ此限ニアラス

第五條　墓地ハ清潔ヲ旨トシ掃除及修繕ヲ怠ルヘカラス

第六條　火葬場ハ人家及人民輻湊ノ地ヲ隔ル凡ソ百二十間以上ニシテ風上ニ位ヒセサル地ヲ撰ヒ火爐煙筒ヲ備ヘ臭煙ヲ防クノ裝置ヲナシ且周圍ニ塀墻ヲ設クヘシ

但山林原野等ニシテ人家ヲ隔タル場所ナルトキハ格別ナリトス

第七條　火葬ハ成ルヘク日没後之ヲ行フヘシ

第八條　壙穴ノ深サハ六尺以上タルヘシ若シ土地ニヨリ六尺ニ至リ難キモノ及ヒ火葬ノ遺骨ヲ埋藏スルモノハ格別ナリトス

第九條　墓地火葬場ニハ必ス管理者ヲ置キ其姓名ハ區役所又ハ戸長役場ニ屆ケ置クヘシ

第十條　死者ノ姓名族籍官位勲爵法號及生死ノ年月日建立者ノ姓名ヲ記スルニ止リ誌銘傳贊等ノ碑文ヲ刻セサル墓標ハ所轄警察署ノ許可ヲ受ルノ限ニ非ス

第十一條　死屍ヲ埋葬又ハ火葬セント欲スル者ハ主治醫ノ死亡屆書ヲ添ヘテ區長又ハ戸長ノ認許證ヲ乞フヘシ

醫師ノ治療ヲ受クルノ猶豫ナクシテ死亡シタルモノヲ埋葬又ハ火葬セント欲スルトキハ醫師ノ檢案ヲ差出シ區長又ハ戸長ノ認許證ヲ乞フヘシ

妊娠四ケ月以上ノ死胎ニ係ルトキハ醫師若クハ産婆ノ死産證ヲ差出シ區長又ハ戸長ノ認許證ヲ乞フヘシ

變死ニ係ルトキハ立會醫師ノ檢案書ニ檢視官ノ檢印ヲ乞ヒテ差出スヘシ

囚徒ノ死屍ヲ引取埋葬又ハ火葬セント欲スルモノハ獄醫ノ死亡證書寫ニ司獄

官ノ檢印ヲ乞ヒテ差出スヘシ

第十二條　區戸長ハ前條ノ屆書證書ヲ領收スルニアラサレハ埋火葬ノ認許證ヲ與フヘカラス

第十三條　管理者ハ葬主ヨリ領收シタル區戸長ノ認許證ヲ編纂シ毎三ヶ月所轄警察署ノ檢閲ヲ受ケテ之ヲ區役所又ハ戸長役場ヘ差出スヘシ

第十四條　管理者ハ墓地ノ繪圖及墓籍ヲ調製シ置クヘシ

第十五條　（此標準ニ據リ難キモノハ其事情ヲ具シ伺出ヘシ）

○內務省訓令訓第二七〇號　明治二十年三月廿六日

耕地宅地ニ非サル民有地ヲ傳染病墓地火葬場等ニ撰定ノ儀ハ自今經伺スルニ及ハス其廳府縣限リ處分ノ上報告例季報第三ニ依リ報告スヘシ

○內務省令第十一號　明治二十四年七月二十七日

第一條　刑死者ノ墓標ニハ氏名、法號、族籍、年齡、生死ノ年月日ヲ記入スルニ止メ他ノ事項ヲ記スルコトヲ得ス

其墓標ハ還骸埋葬地又ハ祖先塋域ノ外之ヲ建設スルコトヲ得ス異樣ノ墓標ヲ建設シ及文字ニ彩色ヲ施スコトヲ得ス

第二條　所轄警察署ノ許可ヲ得スシテ刑死者ノ爲メ公然祭祀ヲ行フコトヲ得ス

但親族ノ香花ヲ供スルノ類ハ此限ニ在ラス

第三條　刑死者ノ寫眞其他肖像ヲ公然陳列シ又ハ販賣スルコトヲ得ス

其他總テ刑死者ヲ賞揚哀悼スルコトヲ得ス

第四條　前各條項ニ違背シタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金若クハ十一日以上二十五日以下ノ輕禁錮ニ處ス

第五條　犯罪ニ關シ現ニ搜査、起訴、拘留、服刑中ノ者若クハ搜査、起訴、拘留、服刑中ニ死去シタル者及刑ヲ免レント欲シテ自殺シ或ハ犯罪現行ノ際殺害セラレタル者ニ付地方長官（東京府ハ警視總監）ハ安寧秩序ヲ保持スルニ必要ナリト認ムルトキハ特ニ命令ヲ下シ第一條第二條第三條ニ揭クル所爲ヲ禁スルコトヲ得其命令ニ違背シタル者ハ第四條ニ據リ處分ス

○內務外務兩省訓令訓第一一三號　明治二十二年二月廿五日

別紙外國人惡疫死體埋葬地取極及規則按下付候條右ニ基キ設置方各國領事ト協議ヲ遂ケラルヘシ若シ地方ノ情況ニ據リ埋葬地規則案第九條ニ揭タル金額ノ增減ヲ要スル見込アルトキハ豫メ申出ラルヘシ

（別紙）

某地外國人傳染病死屍埋葬地ニ關スル取極

外國人傳染病死屍埋葬ノ爲メ新ニ埋葬地ヲ設クルハ衛生上必要ナリト認メ日本政府ヨリ某地某町村ニ之ヲ設クヘキノ意旨ヲ通達セラレタルヲ以テ本官等其取極ヲ決定スヘキ相當ノ權限ヲ以テ茲ニ左ノ條々ヲ協議決定セリ

第一條　來ル何月何日ヨリ以後ハ虎列刺、疱瘡、發疹窒扶斯、腸窒扶斯、實布垤利亞、赤痢等ノ傳染病又ハ流行病ニ罹リ某地ニ於テ死去シ未タ火葬ヲ施サヽル外國人ノ死体ハ總テ某町村別紙圖面何印ノ地ニ新設シタル傳染病死屍埋葬地ニ埋葬スヘシ

第二條　右埋葬地及ヒ其地ニ往還スヘキ道路並ニ溝渠塀墻門關ハ此取極ニ添付シタル規則第九條ニ掲クル貸地料ノ外日本政府ヨリ租稅ヲ徵セスシテ使用セシムヘシ

右埋葬地ノ保存ハ日本政府ニ於テ之ヲ負擔シ其費用ノ賠償ヲ求メサルヘシ

右埋葬地既ニ塡塞シテ餘地ナキニ至リタルトキハ取極ニ準據シ日本政府ヨリ其地域ヲ取廣クルコトアルヘシ

第三條　船舶ヨリ傳染病死屍ヲ埋葬地ニ運搬スルノ際通常波止場ヲ經過セサラシムルカ爲メ日本政府ヨリ特ニ上陸場ヲ設クルコトアルヘシ

第四條　此取極ニ依テ設置シタル外國人傳染病死屍埋葬地ハ日本政府獨リ北海道（某府縣）廳ヲ經テ其監督ヲ行フヘシ

外國人ノ死屍ヲ埋葬スル一切ノ事件ハ此取極ニ準據シ若クシハ此取極ニ添付シタル規則ヲ以テ整理スヘシ

日本明治何年何月何日

西暦何年何月何日

北海道廳長官（某府縣知事）　各國領事

某地某町村外國人傳染病死屍埋葬地規則

第一條　日本明治何年何月何日西暦何年何月何日北海道廳長官（某府縣知事）氏名及ヒ條約各國領事ノ間ニ相定メタル取極ニ添ヘタル圖面中何印ノ場所ハ傳染病又ハ流行病ニ罹リタル外國人死屍埋葬ノ用ニ充ツヘシ

第二條　右圖面中何印ノ場所ハ外國人傳染病死屍埋葬地ト稱スヘシ

第三條　北海道（某府縣）廳ハ今後此外國人傳染病死屍埋葬地ノ道路塀墻及各人墓

所ノ位置ヲ明瞭ニ示スニ足ルヘキ埋葬地ノ圖面ヲ製シテ之ヲ保存シ且墓所ノ箇數ヲ算シテ簿冊ニ記入シ置クヘシ

第四條　屍体ヲ埋葬スルトキハ先ツ其關係人ヨリ死亡者ノ氏名國籍男女性及死亡ノ月日時並ニ原因ヲ具シテ警察署ニ届出ヲ警察署ハ之ヲ北海道(某府縣)廳ニ申出ヘシ右届書ニハ要スル所ノ墓地ノ等級ヲ記載シタル其國領事若クハ副領事又ハ領事ノ職權アル者ノ證明書ヲ添付スヘシ北海道(某府縣)廳ハ直ニ埋葬ノ準備ヲナシ且此規則第三條ニ從ヒ届書及ヒ證明書ニ記載シタル各條目ヲ登記スヘシ

第五條　埋葬ノ位置ハ北海道某府縣廳之ヲ指示スヘシ

第六條　墓所一箇所ノ坪數ハ幅五英尺長サ八英尺即チ四十方英尺ト定ムヘシ若シ餘分ノ地坪ヲ要シ其旨申立ルニ於テハ北海道(某府縣)廳ハ第九條ニ掲クル上等地區ニ限リ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第七條　死屍ハ總テ八英尺ヨリ淺カラサル地下ニ埋葬スヘシ

第八條　死屍ハ埋葬ノ前日本警察官若クハ相當ノ職權ヲ帶タル役員臨視ノ上其十分ト認ル消毒法ヲ施サシムヘシ

第九條　貸地料ハ左ノ規定ニ依リ埋葬ノ前北海道(某府縣)廳ニ之ヲ納ムルモノトス但上等地區ニ於テ餘分ノ地所ヲ要スル者ハ一方英尺ヲ加フル毎ニ金壹圓ヲ增加スヘシ

上等四十方英尺ニ付		貳拾圓
中等　右　仝　上		拾貳圓
下等　右　仝　上		六　圓

第十條　傳染病又ハ流行病ニ罹リタル死屍ハ第十一條ノ場合ノ外ハ發堀若クハ改葬スルヿヲ許サス

第十一條　日本政府ニ於テ公益ノ爲メ發堀若クハ改葬ヲ要スルトキハ死亡者所屬國ノ領事若クハ副領事又ハ領事ノ職權アル者ニ通知シタル後日本政府ノ費用ヲ以テ發堀改葬スヘシ

親戚故舊ニ於テ發堀若クハ改葬ヲ要スルトキハ其旨北海道(某府縣)廳ニ出願シ許可ヲ得タル後自費ヲ以テ發堀改葬スヘシ

發堀若クハ改葬ノ場合ニ於テハ日本警察官若クハ相當ノ職權ヲ帶タル役員臨視ノ上其十分ト認ムル消毒法ヲ施サシムヘシ

北海道廳長官(某府縣知事)
各國領事

○內務省訓令訓第三九七號　明治十九年六月八日

社寺佛堂之創立タル舊幕政之際ハ勿論維新後ニ在リテモ輕シク認許ヲ與ヘサリシニ近年ニ至リ著シク其數ヲ增加セリ且社格ヲ請フモノ亦比々トシテ絕ヘス依テ左ノ箇條ヲ標準トシテ一條二條五條ノ但書ニ該當スルモノヽ外ハ自今經伺ヲ要セス處分スヘシ

右訓令ス

(一乃至四ハ略之)

五　官有地ニ紀念碑建設セサル事

但國家ニ功勞アル者及頌揚スヘキ事蹟アルモノハ事由ヲ具シ伺出ヘシ

紀念碑ハ其人在世ノ功蹟ヲ頌揚シ公衆ノ感格ヲ生セシメ行爲ヲ勵マスヲ要トスルモノナルニ建碑出願ノモノ詩歌或ハ尋常履歷ヲ刻ミ一家ノ追慕ニ止リ一般公衆ニ影響セサルモノ多シ依テ本條ノ如シ

(參照)

○札幌縣伺　明治十七年十一月廿七日(電報)

當縣管內ニハ一郡又ハ數郡ニ一名ノ醫師ヨリ外ナキ所アリ實際差支ニ付乙第四十號御達第十一條第一項ハ右ノ地方ニ限リ從前ノ慣法ニヨリ戶長又ハ衞生委員ノ檢案書ヲ以テ埋火葬ヲ許シ可然哉

○內務省指令　明治十七年十二月四日

十一月廿七日埋葬取締規則ノ義ニ付電信伺ノ趣ハ聞屆タリ

○岐阜縣伺　明治十七年十月廿四日

夫妻ヲ同穴ニ埋ムル慣例アリ後ノ屍ヲ葬ムルニ際シ先死者ノ墓ヲ毀クニ似タレトモ從前ノ通黙許シ改葬ト看做サスシテ可然哉

○內務省指令　明治十七年十二月三日

伺之通

○島根縣伺　明治十八年一月廿二日電報

囚獄人ノ死亡等官署ノ執行ニカヽル埋火葬ハ戶長ノ認許證ヲ要セサルヤ御指揮ヲ乞フ

○內務省指令　明治十八年一月廿八日電報

一月廿二日付囚獄人ノ死亡等官署ノ執行ニ係ル埋火葬ノ儀ハ伺ノ通

○鹿兒島縣伺　明治十八年五月廿九日

標準第十一條ハ單ニ引取人有之ヒトノ手續ヲ示サレタルモノニ有之ヘク然ルニ引取人ナキ囚徒ノ死屍ニ係ルカ如キハ當該監獄署ニ於テ假埋葬ヲ執行スル義ニシテ敢テ取締上不都合ノ慮ハ無之候得共其第十四條ニ於テ管理者ハ墓地ノ繪圖及墓籍ヲ調製シ置クベシト有之上ハ假令官署ニ於テ埋葬スルモ管理者ニシテ之ヲ知ラサルカ如キハ甚ダ不都合ノ義ト考量セラレ候ニ付至急何分ノ御指揮ヲ仰候也

○内務省指令　明治十八年九月十六日

書面伺之趣死者ノ屬籍氏名等ヲ該管理者ヘ通知シ置ク義ト心得ヘキ事

○内務省衛生局ヨリ山形縣ヘ回答　明治十八年十二月廿八日

健第二十四號ヲ以テ十七年當省乙第四十號墓地及埋葬取締細則第四條ニ付云々御申越之趣了承右墓地ノ周圍ニ樹木ヲ栽植スルハ第一空氣ヲ清淨ニシ地下ニ分解セル物質及溫氣ヲ吸收シ土地ノ硬度ヲ變シ且ツ乾濕ヲ變スルト第二土地及地水ヲ不潔ナラシメサルト第三其土地ニ下等機物ノ繁殖ヲ妨クルニアリ而ノ又墓地内ニ一丈以上ノ塀墻ヲ存セシメザルハ日光ヲ蔽遮シテ土地ノ乾燥ヲ妨クルト大氣ノ流通ヲ支フルノ害アル爲ニ設ケラレタル義ニ有之候條右樣御了知相成度此段及御回答候也

○警視廳伺　明治十九年三月廿四日

墓池ノ義ニ付明治八年一月東京府ヨリ御省ヘ上申之末同六月廿一日付ヲ以テ該府ヘ御指令但書ニ據ルトキハ火葬ノ還骨ニアラサレハ舊朱引内墓地ヘ座埋不相成義ニ候得共埋葬後既ニ五十年ヲ經過セシ枯骨ハ衛生上障害無之趣ニモ相聞ヘ候ニ付右枯骨ニ依リ火葬之還骨同樣舊朱引内墓地ヘ改葬差許シ不苦候哉

○内務省指令　明治十九年四月卅日

書面伺之趣舊朱引内墓地ヘ枯骨改葬之義ハ難聞屆候事

○石川縣伺　明治二十年四月十四日

當縣下私立英語學校教師ニ傭聘セシ外國人ノ中曾テ本國ニ於テ醫學ヲ修メシモノ内國患者ノ要メニ應シ施療終ニ死亡ニ至リ規則ニ據リ其死亡證ヲ請ヒ受ケ屆出タル者アリ右ハ明治十三年七月廿四日東京府伺御指令之通一般開業醫之診斷書同樣ニ見做シ可然哉

○内務省指令　明治廿年五月八日

書面伺之趣一般開業醫師同樣ノ診斷書ト見做シ難キ儀ト可心得事

○長崎縣伺　明治二十一年二月九日

墓地及埋葬取締規則第二條第四條第七條ノ事項ハ本規則ニ依リ警察署ニノミ爲取扱來候處方今分署長ハ警部以上ヲ以テ之ニ充テ置候ニ付警察署同樣爲取扱度此段相伺候也

○内務省指令　明治二十一年三月二日

伺之通

○群馬縣伺　明治二十一年三月二日

標準第十一條第三項ニ嬰兒四ケ月以上ノ死体ヲ埋葬スル制裁有之モ未タ四ケ月未滿ニ係ル死胎ヲ埋葬スルノ制無之然ルニ茲ニ四ケ月未滿ニシテ略人体ヲ作爲シ流産ナシタル胎兒ヲ其父ニ乞受ケ藥品ニ浸シ永ク貯藏以テ醫學上研究ノ材料ニ充テン爲メ兒父連署出願ノ醫師アリ右ハ其事實ヲ調査シ允許ヲ與フヘキ哉將タ死兒ノ父兄ト醫師トノ間ニ於テ熟談ヲ遂ケタル上ハ自由ニ任セシムルモ不苦候哉

○内務省指令　明治二十一年三月二十六日

後段伺之通

○新潟縣伺　明治廿一年十一月二十六日

明治六年十月第三百五十五號公達以前耕宅地中ニ設置セシ一己人私有ノ墓地ニシテ地租改正ノ際地券面田畑宅地等ノ外書或ハ別筆トシ下付シタル墓地ヘ共葬墓地同樣新タニ埋葬セシムルハ取締上不都合ナルハ勿論明治十七年十月第廿五號布達墓地及埋葬取締規則ノ精神上ヨリ論究スルモ之ヲ許サヽルノ法意ト思考候得共法律ニ明文無之目下差掛リタル義有之ニ付相伺候條至急何分ノ御指揮相成度候也

○内務省指令　明治廿二年一月廿一日

客年十一月廿六日第七百七十號伺一己人私有墓地ノ件

一　區域ヲ爲シタル墓地ニシテ尚埋葬スヘキ餘地アルモノハ其餘地ニ限リ埋葬爲致苦カラス

但國縣道鐵道大川ニ沿ヒ又ハ飲用水ニ障碍アルモノ及人家ヲ距ル六十間以内ノモノハ此限ニアラス

○山口縣伺　明治二十三年一月十三日

死屍ヲ墓地外ニ埋葬シタルモノアリ遞警罪ヲ以テ之ヲ處分シ更ニ之カ改葬ヲ命スルモ肯セサルトキハ官ニ於テ之ヲ執行シ其費用ヲ徵收スルハ勿論ノ儀ト存候然ルニ其者無資力ニシテ到底完納シ能ハサルトキハ其費用ハ如何ニシテ支辨スヘキヤ右ハ埋葬ノ一事ニ止マラス他ニ此等ノ類例モ有之疑義難決ニ付仰御訓令候也

○内務省指令　明治二十三年四月廿六日

本年一月十三日警第六號請訓死屍改葬費ノ件地方稅救育費ヨリ支辨スヘシ

○警保局長通牒　明治廿四年八月六日

外國人埋葬ノ件長崎縣知事伺ニ對シ外務内務兩大臣ヨリ別紙甲號ノ通リ指令相成且外務省取調局長并ニ本官ヨリ乙號ノ通牒致候條爲御心得別紙及送付候也

甲號

○長崎縣伺　明治廿四年七月十日

特別輸出港口ノ津ニテ病死セシ外國人ハ通常墓地ニ傳染病ニテ死亡セシモノハ其墓地ニ埋葬セシメ可然儀ト存スレ氏念ノ爲メ伺置

○外務內務兩省指令　明治廿四年七月十五日

本月十日附電報伺特別輸出港ニテ病沒セシ外國人其地ノ墓地ニ假埋葬セシムルハ妨ナシ

（乙號）

○警保局長及取調局長ヨリ通牒　明治廿四年七月十五日

本年七月十日後三時發電報ヲ以テ特別輸出港口ノ津ニテ病死セシ外國人埋葬ノ件御伺出相成旣ニ指令濟ニ有之候處元來共有墓地ニ於テハ縣廳限リ當然埋葬ノ可否ヲ與ヘ候ハ穩當ナラサル儀ニ付町村ノ承諾ヲ經テ處分スル樣相成度又右埋葬シタル死屍ハ日本政府ノ許可ヲ經スシテ發堀又ハ改葬スル等ノ事決シテ無之旨關係人ヨリ契約ノ書面取置カレ候樣相成度此段及通牒候也

○熊本縣知事伺　明治三十年一月十八日

當地ニテ病死セシ外國人ヲ地元町村承諾ノ上共同墓地ニ埋葬スルハ差支サルヤ差掛タル件アリ直ク御指令ヲ請フ

○內務外務兩大臣指令　明治三十年一月廿二日

外國人死屍埋葬方ノ件ハ墓地規則ノ各項ヲ遵奉スル旨ノ書面ヲ市町村長ニ於テ徵シタル上ハ差支ナシ

○大分縣伺　明治二十六年八月二十八日

至尊名彫刻ノ石碑建設ノ義ニ付伺

縣下下毛郡中津町加來政市ヨリ　至尊名ヲ彫刻セシ石碑建設ノ義出願ニ付調査候處別段差支ノ廉モ無之見込ニ候條特ニ聽許致度此段相伺候也

○內務省指令　明治二十六年九月三十日

至尊名彫刻石碑建設ノ件聞屆ケ難シ

○兵庫縣伺　明治二十六年三月八日

縣下津名郡町村長及吏員總辭職ノ役場ニ限リ代理者定マルマテニ若シ死亡人アルトキハ埋火葬認可證ハ隣保二名ノ證明ヲ取リ郡長ヨリ下付爲致タシ直グ御指揮ヲ請フ

○內務書記官通牒　明治二十六年三月十日

埋火葬認許證ノ義ニ付伺出ノ件ハ伺ノ通御處理相成可然別段指令相成ラス

○佐賀縣伺　明治二十六年六月二十一日

官沒品處分方ニ付伺

佐賀地方裁判所檢事局ヨリ官沒品引繼ノ內墳墓發掘事件ニ係ル官沒ノ人骨之マテ當地病院ヘ保管預ケ致置候處右ハ通常物品同樣公賣スヘキモノニ無之ニ付テハ幸ヒ佐賀市共同墓地有之義ニ付協議ヲ遂ケ右墓地ヘ埋葬取計可然哉果レテ然リトセハ右ニ要スル費用ハ廳費中相當科目ヲ以テ支辨候義ト心得可然ヤ右ハ類例モ無之義ニ付相伺候也

○內務省指令　二十六年九月二十二日

伺之通

○山形縣伺　明治廿八年一月十一日

縣下米澤市ニ於テ舊藩時代ニアリテ刑場ニ借用シタル地所ヲ開墾セシニ人骨數多發見シ其中ニ完備ナルモノヲ醫學攻究上保存致度旨申出ルモノ有之右ハ明治十四年一月廣島縣伺ニ對シ御指令ノ趣モ有之候得共是トハ稍々異ナル事情アリテ墓地ヲ發掘スルニモアラサレハ其保存ノ方法ニ於テ風紀ヲ害スルノ虞ナキトキハ差許不苦哉至急御指揮相成度此段相伺候也

○內務省指令

本年一月十一日付警外第一四號伺人体骨格保存ノ件ハ其目的醫學講究ニアリテ眞確ニ保存ヲ爲スモノナリト認ムルトキハ伺之通

○法律第二十七號　明治三十年三月三十日

阿片法

第一條　阿片ヲ製造セムトスル者ハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

第二條　阿片製造人ハ毎年十二月二十日迄ニ其ノ製造シタル阿片ヲ政府ニ納付スヘシ

前項ノ阿片ハ政府ニ於テ試驗ヲ施シ其ノ莫兒比涅含量所定ノ度ニ適スルモノニハ賠償金ヲ交付シ其ノ不適品ハ無償ニテ燒却ス

第三條　阿片ハ政府ニ於テ醫藥用品ニ限リ封緘ヲ施コシ之レヲ賣下クルモノトス

政府ノ賣下ケタル阿片ノ外ハ賣買授受所有又ハ所持スルコトヲ得ス

第四條　第二條ニ依リ賠償金ヲ交付スヘキ阿片ノ莫兒比涅含量及賠償金額竝ニ

第三條ニ依リ賣下クヘキ阿片ノ價格ハ内務大臣之ヲ告示ス

賠償金ヲ交付スヘキ阿片ノ莫兒比涅含量ヲ增加シ又ハ賠償金額ヲ低減セムトスルトキハ一箇年以前ニ告示スヘシ

第五條　阿片ハ地方長官ヲシテ其ノ管内藥劑師藥種商中相當ノ人員ヲ限リ卸賣人ヲ指定シテ賣下ケシム

第六條　醫師及藥品營業者ニ於テ阿片ヲ要スルトキハ數量並ニ住所氏名年月日ヲ記シ調印シタル證書ヲ以テ卸賣人ヨリ購求スヘシ

醫師及製藥者ハ阿片ヲ藥劑師藥種商ヨリ購求シ又ハ藥劑師藥種商互ニ之ヲ賣買スルコトヲ得此ノ場合ニハ前項ノ證書ヲ以テスヘシ

第七條　阿片ハ前條ノ外醫師ノ處方箋ヲ以テスルニ非サレハ賣買スルコトヲ得ス

藥劑師ハ政府又ハ他ノ藥劑師ニ於テ封緘シタル容器ヲ開キテ阿片ヲ零賣スルコトヲ得此ノ場合ニハ適當ノ容器ニ納メ之ヲ封緘スヘシ

藥種商ハ卸賣人タルト否トヲ問ハス政府又ハ藥劑師ニ於テ封緘シタル容器ヲ開キテ零賣スルコトヲ得

第八條　處方箋並ニ第六條ノ證書ハ其ノ日付ヨリ滿十箇年間之ヲ保存スヘシ

第九條　地方長官ノ許可ヲ受ケスシテ阿片ヲ製造シタル者又ハ第三條第二項ニ違背シタル者ハ百圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條　地方長官ノ許可ヲ受ケスシテ製造シタル阿片又ハ政府ノ賣下ケタルニ非サル阿片ハ之ヲ沒收ス

第十一條　第二條第一項ニ違背シタル者ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條　第七條第八條ニ違背シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條　阿片製造人又ハ阿片卸賣人此ノ法律又ハ其ノ施行ニ關スル規則ニ違背シタルトキハ地方長官ハ其ノ許可又ハ指定ヲ取消スコトヲ得

附

第十四條　此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

第十五條　此ノ法律施行ノ日現ニ阿片製造人タルノ許可ヲ有スル者ハ第一條ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

第十六條　此ノ法律施行以前地方廳ニ預リ置キタル阿片ハ之ヲ燒却ス

第十七條　明治十一年布告第二十一號藥用阿片賣買竝ニ製造規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

○内務省令第四號　明治三十年三月三十日

阿片法施行規則

第一條　阿片製造人阿片ヲ納付セントスルトキハ納付書ニ阿片ノ量目ヲ記シ現品ヲ添ヘ地方廳ヲ經テ内務省ニ申出ツヘシ但現品ニハ量目及本人ノ住所氏名ヲ記シタル木札ヲ付スヘシ

地方廳ニ於テ前項ノ納付書ヲ受ケタルトキハ現品ハ最寄衞生試驗所ニ送致シ納付書ハ其ノ旨ヲ付記シテ内務省ニ進達スヘシ

衞生試驗所ニ於テ前項ニ依リ阿片ノ送致ヲ受ケタルトキハ試驗ヲ施シ其成績ヲ内務省ニ報告スヘシ

但五匁未滿ノ納付品ハ試驗ヲ施スニ及ハス

第二條　政府ニ於テ賣下クル阿片ノ容器ハ一匁入十匁入五十匁入ノ三種トシ毎器衞生試驗所ノ印紙ヲ以テ封緘スルモノトス

第三條　阿片卸賣人ハ政府ノ會計年度ニ依リ（以下年度トアルモノ皆是ニ倣ノ）半年度毎ニ拂下ケヲ受クヘキ阿片ノ數量ヲ豫算シ容器ノ種類員數ヲ記シ之ヲ地方廳ニ請求スヘシ但缺乏ノ節ハ臨時請求スルコトヲ得

第四條　阿片卸賣人ハ其ノ店頭ニ阿片卸賣所ト書シタル看板ヲ揭クヘシ

第五條　阿片製造人及阿片卸賣人族籍住所氏名ヲ變換スルカ又ハ廢業若クハ死亡シタルトキハ十日以内ニ地方廳ニ屆出ツヘシ

阿片製造人及阿片卸賣人廢業シタルトキ又ハ死亡シ相續者其ノ業ヲ繼カサルトキハ既製ノ阿片及販賣殘餘ノ阿片ハ前項ノ期日内ニ納付シ又ハ買戻ヲ請求スヘシ但販賣殘餘ノ阿片ハ本條ノ期日内ニ同業者ニ讓渡スコトヲ得

第六條　第五條ノ屆出納付及買戻ノ請求ハ死亡ノ場合ニ於テハ戸主之ヲ爲スヘシ戸主未定又ハ不在ナルトキハ死者ノ相續者相續者未定又ハ不在ナルトキハ其財産ヲ管理スル者之ヲ爲スヘシ

第七條　地方廳ニ於テハ阿片卸賣人ヲ指定シ又ハ指定ヲ取消シタルトキ及卸賣人住所氏名ヲ變換シ又ハ廢業若クハ死亡シタルトキハ其ノ住所氏名ヲ管内ニ告示シ同時ニ内務省ニ報告スヘシ

第八條　藥劑師藥種商ハ御賣人タルト否トヲ問ハス阿片ノ受拂高並仕入元賣渡人ノ住所氏名年月日ヲ簿記シ十年間之ヲ保存スヘシ但藥劑師ニ於テ醫師ノ處方箋ニ依リ患者ニ與フルモノハ本條ノ簿記ヲ要セス

第九條　阿片御賣人ハ毎年度ノ阿片受拂表正副二通ヲ製シ年度後一箇月以内ニ地方廳ニ差出スヘシ

第十條　第四條第九條ニ違反シタル者ハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十一條　第五條第八條ニ違反シタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第十二條　此ノ規則ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

○司法省達番外　明治九年四月　東京上等裁判所　神奈川裁判所

神奈川縣伺香港ヨリ桑港ヘ相越候清國人鴉片煙携持上陸ノ者處分方ノ儀ニ付別紙之御達有之候條此旨爲心得相達候事

（別紙）司法省ヘ達　明治九年三月二十九日

別紙神奈川縣伺香港ヘ相越候清國人中鴉片煙携持上陸ノ者處分方ノ儀朱書ノ通及指令候條此旨爲心得相達候事

神奈川縣伺　明治九年三月十日付

香港ヨリ桑港ヘ相越候清國人中鴉片烟携持上陸ノ者處分方伺

是迄香港ヨリ桑港ヘ往來候外國郵船本港ヘ滯泊候節乘客中ノ清國人間々鴉片烟並吸烟器具ヲ携ヘ上陸候者有之取押候ヘハ直ニ裁判官ヘ交付致シ來候ヘトモ審問次テ處刑ニ及フ數日ニ渉リ解纜ノ期ニ後レ旅費等ニ乏シキハ進退スル能ハサルニ到ル輩モ有之哉ニ相聞甚憫然ノ次第ニテ元來彼等者本港ヘ居住スヘキノ目的ニ無之全ク桑港ヲ指シ渡航致シ一時本船滯泊中上陸致シ候儀ニテ假令嗜烟ノ癖有之者共ナリトモ我國民ヘ流毒候程ノ儀ニモ無之鴉片ノ儀ニ付別紙（略ス）ノ通同國人ヘ御達有之同書中斷然嗜癖ヲ絶テ嚴禁ヲ守リ候者ハ格別其儀不能者ハ速ニ立去リ歸國可致云々ト有之旁爾來右等ノ者ヲ取押候節ハ篤ト取糺ノ上全ク桑港ヘ相越候途中ノ趣判然候ヘハ一時警察署ヘ拘留本船解纜スルノ際巡査ヲ以テ本船ヘ渡送爲致拔錨迄見屆ケ置候事ニ取扱申度此段相伺候也

（朱書）明治九年三月二十七日

伺之通

○外務省達報第十六號　明治十一年九月二十四日

開港開市場在留清國人民ノ義鴉片輸入候ハ嚴禁ニ付輸入ハ勿論居留館内タリトモ阿片ヲ製シ吸喫不相成儀ニ候得共萬一窃ニ右禁令ヲ犯シ候節税館關係ノ分ハ同館ニテ處分可致旣ニ僥免通關或ハ私ニ自製ノ分取締方ハ地方ノ警察官ニテ專ラ左ノ條々ニ注意シ犯則ノ者ハ清國領事ヘ引渡處分ヲ求ムヘシ

一清民鴉片ヲ吸喫スルノ現行ヲ確ト認ムル時ハ其居室中ニ在ル者ト雖モ直ニ立入リ之ヲ差押ヘシ若其形跡疑似ニシテ現行ト確認スル能ハサル時ハ其實證ヲ得ルヲ竢ツヘシ濫リニ彼レノ房室内ニ立入リ疑似ノ形跡ヲ見咎ムルヲ許サス

一吸烟ノ事證現行ヲ見認メタルニ非ラサルモ他ノ事緒ヨリ其確證ヲ得タル時ハ其者ヲ差押ヘシ尤モ何レモ直ニ其始末ヲ概陳シ清國領事ニ該犯ヲ引渡シ處分ヲ求ムヘシ

一右清民果シテ喫烟犯罪タルニ決スル上ハ清國領事直ニ(便船次第)之ヲ其本國ヘ追還シ再度日本ヘ渡來ヲ許サヽル約束也若該犯再度渡來スルカ或ハ甲港ノ犯人乙港ヘ來ルトキハ警察官之ヲ見掛ケ次第直ニ之ヲ捕縛シ領事ヘ引渡スヘシ

領事ハ之ヲ相當ニ處罰スル約束也然レトモ該犯人ヲ確認スル亦容易ナラス過ツテ疑似ノ者ヲ再渡ト見做シ捕縛ニ及テハ事端ヲ釀生スル義ニ付能々注意シテ過擧ナキヲ要ス

一吸烟器具ヲ所持スル者ハ吸烟ノ現行ニ非ラサルモ其器具ハ一應取揚領事ノ裁判ヲ經タル后彌吸烟器具ニシテ他ニ轉用スヘカラサル物品ナル時ハ之レヲ取揚滅却スヘシ若其器具吸烟ニモ用ユヘク他ノ事ニモ用ユヘキ物品ハ强テ之ヲ純粹ノ吸烟器具ト見做スヘカラス故ニ最初ヨリ取揚ケント企テサルヲ可トス

一以上犯則ニ付我警察官清民ヲ捕捉スルハ事機切迫逃脫ヲ恐ルヽ時ニ限ルヘシ

若シ餘裕アラハ其顚末ヲ領事ニ密告シ彼レノ手ヲ以テ捕捉セシムヘシ

○內務省令第四號　明治廿二年三月廿七日

藥品巡視規則左ノ通之ヲ定メ明治廿三年三月一日ヨリ施行ス

藥品巡視規則

第一條　衞生官吏警察官吏及ヒ藥劑師ヲ以テ監視員ト爲シ藥局及ヒ藥品ヲ販賣又ハ製造スル場所ヲ巡視セシムヘシ

第二條　監視員藥局ヲ巡視スルトキハ左ノ各項ヲ檢査スヘシ

一　藥品

二　藥品營業並藥品取扱規則第十二條第十三條第廿八條第廿九條第三十六條第三十七條ノ事項

三　調劑錄

第三條　監視員藥品ヲ販賣又ハ製造スル場所ヲ巡視スルトキハ左ノ各項ヲ檢査スヘシ

一　藥品

二　藥品營業並藥品取扱規則第廿二條第廿八條廿九條第三十六條第三十七條ノ事

第四條　監視員ハ公私立病院及醫師ノ調劑所ニ臨ミ藥品ヲ檢査スルコトアルヘシ

第五條　第二條第三條ノ外ニ於テ藥品ヲ貯藏スル場所アレハ其場所ニ就キ檢査スルコトアルヘシ

第六條　巡視ノ期日ハ豫メ告示セス其時間ハ午前八時ヨリ午后五時迄ノ間ト

ス

第七條　監視員ハ必要量ノ藥品ヲ携歸シテ檢査スルコトアルヘシ

第八條　監視員ノ檢査ニ消費シタル藥品ハ其代價ヲ請求スルコトヲ得ス

○內務省訓令第三十八號　明治廿二年九月廿六日

明治廿二年三月法律第十號監視員ノ巡視ハ同年同月當省令第四號ニ依リ其廳ニ於テ施行シ且右ニ係ル費用監視員ノ俸給及藥種商製藥者鑑札製作費ハ其廳經費定額內ヲ以テ支辨スル儀ト心得ヘシ旅費日當共

但監視員ノ携帶スヘキ證票ハ左ノ雛形ニ準シ其廳ニ於テ交付シ尙ホ之ヲ管內ニ告示スヘシ

紙製　曲尺二寸二分

表

藥品監視員之證

裏

廳府縣名

廳印

○内務省達甲第二號　明治十八年一月二十八日

警視廳　府縣

傳染病豫防消毒法ノ儀ハ追々相達置候處明治十三年當省乙第三十六號ヲ以テ更ニ豫防心得書相達候ニ付テハ從前ノ豫防法ハ總テ消滅ニ屬シ候條右達ニ據リ調製シタル消毒藥ハ同年第二十三號布告ニ準據シ販賣セシムヘキ儀ト可心得此旨相達候事

○布告第二十三號　明治十三年五月十五日

石炭酸其他劇藥ハ本年一月第一號布告藥品取扱規則第四條ニ照シ可取扱ノ處傳染病流行ノ際ハ内務省布達ニ從ヒ消毒藥ニ調製候分ニ限リ藥舗ニ於テ販賣差許候條販賣望ノ者ハ管轄廳ニ可願出此旨布告候事

○布告第百四十二號　明治五年五月

鼠取或ハ蠅取藥ト唱ヘ礬石ノ類ヲ調合致シ世間ニ賣買致シ來候處自今令禁止候事

○内務省達乙第三十五號　明治十一年四月十八日

府縣

近年アニリン其他鑛屬製ノ繪具染料ヲ以テ飲食物ニ着色スルモノ不拘趣ニ候處右ハ自然人身ノ健康ヲ害スルハ勿論中ニハ甚シキ中毒ニ罹リ忽地ニ非命ノ横夭ヲ致スモノモ有之候危險ノ至ニ候條各地方廳ニ於テ注意取締可致此旨相達候事

追テ地方慣用ノ品ニヨリ毒性分ノ有無判然難致モノハ其原物相添當省衛生局ヘ照會試驗ヲ受可申事

○内務省達乙第三十六號　明治十年三月廿二日

府縣

從來燐製ノ鼠取藥ヲ以賣藥トナシ候儀聞屆鑑札下渡候向有之候處右ハ毒藥ニテ到底民間誤用之虞ナキヲ免レス殊ニ本年太政官第二十號毒劇藥取扱規則公布相成取締上ニモ關係候ニ付自今一切禁止候條右營業者有之府縣ハ此旨相達速ニ鑑札返納可取計此旨相達候事

但請賣業ノモノモ同樣賣藥規則ニ照シ禁止之處分可相達候事

○内務省達乙第百拾七號　明治十年十二月廿八日

便所下水芥溜ノ構造及掃除ノ不行屆ヨリ其不潔物自然飲水ニ混シ各種流行病ノ原トナルモノ不尠就中虎列刺之病毒ハ永ク吐瀉物中ニ存シ土中ニ滲透シテ遂ニ飲水ニ混シ人身ニ入ルヲ以テ流傳ノ要路トナスカ故ニ本年虎列刺病有之地方ニ於テハ冬日冱寒之時ニ乘シ便所下水芥溜等（井水近圍ニアルモノハ殊更ニ注意ヲ要ス）各地ノ便宜ニ從テ修繕淨除ノ方法ヲ設ケ該毒再萌ノ豫防精々注意可致其他ノ地方モ豫テ管下人民ニ告諭シ漸次行屆候樣注意可致此旨相達候事

追テ本文施行ノ方法ハ當省ヘ可屆出且右費用之儀ハ本年當省第九十七號達臨時費目ニ不相立候條官民ノ區別ヲ立テ該廳限リ適宜可取計事

府縣　東京警視「本署」

○内務省達乙第二十六號　明治十一年三月十四日

昨年十二月乙第百十七號ヲ以テ下水便所芥溜掃除ノ儀相達候處下水ヲ浚ヘタル淤泥並塵芥ヲ市街ノ傍ニ堆積シ及市街ノ道路修繕ニ供シ候テハ却テ危害ヲ釀シ候條可成市外人家遠隔ノ地ニ搬出候樣措置可致此旨爲心得更ニ相達候事

府縣　東京警視「本署」

追テ人家隔リタル田畑ノ培養ニ供シ候儀ハ不苦候事

○内務省達甲第廿五號　明治十一年九月二十日

近年製氷營業人不潔ノ氷ヲ製シ候者有之不都合ノ儀ニ付自今右營業ノ者ハ毎年製造ノ節並ニ翌年發賣ノ節共前以管轄廳（東京府下ハ「東京警視本署」）ヘ伺出檢査ヲ受候樣可致此旨布達候事

府縣

○内務省達甲第七號　明治十八年三月二十三日

入齒々拔口中療治接骨等營業之者ハ明治十六年第三十四號布達ニ據リ醫術開業試驗ヲ經ルニ非サレハ新規開業不相成候條從來ノ營業者ハ此際各地方廳ニ於テ鑑札ヲ付與シ相當ノ取締法相立可申此旨相達候事

但既ニ取締法相設居候向ハ更ニ本文之手續ヲ爲スニ及ハス

府縣

○内務省達甲第十號　明治十八年三月廿五日

鍼灸術營業者ノ義ハ從來開業ノ者幷ニ新規開業セントスル者ハ自今出願セシメ

其修業履歷ヲ檢シ相當ト認ムルトキハ差許不若其取締方ノ儀ハ便宜相設可申此旨相達候事

但既ニ營業差許タルモノハ更ニ出願セシムルニ及ハス

第四十三章　營業

○法律第十三號　明治二十八年三月二日

古物商取締法

第一條　古物商トハ主トシテ一度使用シタル物品若ハ其ノ物品ニ幾部ノ手入ヲ爲シタルモノヲ賣買交換スルヲ以テ營業ト爲ス者ヲ云フ

第二條　古物商ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ其ノ物品ノ種類ヲ定メ行政廳ノ免許ヲ受クヘシ

第三條　古物商ハ免許ヲ受ケタル行政廳ノ管轄內ニ店舗ヲ設ケタルトキハ其ノ旨行政廳ニ屆出ツヘシ

第四條　免許ヲ受ケタル行政廳ノ管轄以外ノ地ニ於テ營業所又ハ店舗ヲ設ケムトスルトキハ更ニ其ノ地行政廳ノ免許ヲ受クヘシ

管轄以外ノ地ニ於テ營業所又ハ店舗ヲ設クルニ非スシテ賣買若ハ交換シタルトキハ古物商ニ非サル者ヨリ買受ケ若ハ讓受ケタル場合ニ限リ其ノ品目ヲ其ノ地ノ行政廳ニ屆出ヘシ但シ官衙公署ノ公賣品及質業者ヨリ買受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五條　左ニ記載シタルモノニ關スル規定ハ別ニ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

一　古物ノ市場、行商、露店及糴賣

二　刀劍又ハ之ヲ仕込ミタル器具其ノ他危險ノ虞アル物品ノ賣買交換

第六條　古物商物品ヲ買受ケ若ハ交換セムトスルトキハ賣主、讓渡主ニ於テ其ノ物品ヲ處分スルノ權利ヲ有スルコトヲ確認シタル後之ヲ爲スヘシ若不正品ノ疑アルトキハ直ニ警察官ニ申告スヘシ

第七條　住所、氏名ノ詳ナラサル者ヨリ物品ヲ買受ケ又ハ交換スルコトヲ得ス但

シ住所、氏名ノ詳ナル者其ノ證人タルトキ又ハ警察官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條　傳染病毒ニ汚染シタル物品ナリト認ムルモノハ消毒シタル後ニ非サレハ之ヲ買受ケ又ハ讓受クルコトヲ得ス

前項ノ物品ニシテ警察官ニ於テ未タ消毒セサルモノト認ムルトキハ直ニ消毒法ヲ施サシム其ノ命ニ從ハサルトキハ之ヲ官沒ス

第九條　贓物ニシテ特ニ識別シ得ヘキ物品ニ限リ警察官ハ品觸ヲ發スルコトヲ得

第十條　贓物ノ品觸アルトキハ到達シタル年月日ヲ其ノ品觸寫書ニ附記スヘシ

品觸到達以後六箇月內ニ品觸ニ相當スル物品ヲ買受ケ又ハ交換シ若ハ寄藏ヲ受ケ若ハ其ノ以前ニ之ヲ得タル儘所持シタルトキハ直ニ警察官ニ屆出ヘシ

第十一條　古物商物品ヲ賣買シ若ハ交換シタルトキハ其ノ物品及賣主、讓渡主ヲ帳簿ニ記載シ又買主、讓受主ヲ詳ニスルコトヲ得タルトキハ之ヲ記載スヘシ

其ノ他帳簿ニ關スル規定ハ別ニ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第十二條　物品ノ賣買交換ヲ記載シタル帳簿ヲ廢棄セムトスルトキハ警察官ノ許可ヲ受クヘシ

第十三條　警察官ハ犯罪ノ嫌疑アル物品若ハ遺失物又ハ傳染病毒汚染ノ物品アリト認ムルトキハ何時タリトモ物品及帳簿ノ檢査ヲ爲シ時宜ニ依リ其ノ物品ヲ差押ヘ又ハ帳簿ヲ差出サシムルコトヲ得

警察官ニ於テ物品ヲ押收シタルトキハ領置證書ヲ交付スヘシ

第十四條　古物商法律命令ニ違犯シ行政廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ其ノ營業ヲ禁止若ハ停止スルコトヲ得

禁止及停止ノ效力ハ全國ニ及フ

第十五條　禁止ノ處分ヲ受ケタル者ハ他人ノ名義ヲ以テ古物商營業ヲ爲シ又ハ古物商ノ代理人タルコトヲ得ス停止ノ處分ヲ受ケタル者其ノ期限內亦同シ

第十六條　行政廳ハ何時タリトモ營業禁止ヲ解クコトヲ得

第十七條　古物商ノ買受ケ又ハ交換シタル物品ニシテ遺失物若ハ贓物ニ係ルトキハ營業者ヨリシタルト否トヲ問ハス警察官ニ於テ之ヲ徵收シ被害者ニ還付スルコトヲ得若被害者知レサルトキハ徵收シタル日ヨリ二箇年ノ後官沒スルコトヲ得

第十八條　他ノ營業者ニシテ隨時其ノ營業ニ屬スル古物ヲ賣買交換シ特ニ此ノ法律ヲ適用スルノ必要アルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條　左ニ揭クル諸項ノ一ニ該當スル者ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第十三條ノ場合ニ於テ虛僞ノ陳述ヲ爲シ又ハ故意ニ物品帳簿ヲ毀損亡失シタル者

二　第二條ノ免許ヲ受ケスシテ營業ヲ爲シタル者

三　禁止又ハ停止中營業ヲ爲シタル者

四　第十五條ニ違犯シタル者

第二十條　第三條、第四條、第六條、第七條、第八條、第十條、第十一條及第十二條ニ違犯シタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條　此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヰス

第二十二條　營業上ニ付テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖營業者其ノ責ニ任ス

第二十三條　此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル細則ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

第二十四條　此ノ法律ハ明治二十八年九月一日ヨリ施行ス但シ沖繩縣ニ施行セス

第二十五條　明治十六年第五十號布告古物商取締條例ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

○內務省令第八號　明治二十八年七月二十六日

古物商取締法細則

第一條　古物商取締法及此ノ細則ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ東京府ニ於テハ警視總監北海道ニ於テハ北海道廳長官其ノ他ノ府縣ニ於テハ知事之ヲ行フ

警視總監、北海道廳長官、府縣（東京府ヲ除ク以下之ニ倣フ）知事ハ前項ノ職權ヲ警察署長、警察分署長、島司、地役人若クハ名主ニ委任スルコトヲ得但シ營業ヲ禁止若クハ停止シ又ハ營業ノ禁止若クハ停止ヲ解クノ處分ハ此ノ限ニ在ラス

第二條　左ノ營業者ニシテ隨時其ノ營業ニ屬スル古物ヲ買賣交換スルトキハ古物商取締法及此ノ細則ヲ遵守スヘシ

呉服商　金物商　袋物商　小間物商

鼈甲商　時計商　飾商　書籍商

其ノ他廳府縣令ヲ以テ定メタル商業

第三條　二箇以上ノ營業所又ハ店舗ヲ設クルトキハ營業主自ラ之ヲ管理スルモノヽ外ハ管理人ヲ定メ其ノ地行政廳ニ届出ヘシ

第四條　營業ノ廢止營業所又ハ店舗ノ閉鎖、移轉營業者及後見人ノ族籍、住所、氏名ノ異動、管理人ノ變更及後見人ヨリ營業者ノ死亡ハ相續人ヨリ行政廳ニ届出ヘシ

但シ死亡者非戸主ナルトキハ其死亡ハ戸主ヨリ届出ヘシ

後見人ニ因リ營業ノ免許ヲ願出又ハ後見人ノ變更ヲ届出ルニハ其ノ後見ニ關シ市町村長又ハ區戸長ノ證明書ヲ添付スヘシ

第五條　古物商取締法第三條第四條第二項及前第二條ノ届出ハ事實ノ生シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ但シ古物商取締法第四條第二項ニ依リ品目ノ届出ヲ要スル物品ヲ其買受ケ若クハ讓受ケタル日ヨリ十日以内ニ他所ニ運搬シ又ハ他人ニ交附セントスル場合ニ於テハ其品目届出ハ運搬又ハ交附ノ行爲ニ先ツヘシ又相續人ヨリ營業者ノ死亡ヲ届出ルハ相續ノ日ヨリ十日以内ニ於テスヘシ

第六條　帳簿ノ種類及其ノ記載方ハ廳府縣令ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第七條　帳簿ヲ毀損シ又ハ亡失シタルトキハ五日以内ニ其ノ事由ヲ疏明シ行政廳ニ届出ヘシ

第八條　古物商ニシテ行商ヲ爲シ又ハ露店ヲ出サントスル者ハ行政廳ニ願出鑑札ヲ受ケ之ヲ携帶スヘシ

家屬又ハ同居ノ雇人ニ限リ行商ヲ爲サシメ又ハ露店ヲ出サシムルコトヲ得此場合ニ於テハ前項ノ手續ニ依リ鑑札ヲ受ケ之ヲ携帶セシムヘシ

鑑札ハ他人ニ貸與スルコトヲ得ス

第九條　古物ノ市場ヲ開設セントスル者ハ規約書ヲ添ヘ行政廳ノ認可ヲ受クヘシ

規約書ニハ開閉ノ時間場所及參集スヘキ營業者ノ住所氏名ヲ記載スヘシ

規約書ノ變更ハ其ノ都度行政廳ノ認可ヲ受クヘシ

第十條　行商、露店及市場ノ取引ニ付テ別ニ帳簿ノ規程ヲ要スルトキハ廳府縣令ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第十一條　古物ノ糶賣ヲ爲サントスル者ハ豫メ其ノ日時竝場所ヲ行政廳ニ屆出ヘシ

第十二條　古物商ハ露店、途上其ノ他公ノ場所ニ於テ古物商ニ非サル者ヨリ古物品ヲ買取リ讓受ケ又ハ交換スルコトヲ得ス

第十三條　古物商ハ行商ニ依リ又ハ露店市場ニ於テ刀劍又ハ之ヲ仕込ミタル器具ヲ賣買交換スルコトヲ得ス

第十四條　第三條第四條第一項第二項第七條第八條第九條第十一條第十二條及第十三條ニ違背シタル者ハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條　此細則ニ規定シタルモノヽ外警視總監、北海道廳長官及府縣知事ハ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

○法律第十四號　明治二十八年三月二日

質屋取締法

第一條　質屋營業ヲ爲サムトスル者ハ行政廳ノ免許ヲ受クヘシ支店ヲ設クルトキ亦同シ

廢業シタル時ハ行政廳ニ屆出ヘシ

第二條　質屋ハ店舗ノ外ニ於テ營業ヲ爲スコトヲ得ス

第三條　質屋物品ヲ質ニ取ラムトスルトキハ質置主ニ於テ其物品ヲ質入シ得ヘキ權利ヲ有スルコトヲ確認シタル後之ヲ爲スヘシ若不正品ノ疑アルトキハ直ニ警察官ニ申告スヘシ

第四條　住所、氏名ノ詳カナラサル者ヨリ物品ヲ質ニ取ルコトヲ得ス但シ住所、氏名ノ詳カナル者其證人タルトキ又ハ警察官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此限ニ在ラス

第五條　質屋ハ質契約及質物處分ニ關スル事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

質屋ハ質契約ノ證トシテ質札又ハ通帳ヲ質置主ニ交付スヘシ

帳簿質札及通帳ノ製方及樣式ハ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第六條　質屋ハ左ノ事項ヲ見易キ場所ニ掲示スヘシ

一　利子割合

一　流質期限

一　質物ノ災難ニ罹リタルトキノ處辨方

一　質物出入時間

第七條　傳染病毒ニ汚染シタル物品ナリト認ムルモノハ消毒シタル後ニ非サレハ之ヲ質ニ取ルコトヲ得ス

前項ノ物品ニシテ警察官ニ於テ未タ消毒セサルモノト認ムルトキハ直ニ消毒法ヲ施サシメ命ニ從ハサレハ之ヲ官沒ス

第八條　質屋ハ質物ヲ使用シ若ハ貸付スルコトヲ得ス

轉質ハ必要ノ場合ニ限リ命令ヲ以テ制限シ若ハ禁止スルコトヲ得

第九條　質屋ハ左ニ掲クル制限內ノ利子ノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ金錢ヲ領收スルコトヲ得ス

貸金二十五錢以下ハ一箇月一錢、一圓以下ハ一箇月百分ノ四五圓以下ハ一箇月百分ノ三、十圓以下ハ一箇月百分ノ二半

本條ニ違反シタル質契約ハ其ノ違反セル部分ニ限リ無效トス

第十條　質置主ハ流質期限前ハ何時タリトモ元利金ヲ辨濟シテ其ノ質物ヲ受戻スコトヲ得

第十一條　質屋ハ流質期限經過ノ後何時タリトモ其ノ質物ヲ處分スルコトヲ得

第十二條　質屋ハ何人ニ拘ラス質札又ハ通帳ヲ所持スル者ニ其ノ質物ヲ返還スルコトヲ得

第十三條　贓物ニシテ特ニ識別シ得ヘキ物品ニ限リ警察官ニ於テ必要アリト認ムルモノハ品觸ヲ發スルコトヲ得

第十四條　贓物ノ品觸アルトキハ到達シタル年月日ヲ其ノ品觸寫書ニ附記スヘシ品觸到達以後六箇月內ニ品觸ニ相當スル物品ヲ質ニ取リ若ハ質物トシテ占有セルコトヲ覺知スルトキハ直ニ警察官ニ屆出ヘシ

第十五條　警察官ハ犯罪ノ嫌疑アル物品若ハ遺失物又ハ傳染病毒汚染ノ物品アリト認ムルトキハ何時タリトモ質物及帳簿ノ檢査ヲ爲シ時宜ニ依リ十日以內ヲ限リ其ノ物品ヲ差押ヘ又ハ帳簿ヲ差出サシムルコトヲ得

警察官ニ於テ物品ヲ押收シタルトキハ領置證書ヲ交付スヘシ

第十六條　質物ニシテ遺失物若ハ贓物ニ係ルトキハ警察官之ヲ徵收シ被害者ニ還付スルコトヲ得

若被害者知レサルトキハ徵收シタル日ヨリ二箇年ノ後官沒スルコトヲ得

第十七條　營業ニ關スル帳簿ヲ廢棄スルトキハ警察官ノ許可ヲ受クヘシ

第十八條　質屋法律命令ニ違犯シ行政廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ其ノ營業ヲ禁止又ハ停止スルコトヲ得

禁止及停止ノ効ハ全國ニ及フ

第十九條　禁止ノ處分ヲ受ケタル者ハ他人ノ名義ヲ以テ質屋營業ヲ爲シ又ハ質屋營業者ノ代理人タルコトヲ得ス停止ノ處分ヲ受ケタル者其ノ期間亦同シ

第二十條　質屋廢業シ若ハ營業ヲ禁止セラレタルトキト雖其ノ以前ニ成立シタル質契約及其質物ニ付テハ尙ホ此ノ法律ヲ適用ス停止ノ處分ヲ受ケタル者其ノ期間亦同シ

第二十一條　行政廳ハ何時タリトモ營業ノ禁止ヲ解クコトヲ得

第二十二條　左ニ揭クル諸項ノ一ニ該當スル者ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第十五條ノ場合ニ於テ虛僞ノ陳述ヲ爲シ又ハ故意ニ物品、帳簿ヲ毀損亡失シタル者

二　第一條ノ免許ヲ受ケスシテ營業ヲ爲シタル者

三　禁止又ハ停止中營業ヲ爲シタル者

四　第八條第一項及第十九條ニ違反シタル者

第二十三條　第一條第二項、第二條、第三條、第四條、第五條第一項及第二項、第六條、第七條、第一項、第十四條及第十七條ニ違反シタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條　此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヰス

第二十五條　質屋營業上ニ就テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖營業者其ノ責ニ任ス

第二十六條　此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル細則ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

第二十七條　此ノ法律ハ明治廿八年九月一日ヨリ施行ス但シ沖繩縣ニ施行セス

第二十八條　此ノ法律施行以前ニ係ル質契約ニ付テハ契約當時ノ法令ヲ適用ス

第二十九條　明治十七年第九號布告質屋取締條例ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止

ス

○内務省令第九號　明治廿八年七月廿六日

質屋取締法細則

第一條　質屋取締法及此ノ細則ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ東京府ニ於テハ警視總監北海道ニ於テハ北海道廳長官其ノ他ノ府縣ニ於テハ知事之ヲ行フ

警視總監北海道廳長官府縣(東京府ヲ除ク以下之ニ倣フ)知事ハ前項ノ職權ヲ警察署長、警察分署長島司、地役人若クハ名主ニ委任スルコトヲ得但シ營業ヲ禁止若ハ停止シ又ハ營業ノ禁止若クハ停止ヲ解クノ處分ハ此ノ限ニ在ラス

第二條　支店ヲ設クルトキハ管理人ヲ定メ行政廳ニ屆出ヘシ

第三條　店舗ノ移轉營業者及後見人ノ族籍、住所、氏名ノ異動管理人ノ變更及後見ノ終了ハ行政廳ニ屆出ヘシ支店ヲ閉鎖スルトキ亦同シ

後見人ノ變更ハ新後見人ヨリ營業者ノ死亡ハ相續人ヨリ行政廳ニ屆出ヘシ但シ死亡者非戸主ナルトキハ其死亡ハ戸主ヨリ屆出ヘシ

後見人ニ因リテ營業ノ免許ヲ願出又ハ後見人ノ變更ヲ屆出ルニハ其ノ後見ニ關シ市町村長又ハ區戸長ノ證明書ヲ添付スヘシ

第四條　前二條ノ屆出及廢業ノ屆出ハ事實ノ生シタル日ヨリ十日以內ニ之ヲ爲スヘシ但シ相續人ヨリ營業者ノ死亡ヲ屆出ルハ相續ノ日ヨリ十日以內ニ於テスヘシ

第五條　帳簿ノ種類及其ノ記載方ハ廳府縣令ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第六條　帳簿ヲ毀損シ又ハ亡失シタルトキハ五日以內ニ其ノ事由ヲ疏明シ行政廳ニ屆出ヘシ

第七條　質札及通帳ニハ適當ノ箇所ニ質置主ノ氏名ヲ記載シ營業者又ハ支店管理人記名捺印シ質契約ヲ爲ス每ニ貸金額、質物ノ種類、員數、番號、年月日ヲ記載スヘシ其ノ製方及樣式ハ廳府縣令ヲ以テ定ムルコトヲ得

第八條　第二條第三條第一項第二項第六條及第七條ニ違背シタル者ハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條　此細則ニ規定シタルモノヽ外警視總監、北海道廳長官及府縣知事ハ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

○内務大藏兩省達乙第十七號　明治十二年四月四日　府　縣

客年第三十九號公布中各營業者ヘ鑑札下付候儀ハ不苦ト雖モ鑑札料手數料等ハ

收入不致義ト可心得此旨相達候事

但鑑札下付ノ費用ハ警察上ヨリ下付スルモノハ警察費ヨリ支辨シ收稅上ヨリ下付スルモノハ地方稅中廳費ヨリ支辨可致義ト可相心得事

府縣（東京府ヲ除ク）

○內務省達番外　明治十五年十一月三十日

諸營業取締規則ノ儀ニ付今般別紙警視廳伺ニ對シ朱書ノ通及指令候條爲心得此旨相達候事

但從前ノ指令等右ニ牴觸スル分ハ消滅候儀ト心得ヘシ

（別紙）

警視廳伺

營業取締規則上特ニ委任サレサル罰則ヲ設クル儀不相成旨過般御訓示相成候處當廳ニ於テ從來施行スル營業規則中營業禁停ノ目有之右ハ御訓示ノ旨ニ牴觸致シ候哉ノ疑議モ有之左ニ相伺候

抑々警察上ニ於テ特ニ取捨ヲ要スル營業ノ儀ハ一般ノ秩序安寧ヲ保持スルカ爲メ常ニ照顧裁制セサルヲ得サルモノニ有之故ニ其業體ニ依リ本人ノ身行資格等ヲ以テ許否ノ取捨ヲ爲サヽルヲ得ス例セハ演劇ノ風俗ヲ紊リ若クハ世安ニ害アル者或ハ技術ノ未熟ナルヲ以テ屢々人ヲ危險ニ陷ル者（馬車駕者ノ類）雇人請宿ニシテ略取誘拐ノ罪ヲ犯スモノ古衣古道具商ニシテ常ニ不正品ヲ故買スルモノ其類一ニシテ不足此ノ如キハ初ヨリ許可スヘカラサルアリ又ハ許可ノ後之ニ觸ルヽヲ以テ停禁スヘキアリ皆是レ行政上ノ處分ニシテ司法罰則ト同視スヘカラス且夫レ既ニ規則ヲ施行シ其營業ヲ許可スルノ權有之上ハ又之ヲ停禁スルヲ得ルハ自然附隨スル所ニシテ固ヨリ許否ノ二權ハ相離ル可カラサル者ナレハ則チ其初メニ於テ許可ヲ與ヘサルモ後ニ停禁スルモ同一事ニシテ其前後ヲ以テ區別ヲ生スルノ理由モ有之間敷旁營業停禁ノ儀ハ御訓示ノ旨ニハ牴觸不致事ト相心得從來慣行ノ通取扱可然哉爲念此段相伺候也

（指令）

書面伺之通

○內務省訓令訓第四三五號　明治廿一年七月九日

各地方ニ於テ設クル營業取締規則中營業禁停止ノ箇條ヲ揭載スルモノ往々有之是レ畢竟其規則ノ實行ヲ期スルノ旨趣ニ外ナラサルヘシト雖モ檢束其度ニ過キ徒ニ民業ヲ阻止スルコトナキニアラス就テハ其禍害ヲ公衆ニ及ホスノ恐レアル

モノニシテ保護上已ムヲ得サルニアラサレハ右ノ制裁ヲ設ケサル樣注意セラルヘシ

右訓令ス

○內務省訓令訓第七二一號　明治廿三年十月三十一日

今般明治十九年當省訓令第七號ヲ廢止セシト雖モ人力車馬車宿屋ノ營業及街路ニ於ケル取締向ハ尙ホ該訓令ノ趣意ヲ參酌シ地方ノ狀況ニ應シ適當ノ取締致サルヘシ

右訓令ス

（參照）

○警保局長通牒　明治廿二年十一月十六日

近來神佛祭典等ノ際觀物興行ヲ爲ス者ノ中禽獸蛇蝎ノ類ヲ生存ノ儘縊裁シ又ハ之ヲ嚔嚙シ其他殘酷ノ所業ヲ爲シ衆庶ノ觀覽ニ供スルモノ有之現ニ警視廳及神奈川縣廳ニ於テハ之ヲ差止候右ハ風俗上最モ可厭モノニ付向後同樣ノ技ヲ演セントスルモノ有之節ハ嚴ニ禁制相成度此旨申入候也

○內務大藏兩省訓令訓第五九五號　明治廿五年九月十九日

地方稅（府縣費ヲ施行シタル縣ハ府縣稅）營業稅雜種稅中演劇其他ノ興行物及ヒ煙火馬駈ノ類ニシテ直接間接ヲ問ハス營利ノ目的ニ無之單ニ神佛祭典ノ爲メ又ハ慈善ノ爲メニスル也ノハ明治二十六年度以降課稅セサル樣取計フヘシ

右訓令ス

○衞生局長通牒（東京大坂ヲ除ク）　明治二十八年四月十七日

罐詰取締ノ義ニ付陸軍省ヨリ別紙寫ノ通協議有之候然ルニ右ハ單ニ戰地ニ向フ人員ノミニアラス一般衞生上最取締ヲ要スル義ニ付貴府縣下ニ於テ營業ヲ爲ス者アルモ未タ取締ノ方法等無之義ニ候ハハ此際相當ノ取締規則ヲ設ケ不良ノ罐詰ヲ製造スル者無之樣御取締相成度依命此段及通牒候也

○陸軍省ヨリ內務省ヘ照議　明治二十八年四月五日

從來軍用ノ食品殊ニ罐詰肉類ハ購買ノ際檢査致シ其不良ナルモノハ固ヨリ一切受領セサル儀ニ有之候處時トシテ該不合格品ヲ他ニ轉賣シ其他製法粗漏品買不良ノ罐詰等ヲ往々市中ニ賣買スル射利ノ奸商モ有之候ト相見ヘ戰地ニ向フ人員中其良否ヲ鑑別セス此種ノ惡品ヲ携帶使用シ爲ニ「コレラ」樣下痢ヲ相發シ候者不少由ニ付食品賣買ニ關シ此際一層嚴重ノ取締有之度此段及協議候也

○富山縣照會　明治二十七年五月三十日

北陸近海ヲ通航スル滊船ハ沿海諸縣ノ關係有之取締上一定ノ規定ヲ要スル義ニ付該營業取締規則ヲ規定可致見込ニ有之候處右滊船ハ西洋形船舶檢査規則ニ依リ檢査ヲ受ケ其證書ヲ有スルニアラサレハ航海スルヲ得サル義ニ候得ハ該檢査證書ヲ有スル以上ハ屆出ノミニテ別段出願ヲ要セサルモノヽ如ク有之候得共該營業タル乘客貨物ヲ運航スルモノニシテ其營業ノ關係スル所最モ廣ク固ヨリ輕易ナル業ヲ營ムモノト同視スルヲ得ス其業体上取締ヲ要スルハ勿論ノ義ニ付他ノ警察ノ取締ヲ要スル營業ト同樣出願許可ヲ受ケシムヘキモノト被存候得共一應御省御見込承知致度此段及照會候也

○警保局長回答　明治二十七年六月十五日

北陸近海航行瀬船取締ノ義ハ河川港灣ヲ限リ往復スル小形汽船ト異ナリ遠ク沿岸數縣ニ亘ル海上ヲ航行スル者ナレハ其關係重大ニシテ固ヨリ輕易ナル業体ト同視スルヲ得サル義ニ付府縣令ヲ以テ航海業ノ許否ニ關スル規則ヲ設クルハ允當ナラスト思考致候此段及回答候也

○警保局長通牒　明治二十九年四月廿七日

印章彫刻業取締法ヲ設クルノ件ニ關シ東京地方裁判所檢事正工藤則勝外九名ヨリ提出シタル建議書司法省ヨリ送致相成候然ルニ右建議書ニ所謂人ノ委托ニ依リ印影ヲ彫刻スルトキハ着手前認可ヲ受ケシムルカ如キ全國一定ノ規定ヲ設クルハ頗ル考案ヲ要スル義ト思考候且該營業者ニ關スル取締規則ハ地方ニ於テ取設ケアルモノ不尠義ニ付御參考ノ爲メ右建議書寫及御送付候條實際ノ狀況御斟酌ノ上可然御取捨相成度依命此段及通牒候也

○大坂府稟請　明治廿九年二月一日

黄燐摺付木製造場煙火製造場火葬場屠畜場肥料貯藏場等ノ取締規則中ニハ人家ヨリ十間乃至六十間或ハ百廿間以上ノ距離ヲ有スヘキ旨ノ規定アリ其新設ノ當時ハ必ス其距離ヲ有シ居リ候得共數年ナラスシテ人家接續シ當初ノ距離ヲ有セサルノミナラス頗ル稠密ニ至リタル所尠ナカラス是レ人家ヲ有スルモノ自ラ甘シテ近接ヲ致スモノナリト雖モ危險或ハ衞生上有害ナル等ノ理由ニ依リ其距離ヲ存置セシムルヘキ必要アル以上ハ終始之ヲ保有セシメサルヘカラス然ルニ距離ノ遠大ナルモノ即チ六十間乃至百二十間以上ヲ有スヘキモノヽ如キハ假令數十間ヲ短縮スルモ危險又ハ衞生上有害ノ點マテハ尚ホ多少ノ餘裕ナキニシモアラスト雖モ煙火製造場ニ在テハ十間以上其他煉瓦石造ノ煙突ニ在テハ其高サニ分ノ一以上瀉罐ニ在テハ五十尺以上ノ距離ヲ有スヘキ規定ニシテ寸毫ノ餘裕ヲ存セス是等ハ最モ嚴格ニ其距離ヲ保有セシムルニアラサレハ危險ヲ避クルニ由ナキノミナラス而カモ一方ヨリ自ラ進ンテ近接ヲ致スニ於テハ遂ニ規則ハ徒法ニ屬シ公衆ノ危害ヲ豫防シ健康ヲ保護スルコト能ハサルニ至ルヘシ是レ近時諸製造場等日々增加シ人煙ノ月ニ繁盛ニ赴クニ從ヒ起リタル事實ニシテ距離存置ノ規定ヲシテ終始有効ナラシムヘキ特別ノ規則ヲ制定スヘキ必要ヲ認メタル所以ニ有之而シテ特ニ制定ヲ要スヘキ規則ハ即チ家屋ヲ建築スルモノニ對シ製造場ノ煙突又ハ瀉罐其他火葬場等ヘハ何程ノ距離ヲ存置スルニアラサレハ家屋ヲ建築スルコトヲ得サル旨ノ取締法ヲ設クルノ外他ニ途ナキモノト被認候條家屋建築規則中右距離ヲ制限可致見込ニ候得共如斯規則ハ未タ先例モ無之候間何分ノ御指令相成度此段稟請候也

○警保局長通牒　明治二十九年三月二十六日

本年二月一日付警第三一九號稟請家屋建築取締規則中製造場等ニ距離ノ制限ヲ設クルノ件ハ製造業者ニ許可ヲ與ヘタル爲ニ四隣地主ノ所有權ヲ制限シ財産上ノ損害ヲ被ラシムルハ穩當ナラサル義ニ付製造場以外相當ノ距離内ニ家屋ヲ建築セシメサルハ之ヲ製造業者ノ責任ニ歸シ若シ其責ニ任スル能ハサルトキハ製造場ノ建設ヲ許可セス又許可後接近隣地ニ家屋ヲ建築スルモノアルトキハ許可ヲ取消スコトアルヘキ規定ヲ設ケラレ候方可然尤モ其規則溯及ノ効力ヲ有セシムルハ是亦穩當ヲ欠クモノト存候大臣ヨリハ別段指令ニ及ハレス依命此段及通牒候也

第四十四章　鑛業及電氣

○法律第八十七號　明治二十三年九月廿五日

鑛業條例

第一章　總則

第一條　鑛業トハ鑛物ノ試掘採掘及之ニ附屬スル事業ヲ謂フ

第二條　鑛物ノ未タ採掘セサルモノハ國ノ所有トス

此條例ニ於テ鑛物トハ金鑛(砂金ヲ除ク)銀鑛、銅鑛、鉛鑛、錫鑛(砂錫ヲ除ク)安質母尼鑛、水銀鑛、亞鉛鑛、鐵鑛(砂鐵ヲ除ク)硫化鐵鑛、滿奄鑛、砒鑛、黑鉛、石炭、石油及硫黃ヲ謂フ

第三條　帝國臣民ニ非サレハ鑛業人トナリ又ハ鑛業ニ關スル組合員又ハ會社ノ株主トナルコトヲ得ス

鑛業人未成年瘋癲白痴又ハ瘖啞ナルトキハ後見人ヲ立ツヘシ

第四條　農商務省鑛山局及鑛山監督署ノ官吏ハ在職中鑛業人トナリ又ハ鑛業ニ關スル組合員又ハ會社ノ株主若ハ役員トナルコトヲ得ス

第五條　此條例ニ依リ鑛業特許取消ノ處分ヲ受ケタル鑛業人ハ同鑛區ニ付一箇年間採掘ノ出願ヲ爲スコトヲ得ス

第六條　二人以上共同シテ鑛業ヲ爲ストキハ總代一名ヲ選定シ豫メ所轄鑛山監督署ニ屆出ツヘシ

總代ハ鑛業上ニ關シ政府ニ對シテ共同鑛業人ヲ代表スルモノトス

第七條　共同鑛業人ノ變更、採掘權ノ賣買、讓與、書入及廢業屆等ニハ總代ノ外少クモ共同鑛業人過半數ノ連署ヲ要ス

第二章　試掘及採掘

第八條　試掘ヲ爲サントスル者ハ其願書ニ試掘地ノ圖面ヲ添ヘ所轄鑛山監督署長ニ差出シ其認可ヲ受クヘシ

第九條　試掘ハ認可ノ日ヨリ一ケ年ヲ限トス

試掘人前項ノ期限內ニ於テ其ノ事業ヲ竣ヘ難キ事實アルトキハ所轄鑛山監督署長ニ延期ヲ出願スルコトヲ得

所轄鑛山監督署長ハ其事實ヲ調査シ已ムヲ得サルモノト認ムルトキハ一箇年以內ノ延期ヲ認可スルコトヲ得

第十條　試掘ニ依リ採取シタル鑛物ハ所轄鑛山監督署長ノ認可ヲ得テ之ヲ販賣スルコトヲ得

第十一條　前條ニ依リ鑛物ヲ販賣シタルトキハ三十日以內ニ其ノ販賣代價百分

ノ一ヲ所轄鑛山監督署ニ納ムヘシ

前項ノ金額ヲ其ノ期限内ニ納メサル者ハ國税滯納處分法ニ依リ處分ス

第十二條　採掘ノ特許ヲ得ント欲スル者ハ探掘願書ニ鑛區圖ヲ添ヘ農商務大臣宛ニテ所轄鑛山監督署ニ差出スヘシ

採掘願書及鑛區圖ヲ同時ニ差出シ難キトキハ願書ノミヲ差出シ置キ鑛區圖ハ願書ノ日附ヨリ五十日以内ニ之ヲ差出スコトヲ得此ノ期限内ニ差出サヽルトキハ其ノ出願ヲ無効トス

第十三條　採掘ヲ出願スル者ハ出願地ニ其採掘セントスル鑛物ノ存在スルコトヲ證明スヘシ

第十四條　鑛山監督署長ハ鑛物ノ存在ヲ認定スル爲ニ吏員ノ實地臨檢ヲ必要ト認ムルトキハ採掘出願人ヲシテ出張吏員ノ爲ニ制規ノ旅費日當ヲ前納セシムヘシ

採掘出願人前項旅費日當納付ノ通知ヲ受ケ通知書到達ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ納メサルトキハ其ノ出願ヲ無効トス

第十五條　鑛山監督署ニ於テハ試掘及採掘出願登録簿ヲ備ヘ置キ出願日時ノ先後ニ依リ之ヲ登録ス

第十六條　試掘又ハ採掘ノ出願同一ノ地ニ付二人以上アルトキハ出願日時ノ先後ニ依リ其ノ許否ヲ定ム

出願ノ日時同一ナルトキハ鑛山監督署長ハ其ノ旨ヲ各出願人ニ通知スヘシ各出願人ハ通知書ノ日附ヨリ六十日以内ニ協議ヲ遂ケ出願人ヲ定ムヘシ若シ協議調ハサルトキハ其ノ出願ヲ無効トス

出願ノ日時同一ニシテ試掘ト採掘トニ係ルトキハ先ツ採掘ノ出願ニ付其許否ヲ定ム

第十七條　農商務大臣採掘ノ特許ヲ與フヘキモノト認メタルトキハ鑛業特許證ヲ下付スヘシ

第十八條　試掘若ハ採掘ノ事業公益ヲ害スト認ムルトキハ試掘ニ就テハ所轄鑛山監督署長採掘ニ就テハ農商務大臣其ノ出願ヲ許可セス

第十九條　試掘若ハ採掘ノ事業公益ニ害アルトキハ試掘ニ就テハ所轄鑛山監督署長採掘ニ就テハ農商務大臣既ニ與ヘタル認可若ハ特許ヲ取消スコトヲ得

鑛業人前項取消ノ處分ニ不服アルトキハ其ノ達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内

ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但損害ノ賠償ヲ要求スルコトヲ得ス

第二十條　特許ヲ得タル鑛物ノ採掘權ハ賣買、讓與又ハ書入ヲ爲スコトヲ得

採掘權ヲ賣買、讓與スルトキハ雙方連署シ所轄鑛山監督署ヲ經農商務大臣ニ出願シ鑛業特許證ノ書換ヲ受クヘシ此ノ手續ニ依ラサル賣買、讓與ハ法律上其ノ効ナキモノトス

採掘權ノ書入ハ雙方連署シ所轄鑛山監督署ノ登錄ヲ受クヘシ其ノ登錄ヲ受ケサルモノハ法律上其ノ効ナキモノトス

第二十一條　他人試掘ノ年限中ハ其ノ試掘地内ニ於テ同一ノ鑛物ニ付採掘ノ出願ヲ爲スコトヲ得ス

第二十二條　他人ノ認可ヲ得タル試掘地内ニ於テ其ノ試掘人ノ未タ認可ヲ得サル鑛物ノ試掘又ハ採掘ヲ出願セント欲スル者ハ試掘人ノ承諾ヲ經ヘシ

試掘人自ラ試掘又ハ採掘ヲ出願セント欲スルカ若ハ其ノ認可ヲ得タル鑛物ノ試掘ニ妨害アルトキノ外ハ試掘人ハ前項ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十三條　他人所屬ノ鑛區内ニ於テ其ノ鑛業人ノ未タ試掘ノ認可又ハ採掘ノ特許ヲ得サル鑛物ニ付試掘若ハ採掘ヲ出願セント欲スル者ハ鑛業人ノ承諾ヲ經ヘシ

鑛業人自ラ試掘又ハ採掘ヲ出願セント欲スルカ若ハ其ノ試掘又ハ採掘ノ爲ニ鑛業ニ妨害アルトキノ外ハ鑛業人ハ前項ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十四條　宮城、離宮、神宮、皇陵、陸海軍所轄城堡、軍港、要港、火藥製造所、火藥庫及彈藥庫ノ周圍三百間以内ノ場所ハ試掘又ハ採掘若ハ鑛業上使用スルコトヲ得ス但軍港、要港ハ其ノ鎮守府司令長官ノ許可ヲ得タル場合ニ於テハ此ノ限ニアラス

第二十五條　鐵道、馬車鐵道、公道、河湖、堤防、沼地、社寺墓地、公園地及建物ヨリ地表地下トモ其周圍三十間以内ノ場所ニ於テハ所轄官廳若ハ所有者ノ承諾ヲ經ルニアラサレハ試掘又ハ採掘ヲ爲スコトヲ得ス但危險ノ虞ナキモノハ其ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十六條　鑛業人ハ毎年ノ鑛業施業案ヲ調製シ其ノ前年十月三十日限其ノ初年ニ係ルモノハ採掘特許ノ日ヨリ三箇月以内ニ所轄鑛山監督署長ニ差出シ認可ヲ受クヘシ

前項ノ施業案ニシテ坑内ノ保安ニ害アリ又ハ其ノ鑛區ニ相當スル鑛業ヲ爲サ

サルモノト認メタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ其ノ理由ヲ鑛業人ニ示シ期限ヲ定メ之ヲ改正セシムヘシ

第二十七條　鑛業人ハ所轄鑛山監督署長ノ認可ヲ受ケタル鑛業施業案ニ依ルニアラサレハ試掘ヲ爲スコトヲ得ス

第二十八條　鑛業人鑛業施業案又ハ其ノ改正案ヲ期限內ニ差出ササルトキハ農商務大臣ハ其ノ採掘ノ特許ヲ取消スコトヲ得

第二十九條　鑛業人一箇年以上休業シ又ハ採掘ノ特許ヲ得タル日ヨリ一箇年以內ニ鑛業ニ著手セサルトキハ農商務大臣ハ其ノ特許ヲ取消スコトヲ得

第三十條　前二條ノ場合ニシテ其ノ自己ノ過失ニ由ラサルモノハ特許取消ノ達ヲ受ケタル日ヨリ十四日以內ニ其ノ理由ヲ農商務大臣ニ申立テ再願ヲ爲スコトヲ得若シ農商務大臣ニ於テ之ヲ拒ムトキハ其ノ達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以內ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三十一條　鑛業人ハ坑內實測圖二葉ヲ調製シ一葉ハ所轄鑛山監督署ニ差出シ一葉ハ鑛業事務所ニ備ヘ置クヘシ

前項坑內實測圖ハ事業ノ進歩ニ從ヒ六箇月每ニ追補スヘシ

鑛業人若シ他人ノ所屬ニ係ル隣接鑛區ノ坑內實測圖ニ付證明ヲ必要ト認ムルトキハ之ヲ所轄鑛山監督署長ニ請求スルコトヲ得

所轄鑛山監督署長ニ於テ右證明ノ爲ニ吏員ノ實地臨檢ヲ必要ト認ムルトキハ鑛業人ヲシテ出張吏員ノ爲ニ制規ノ旅費日當ヲ前納セシムヘシ

第三十二條　鑛業人鑛業特許證ヲ毀損若ハ亡失シタルトキハ事由ヲ具シ所轄鑛山監督署ヲ經其ノ再下付ヲ農商務大臣ニ出願スヘシ

第三十三條　詐僞又ハ錯誤ニ由リ試掘ノ認可ヲ得タルコトヲ發見シタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ其認可ヲ取消スヘシ若シ其ノ認可ニ付利害ノ關係ヲ有スル者ニ於テ之ヲ發見シタルトキハ其ノ關係ヲ有スル者ハ認可ノ日ヨリ三箇月以內ニ試掘認可ノ取消ヲ所轄鑛山監督署長ニ訴願スルコトヲ得

前項所轄鑛山監督署長ノ判定ニ不服アル者ハ其ノ判定ノ日ヨリ三十日以內ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三十四條　詐僞又ハ錯誤ニ由リ採掘ノ特許ヲ得タルコトヲ發見シタルトキハ農商務大臣ハ其ノ特許ヲ取消スヘシ若シ其ノ特許ニ付利害ノ關係ヲ有スル者ニ於テ之ヲ發見シタルトキハ其ノ關係ヲ有スル者ハ特許ノ日ヨリ三十日以內

ニ採掘特許ノ取消ヲ農商務大臣ニ訴願スルコトヲ得

前項農商務大臣ノ裁定ニ不服アル者ハ其裁定ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三十五條　第二十二條第二項及第二十三條第二項ノ場合ニ於テ理由ナクシテ承諾ヲ拒ミタルトキハ關係人又第二十五條但書ノ場合ニ於テ危險ノ虞ナクシテ承諾ヲ拒ミタルトキハ鑛業人ハ所轄鑛山監督署長ノ判定ヲ請求スルコトヲ得

第三十六條　前條ノ判定ニ不服アル者ハ其ノ判定ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ農商務大臣ノ裁定ヲ請求スルコトヲ得

第三十七條　鑛業人廢業シタルトキハ其ノ旨ヲ所轄鑛山監督署ニ届出テ鑛業特許證ヲ返納スヘシ

第三十八條　第十九條第二十八條第二十九條第三十四條第四十三條及第七十六條ニ依リ農商務大臣ニ於テ採掘ノ特許ヲ取消シ又ハ第三十七條ニ依リ廢業ノ届出ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ特許ヲ得タル鑛物ノ採掘權ニ對シ抵當權ヲ有スル債主ハ其ノ抵當權ヲ失フモノトス但第十九條及第三十四條ノ場合ヲ除

クノ外債主ニ於テ六十日以内ニ其ノ鑛區ノ採掘ヲ願出ルトキハ出願ノ先後ニ拘ハラス特許ヲ與フヘシ

第三十九條　鑛業人ハ毎年一月前年ニ採取シタル鑛物ノ量數、製産物其ノ販賣高、販賣代價、行業日數及工數ヲ所轄監督署ニ届出ツヘシ

第四十條　鑛業人ハ農商務大臣定ムル所ノ書式ニ依リ帳簿ヲ調製シ製産物ノ量數及販賣代價等ヲ記載スヘシ

第三章　鑛區

第四十一條　鑛區トハ鑛物ノ採掘ヲ爲ス土地ノ區域ヲ謂フ

鑛區ノ境界ハ直線ヲ以テ之ヲ定メ地表境界線ノ直下ヲ限トス其ノ一鑛區ノ面積ハ石炭ハ一萬坪以上其ノ他ノ鑛物ハ三千坪以上トシ共ニ六十萬坪ヲ超ユルコトヲ得ス

第四十二條　出願ニ係ル鑛區ノ位置形狀、鑛床ノ位置形狀ト相違シ鑛利ヲ損スヘキ者ト認メタル時ハ所轄鑛山監督署長ハ之ヲ出願人ニ通知シ訂正セシムヘシ

出願人前項ノ通知ヲ受ケ其ノ通知書到達ノ日ヨリ三十日以内ニ訂正シテ差出ササルトキハ其ノ出願ヲ無効トス

第四十三條　特許ヲ得タル鑛區ノ位置形狀、鑛床ノ位置形狀ト相違シ鑛利ヲ損スヘキモノト認メタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ農商務大臣ノ認可ヲ經六十日以內ノ期限ヲ定メ訂正セシムヘシ若シ訂正セサルトキハ農商務大臣ハ既ニ與ヘタル特許ヲ取消スコトヲ得

鑛業人ハ前項特許取消ノ處分ニ不服アルトキハ其ノ達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以內ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第四十四條　鑛業人鑛床ノ形狀ニ由リ鑛區ノ境界若ハ位置ノ訂正ヲ要スルトキハ其ノ願書ニ理由書、訂正鑛區圖及鑛業特許證ヲ添ヘ農商務大臣宛ニテ所轄鑛山監督署ニ差出スヘシ

農商務大臣ニ於テ訂正ヲ必要ト認メタルトキハ更ニ鑛業特許證ヲ下付スヘシ

第四十五條　鑛業人鑛區ノ訂正ヲ出願シタル場合ニ於テ所轄鑛山監督署長吏員ノ實地臨檢ヲ必要ト認ムルトキハ鑛業人ヲシテ出張吏員ノ爲ニ制規ノ施費日當ヲ前納セシムヘシ

鑛業人前項旅費日當納付ノ通知ヲ受ケ其通知書到達ノ日ヨリ十四日以內ニ之ヲ納メサルトキハ其ノ出願ヲ無効トス

第四十六條　鑛區ヲ合併シ又ハ分割セントスル者ハ合併又ハ分割鑛區圖及鑛業特許證ヲ添ヘ所轄鑛山監督署ヲ經テ農商務大臣ニ出願スヘシ其ノ採掘權ヲ抵當ニ取リタル債主アルトキハ其ノ承諾書ヲ添フヘシ

鑛區ノ分割ハ第四十一條ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス

第四章　土地使用

第四十七條　試掘又ハ採掘ヲ出願スル爲他人ノ土地ヲ測量スルコトヲ必要トスルトキハ所轄鑛山監督署ノ認可ヲ受クヘシ此場合ニ於テハ其ノ土地ノ所有者又ハ關係人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス若シ測量ノ爲ニ損害ヲ生シタルトキハ其ノ測量ヲ請求シタル者ニ於テ之ヲ賠償スヘシ

測量請求者他人ノ所有地ニ入ルトキハ豫メ其ノ土地所有者ニ通知シ且測量認可證ヲ携帶スヘシ

第四十八條　左ノ場合ニ於テ鑛業上他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ必要トシ鑛業人其ノ貸渡ヲ請求シタルトキハ其ノ土地ノ所有者又ハ關係人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

一　坑口ヲ開穿スル爲

一　鑛物及土石ノ堆積場ヲ設置スル爲

一　坑道、道路、鐵道、馬車鐵道、運河、溝渠及溜池ヲ開設スル爲

一　鑛業上必要ノ製錬場及建物ヲ建設スル爲

第四十九條　左ノ場合ニ於テハ土地所有者又ハ關係人ハ土地貸渡ノ請求ヲ拒ムコトヲ得

一　貸渡請求ノ土地第二十五條ニ記載シタル場所ニ係ルトキ

一　土地借受人ニ於テ第五十條ノ保證金ヲ差出ササルトキ

第五十條　土地借受人ハ貸渡ヲ受ケタル土地ニ對シ其ノ土地貸渡人ニ相當ノ借地料ヲ仕拂フヘシ

土地貸渡人ハ借地料ノ保證金トシテ土地受借人ニ豫メ土地臺帳ニ記載シタル地價以内ノ金額ヲ差出サシムルコトヲ得

其ノ質入トナリタル土地ニ對スル借地料及保證金ハ質取主ニ於テ之ヲ受領スルモノトス

土地使用ニ依リ所有者又ハ關係人ニ損害ヲ與フルトキハ鑛業人ハ之ニ對シ相當ノ賠償ヲ爲スヘシ

土地借受人土地ノ使用ヲ終リ其ノ使用中ノ借地料ヲ完納シタルトキハ土地貸渡人又ハ質取主ハ土地ト引換ニ保證金ヲ返還スヘシ

第五十一條　土地借受人貸渡ヲ受ケタル土地ノ使用ヲ終リタルトキハ土地貸渡人ノ要求ニ應シ其ノ土地ヲ原形ニ復シ返還スヘシ若シ原形ニ復シ難キトキハ土地借受人ニ於テ其ノ損害ヲ賠償スヘシ

第五十二條　土地借受人借地料ノ仕拂ヲ延滯シタルトキハ土地貸渡人ハ其ノ延滯借地料ニ相當スル金額ヲ保證金中ヨリ差引キ土地ヲ取戻スコトヲ得

前項土地ヲ取戻スニ當リ地上ニ建物等アルトキハ六十日以上ノ期限ヲ定メテ土地借受人ニ其ノ取除ヲ請求スヘシ若シ土地借受人ノ所在不分明ナルトキハ其ノ地方ノ新聞紙ヲ以テ其旨ヲ公告スヘシ

土地借受人右期限内ニ取除ヲナサヽルトキハ其ノ建物等ハ土地貸渡人ノ所有ニ歸スヘシ

第五十三條　鑛業人ノ請求ニ依リ土地ヲ分割シテ賣渡シ又ハ貸渡シタルカ爲殘地ノ利用ヲ害スルトキハ鑛業人ニ對シ其ノ土地全部ノ買取若ハ借受ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ鑛業人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第五十四條　鑛業人ニ於テ貸渡ヲ受ケタル土地ヲ三箇年以上使用スル目的アルカ又ハ三箇年以上之ヲ使用スルトキハ土地貸渡人ハ鑛業人ニ其ノ土地ノ買取ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ鑛業人ハ其ノ買取ヲ拒ムコトヲ得ス

第五十五條　土地ノ所有者及關係人ト測量請求人又ハ鑛業人トノ間ニ於テ土地貸渡借地料、保證金、損害賠償金又ハ土地賣買代價ニ付協議調ハサルトキハ所轄鑛山監督署長ニ其ノ判定ヲ請求スルコトヲ得

所轄鑛山監督署長ノ判定ニ不服アルトキハ其ノ判定ノ達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ土地貸渡ニ就テハ農商務大臣ニ其ノ裁定ヲ請求シ借地料、保證金、損害賠償金若ハ土地賣買代金ニ就テハ裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項農商務大臣ノ裁定ニ對シテハ他ニ出訴スルコトヲ得ス

第五十六條　所轄鑛山監督署長ノ判定又ハ農商務大臣ノ裁定請求ノ爲ニ要スル費用ハ民事訴訟入費ノ例ニ依リ負擔スヘキモノトス

第五十七條　鑛業人ハ土地所有者又ハ關係人ニ於テ所轄鑛山監督署長ノ判定シタル借地料、保證金、損害賠償金又ハ賣買代金ニ不服アルモ其ノ金額ヲ土地所有者又ハ關係人ニ渡シ若シ之ヲ受ケサルトキハ其ノ金額ヲ供託所ニ預ケ置キ土

地ヲ使用スルコトヲ得

第五章　鑛業警察

第五十八條　鑛業ニ關スル警察事務ニシテ左ニ掲クルモノハ農商務大臣之ヲ監督シ鑛山監督所長之ヲ行フ

一　坑内及鑛業ニ關スル建築物ノ保安

一　鑛夫ノ生命及衛生上ノ保護

一　地表ノ安全及公益ノ保護

第五十九條　鑛業上ニ危險ノ虞アリ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ所轄鑛山監督署長ハ鑛業人ニ其豫防ヲ命シ又ハ鑛業ヲ停止スヘシ

所轄鑛山監督署長ニ於テ鑛業ヲ停止セントスルトキハ其ノ猶豫シ難キ場合ヲ除クノ外ハ農商務大臣ノ認可ヲ經ヘシ

第六十條　前條第一項ノ場合ニ於テ鑛業人直ニ其ノ豫防ニ著手セサルトキハ所轄鑛山監督署長ハ鑛業人ノ使用スル役員及鑛夫ヲ指揮シ其ノ豫防ヲ執行スヘシ

此ノ場合ニ於テ鑛業人ハ其ノ使用スル役員及鑛夫ヲ豫防ノ用ニ供シ且一切ノ

費用ヲ負擔スルノ義務アルモノトス

第六十一條　第五十九條ニ依リ鑛業ヲ停止シタル後其ノ事故止ミタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ直ニ鑛業ノ停止ヲ解キ其ノ旨ヲ農商務大臣ニ具申スヘシ

第六十二條　農商務大臣ニ於テ此ノ條例ニ依リ採掘ノ特許ヲ取消シタルトキ又ハ鑛業人廢業シタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ六十日以上ノ期限ヲ定メ鑛業ノ爲建設シタル家屋及其ノ他ノ建物等ヲ除去セシムヘシ若シ右期限內ニ除去セサルトキハ其ノ建物等ハ土地所有者ノ所有ニ歸ス但所轄鑛山監督署長ニ於テ坑內保安ノ爲ニ必要ト認ムル坑內及坑口ノ構造物ハ之ヲ除去スルヿヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ鑛業人ノ所在不分明ナルトキハ第五十二條第二項ノ手續ニ依ルヘシ

第六十三條　農商務大臣ハ此ノ條例ノ範圍內ニ於テ省令ヲ以テ鑛業警察規則ヲ定ムルコトヲ得

第六章　鑛夫

第六十四條　鑛夫トハ鑛物ノ採掘及之ニ附屬スル業務ニ從事スル男女ノ職工ヲ謂フ

鑛業人ハ其ノ使役スル鑛夫ノ使役規則ヲ定メ所轄鑛山監督署ノ認可ヲ受クヘシ

第六十五條　鑛業人ト鑛夫ノ間ニ特別ノ約定ナキ場合ニ於テ雙方トモ十四日以前ニ通知スルトキハ雇役ノ解約ヲナスコトヲ得

第六十六條　左ノ場合ニ於テハ鑛業人ハ何時タリトモ鑛夫ヲ解雇スルコトヲ得

一　輕罪以上ノ刑ニ處セラレタルカ又ハ不行狀ノ所爲アルカ若ハ命令ヲ遵守セサルトキ

一　鑛業人又ハ其ノ使用スル役員ニ對シ粗暴ノ所爲アリタルトキ

一　身體虛弱ニシテ業務ニ堪ヘサルトキ

一　鑛業ヲ禁止セラレ又ハ廢業シタルトキ

第六十七條　左ノ場合ニ於テハ鑛夫ハ何時タリトモ其ノ雇役ヲ罷ムルコトヲ得

一　身體虛弱ニシテ業務ニ堪ヘサルトキ

一　鑛業人又ハ其ノ使用スル役員ニ於テ虐待シタルトキ

一　約定ノ賃錢又ハ報酬ヲ給與セサルトキ

第六十八條　鑛業人又ハ其ノ代理人ハ解雇スル鑛夫ノ請求ニ依リ從來ノ業務年

限本人ノ技能賃錢及解雇ノ事由ヲ記載シタル證明書ヲ與フヘシ

鑛業人證明書ヲ與フルコトヲ拒ムカ又ハ鑛夫ニ於テ證明書中不當ト認ムル事項アルトキハ所轄鑛山監督署員若ハ警察官ニ申告スルコトヲ得

第六十九條　鑛業人ハ鑛夫ノ賃錢ヲ通貨ニテ仕拂フヘシ鑛夫ノ請求アルニアラサレハ物品ヲ以テ仕拂ヲ爲スコトヲ得ス

第七十條　鑛業人ハ鑛夫名簿ヲ備ヘ置キ氏名、年齡、本籍、職業、雇入及解雇ノ年月日ヲ記入スヘシ

第七十一條　農商務大臣ハ左ニ記載スル制限内ニ於テ省令ヲ以テ鑛夫工役規則ヲ定ムルコトヲ得

一　一日十二時間以上ノ就業時間ヲ制限スルコト

一　女工ノ工役ノ種類ヲ制限スルコト

一　十四年以下ノ男女職工ノ就業時間及工役ノ種類ヲ制限スルコト

第七十二條　鑛業人ハ左ノ場合ニ於テ其ノ雇入鑛夫ヲ救恤スヘシ其ノ救恤規則ハ所轄鑛山監督署ノ認可ヲ受クヘシ

一　鑛夫自己ノ過失ニ非スシテ就業中負傷シタル場合ニ於テ診察費及療養費ヲ補給スルコト

一　前項ノ場合ニ於テ鑛夫ニ療養休業中相當ノ日當ヲ支給スルコト

一　前項ノ負傷ニ由リ鑛夫ノ死亡シタルトキ埋葬料ヲ補給シ及遺族ニ手當ヲ支給スルコト

一　前項ノ負傷ニ由リ癈疾トナリタル鑛夫ニ期限ヲ定メ補助金ヲ支給スルコト

第七章　鑛業稅及鑛區稅

第七十三條　鑛業人ハ鑛業稅トシテ鑛業製產物ノ價格百分ノ一鑛區稅トシテ鑛區一千坪毎ニ一箇年金三十錢ヲ納ムヘシ但一千坪未滿ノ端數ニ對スル鑛區稅ハ之ヲ免除ス

鐵鑛ヲ採掘スル者ニハ鑛業稅ヲ課セス

第七十四條　前條鑛業製產物ノ價格ハ主要ナル市場ノ平均相場ヲ標準トシ農商務大臣ノ告示スル所ニ依ル但市場ノ相場ナキモノハ其ノ販賣代價ニ依ル

第七十五條　鑛業稅ハ前年分ヲ毎年三月三十一日限ニ又廢業ノ年ニ係ルモノハ廢業ノ日ヨリ六十日以内ニ之ヲ納ムヘシ

鑛區稅ハ一箇年分ヲ其ノ前年十二月十五日限ニ又初年ニ係ルモノハ月割ヲ以テ採掘出願特許ノ月ヨリ六十日以內ニ之ヲ納ムヘシ其ノ廢業ノ年ニ係ルモノハ之ヲ返付セス

第七十六條　鑛業人納稅期限內ニ鑛業稅及鑛區稅ヲ納メサルトキハ農商務大臣ハ採掘ノ特許ヲ取消スコトヲ得其ノ取消ニ不服アルトキハ其ノ達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以內ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第八章　罰則

第七十七條　第二十四條第二十五條ヲ犯シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十八條　特許ヲ得スシテ採掘ヲ爲シタル者又ハ詐僞ニ由リテ特許ヲ得タル者ハ十五圓以上百五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十九條　認可ヲ得スシテ試掘ヲ爲シタル者又ハ詐僞ニ由リテ認可ヲ得タル者又ハ認可ノ期限ヲ過キ尙ホ試掘ヲ爲シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十條　第二十七條ヲ犯シタル者及第五十九條ノ豫防ニ著手セサル者又ハ第

六十二條但書ノ規定ヲ犯シタル者ハ十五圓以上百五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條第一項及第二項ヲ犯シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十一條　第十條ヲ犯シタル者ハ其ノ賣得金ノ半額ニ相當スル罰金ニ處ス

第八十二條　第十一條ノ販賣代價ヲ隱匿シタル者ハ其ノ隱匿シタル金額ノ半額ニ相當スル罰金ニ處ス

第八十三條　第三十九條ニ依リ屆出ツヘキ事項ヲ詐テ逋稅シタル者ハ其ノ逋稅金額ノ三倍ニ相當スル罰金ニ處シ其逋稅ニ關セサル事項ニ係ルモノハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十四條　第四十條ノ帳簿ヲ調製セス若ハ記載ヲ怠リ若ハ詐テ記載シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十五條　第六十四條第二項第六十九條及第七十二條ヲ犯シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十六條　第六條第三十七條第六十八條及第七十條ニ違背シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第八十七條　第八十一條第八十二條及第八十三條ノ場合ニ於テ自首シタル者ハ

其ノ納付スヘキ金額ヲ追徵シ其ノ罪ヲ問ハス

第八十八條　此ノ條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重及數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

鑛業人未成年瘋癲白痴又ハ瘖啞ニシテ此ノ罰則ヲ犯シタルトキハ其ノ後見人ヲ處罰ス

第九章　附則

第八十九條　此ノ條例實施以前ニ許可ヲ得タル試掘人又ハ借區人ハ其ノ許可ヲ得タル年限中試掘又ハ鑛業ヲ爲スコトヲ得

第九十條　此ノ條例實施以前ニ借區人ノ許可ヲ得借區年限滿期後尙ホ引續キ鑛業ヲ爲サントスル者ハ借區滿期以前ニ此ノ條例ニ依リ出願スヘシ

第九十一條　此ノ條例ノ施行ニ關スル細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第九十二條　此ノ條例ハ明治二十五年六月一日ヨリ施行ス明治六年太政官第二百五十九號布告日本坑法ハ同日限之ヲ廢止ス

○農商務省令第七號　明治二十五年三月十六日

鑛業警察規則左ノ通相定ム

鑛業警察規則

第一條　鑛夫五十人以上ヲ同時ニ入坑セシムル鑛山ニハ坑內ノ奧部ニ於テ連續シ且何時ニテモ出入シ得ヘキ裝置ヲ爲シタル二箇以上ノ坑口ヲ設クヘシ但同時ニ入坑セシムル鑛夫五十人未滿ノ鑛山ト雖モ鑛山監督署長ニ於テ必要ト認ムルトキハ本文ノ坑口ヲ設ケシムルコトアルヘシ

第二條　竪抗ノ坑口ニハ安全柵ヲ設ケ卷揚竪坑中人音ノ達セサル場所ニハ通信機ヲ設クヘシ

第三條　卷揚臺ヲ用ヰテ人ヲ昇降セシムル竪坑ニハ板圍アル堅牢ノ梯子道ヲ設クヘシ

第四條　竪坑內ニ架設スヘキ梯子ノ傾斜ハ八十度以內トシ少クトモ三十尺毎ニ蹈棚ヲ設クヘシ

第五條　人ヲ昇降セムル卷揚臺ニハ上蓋ヲ備フヘシ

前項ノ卷揚臺ニ用ヰル繩綱ハ少クトモ重量ノ十倍ニ耐ユルモノヲ要シ昇降ノ速力ハ一分時間ニ六百尺ヲ超ユルコトヲ得ス

第六條　人ヲ通行セシムル坑內ノ自轉車道及機械卷揚道ニハ軌道ノ一方ニ通行

ニ差支ナキ人道ヲ設クヘシ

前項ノ人道ヲ設ケサルトキハ軌道ノ傍側ニ於テ便宜避害所ヲ設ケ白色ニ塗リ置クヘシ

第七條　交通運搬ニ供スル坑道ハ幅三尺高五尺以上タルヘシ

第八條　坑内ニハ鑛夫ノ衞生上必要ナル分量ノ新鮮空氣ヲ給送スヘシ

第九條　破裂瓦斯ヲ發出スル石炭坑ニ於テハ鑛山係員ヲシテ安全燈ヲ携ヘ鑛夫就業前ニ坑内各工場ヲ巡視セシムヘシ若シ危險ノ虞アルトキハ相當ノ豫防法ヲ施行スルニ非サレハ鑛夫ヲ入坑セシムルコトヲ得ス

第十條　安全燈ハ鑛夫ノ入坑毎ニ破損其他危險ノ虞ナキヤ否ヤヲ檢査シ鎖鑰ヲ施シタル後ニ非サレハ鑛夫ニ渡スコトヲ得ス

鑛夫ハ安全燈ヲ開クコトヲ得ス

第十一條　安全燈ヲ用ヰル坑内ニ於テハ鑛夫ハ發火具ヲ携帶スルコトヲ得ス

第十二條　鑛業人ハ一日間ノ使用見積高ヨリ多量ノ破裂藥ヲ鑛夫ニ渡スコトヲ得ス

使用ノ後殘餘アルトキハ出坑ノ節坑口ニ於テ還付セシムヘシ

第十三條　裝藥ノ際鐵製込棒ヲ使用スルコトヲ得ス又込土ハ粘土其他發火ノ虞ナキ土類ノ外使用スルコトヲ得ス

導火線ニ點火スルモ破裂セサルトキハ點火後少クトモ十五分間ハ同場所ニ近寄ルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テハ其破裂藥ハ之ヲ掘出スコトヲ得ス

第十四條　鑛業ニ使用スル烟突汽罐發電機又ハ燒鑛所ヲ新設セントスルトキハ使用ノ目的ヲ記シタル設計書ヲ所轄鑛山監督署長ニ差出シ其認可ヲ受クヘシ

第十五條　同一鑛區内ニ於テ二人以上ノ鑛業人各自ニ試掘若クハ採掘ノ許可ヲ得タル鑛物ノ鑛脈交叉スルトキハ各鑛業人ハ互ニ鑛利ヲ損セサル樣協議ノ上試掘又ハ採掘スヘシ若シ協議整ハサルトキハ所轄鑛山監督署長ノ指定スルトコロニ依ルヘシ

第十六條　試掘ノ認可若クハ採掘ノ特許ヲ取消サレタルトキ又ハ廢業シタルトキハ危險ノ虞アル坑口ヲ閉塞シ後害ナキ樣修理スヘシ

第十七條　鑛業條例第五十九條第一項ノ場合ニ於テ鑛業人危險ノ豫防ヲ完成シタルトキハ所轄鑛山監督署ニ届出ッヘシ

第十八條　農商務省鑛山局員及鑛山監督署員ハ鑛業ヲ臨視シ若クハ鑛業ニ關スル總テノ帳簿ヲ査閲スルコトヲ得

第十九條　鑛山ニ於テ不時ノ變災アリタルトキハ鑛業人ハ直ニ所轄鑛山監督署ニ其事由ヲ屆出ツヘシ

第二十條　鑛業條例第六十四條第二項ノ鑛夫使役規則及同條例第七十二條ノ救恤規則ハ鑛夫ノ視易キ場所ニ掲ケ置クヘシ

第二十一條　鑛山ノ狀況ニ依リ本則第一條第三條又ハ第四條ノ規定ヲ實施シ難キトキハ理由ヲ具シ所轄鑛山監督署長ニ出願シ其免除ヲ受クヘシ

第二十二條　本則ニ違反シタルモノハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條　本則實施以前ニ許可ヲ得タル鑛山ニシテ本則ニ違フモノハ明治二十五年九月三十日迄ニ相當期限ヲ定メ實施ノ延期ヲ所轄鑛山監督署長ニ出願スヘシ

前項ノ期限ハ本則實施ノ日ヨリ五箇年ヲ超過スルコトヲ得ス

第二十四條　本則ハ鑛業條例實施ノ日ヨリ施行ス

○遞信省令第十四號　明治三十年六月二十三日

電氣事業取締規則

第一章　總則

第一條　此ノ規則中電氣事業ト稱スルハ電燈、電氣鐵道及其ノ他ノ電力事業ヲ謂フ但シ私設鐵道條例ニ據ル電氣鐵道及舶船內ノ電燈及電力事業ハ之ヲ除ク

第二條　此ノ規則中電線ト稱スルハ電氣傳送ニ用フル金屬線ヲ謂フ

第三條　此ノ規則中電路ト稱スルハ發電機、電線其ノ他ノ器具、大地等電流ノ通過スル一全路ヲ謂フ

第四條　此ノ規則中線路ト稱スルハ家屋外ニ施設セル電線及其ノ支持物ヲ謂フ

第五條　此ノ規則中引込線ト稱スルハ幹線ヨリ分岐シ需用者構外ニ於ケル支持物ヲ經由セス其ノ需用者ニ達スル屋外電線ヲ謂フ

第六條　此ノ規則中低壓ト稱スルハ直流法ニアリテハ六百「ヴォルト」交流法ニアリテハ三百實效「ヴォルト」ヲ超過セサル電壓ヲ謂フ

高壓ト稱スルハ低壓ノ制限ヲ超過シ直流法ニアリテハ三千五百「ヴォルト」交流法ニアリテハ三千五百實效「ヴォルト」ヲ超過セサル電壓ヲ謂フ

特別高壓ト稱スルハ高壓ノ制限ヲ超過セル電壓ヲ謂フ

第七條　電氣事業ヲ爲サムトスル者ハ營業用タルト自家用タルトヲ問ハス其ノ事業ノ種類ニ依リ第三十三條若クハ第八十一條ニ揭クル書類ヲ添ヘ遞信大臣ニ願出許可ヲ受クヘシ

此ノ規則第三十七條ニ揭クル場所以外ニ施設スルモノ及一時限リノ演藝興行用ニ供スルモノニシテ之ニ使用スル電氣ノ電壓直流法ニアリテハ五百「ヴォルト」交流法ニアリテハ二百五十實效「ヴォルト」以下ニシテ其ノ電氣力二千「ワット」ヲ超過セサルモノハ前項規定ノ限ニ在ラス但シ工事施行前此ノ規則第三十四條ニ揭クル工事設計明細書ヲ添ヘ遞信大臣ニ屆出ヘシ之ヲ變更スル場合亦同シ

第八條　特別高壓電氣ノ使用ハ特種ノ保安裝置ヲ爲スモノニ限リ遞信大臣其ノ土地ノ狀況ニ依リ許可スルモノトス

第九條　事業者事業ノ許可ヲ受ケタル後第三十三條第二項乃至第四項若ハ第八十一條第二項乃至第四項ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ遞信大臣ノ認可ヲ受クヘシ其ノ工事施行認可以前ニ於テ第三十三條第五項若ハ第八十一條第五項ノ事項ヲ變更セムトスル場合亦同シ

第十條　事業者ハ事業ノ許可ヲ得タル日ヨリ六箇月以內ニ第三十四條及第三十五條又ハ第八十二條及第八十四條ノ區別ニ從ヒ工事施行ノ認可ヲ遞信大臣又ハ地方長官ニ出願スヘシ

前項ニ據リ工事施行ノ認可ヲ受ケタルモノハ其ノ日ヨリ六箇月以內ニ工事ニ着手スヘシ其ノ增設又ハ變更ノ認可ヲ受ケタル場合亦同シ

第十一條　遞信大臣ハ臨時吏員ヲ派遣シ電氣工事施行中ノ工事又ハ事業開始後業務ノ實況ヲ監査セシメ其ノ施設他ニ障害ヲ及ホシ若ハ危險ノ虞アリト認ムルトキハ改修又ハ撤去若ハ使用ノ停止ヲ命スルコトアルヘシ但シ監査ニ係ル試驗費用ハ事業者ノ負擔トス

第十二條　遞信大臣ハ必要ト認ムル場合ニ於テ事業者ニ命シ電氣用器具及物品ノ見本ヲ差出シ其ノ試驗ヲ受ケシムルコトアルヘシ若試驗ノ成績不完全ナリト認ムルトキハ改修又ハ使用ノ停止ヲ命スルコトアルヘシ但シ其ノ試驗ニ係ル費用ハ事業者ノ負擔トス

第十三條　遞信大臣ハ地方長官（東京府ハ警視總監以下之ニ倣フ）ヲシテ第十一條ノ監査又ハ第十

二條ノ試驗ヲ爲サシムルコトアルヘシ若地方長官ニ於テ危險急迫ナリト認ムルトキハ改修又ハ撤去若ハ使用ノ停止ヲ命スルコトヲ得

第十四條　事業者其ノ施設スル工事落成シタルトキハ其ノ工事施行ノ認可ヲ受ケタル區別ニ從ヒ遞信大臣又ハ地方長官ニ屆出ヘシ

遞信大臣又ハ地方長官ハ前項ノ屆出ニ依リ吏員ヲ派遣シ其ノ落成工事ヲ監査セシメ完全ナリト認ムルトキハ使用認可證ヲ下付スヘシ其ノ證ヲ受ケサルモノハ使用スルコトヲ得ス但シ遞信大臣又ハ地方長官ニ於テ特ニ檢査ノ必要ナシト認ムルモノハ直ニ使用認可證ヲ下付スルコトアルヘシ

第十五條　事業者ハ學識經驗アル主任技術者ヲ置キ工事施行前其ノ履歷書ヲ添ヘ遞信大臣ニ屆出ヘシ爾後之ヲ變更シタルトキハ三日以內ニ其履歷書ヲ添ヘ屆出ヘシ但遞信大臣ニ於テ不適當ナリト認ムルトキハ其ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第十六條　事業者其ノ事業ノ一部若ハ全部ヲ賣買又ハ讓渡セムトスルトキハ當事者雙方連署ノ上遞信大臣ニ願出許可ヲ受クヘシ

前項ニ據リ許可ヲ受ケタル事業ノ引渡ヲ爲シタルトキハ三日以內ニ當事者雙方連署ノ上遞信大臣ニ屆出ヘシ

第十七條　左ノ事項ハ事業者三日以內ニ地方長官ニ屆出ヘシ

一　事業ノ開始及廢止

二　會社又ハ事務所名稱ノ變更

三　會社又ハ事務所ノ位置及其ノ變更

四　事業者又ハ主任技術者ノ改氏名

五　取締役、業務擔當者其ノ他事業管理者ノ氏名若ハ其ノ變更又ハ改氏名

六　送電ノ停止及廢止但シ其ノ理由ヲ記スヘシ

第十八條　事業者ハ其ノ事業ヨリ災害其ノ他ノ故障ヲ生シタルトキハ其ノ時日場所、原因及狀況等ヲ具シ地方長官ニ屆出ヘシ

第十九條　事業者ハ送電中ノ架空ノ電燈線、電力線又ハ電氣鐵道用電線ノ近傍ニ出火アルトキハ直ニ現場ニ技術者又ハ工夫ヲ派遣シ危險豫防ノ手續ヲ施シ其ノ旨出張ノ警察官ニ屆出シムヘシ其ノ出張員ハ該官ノ許可ヲ得ルニアラサレハ退場スルコトヲ得ス

出火ノ場所ニ派遣ノ技術者又ハ工夫ハ晝間ハ標旗夜間ハ標燈ヲ携帶スヘシ

第二十條　事業者ハ送電中ノ架空ノ電燈線電力線又ハ電氣鐵道用電線ノ近傍ニ出火アルトキハ直ニ其ノ區域內ノ電流ヲ遮斷スヘシ

前項ニ據リ送電ヲ止メタル區域內電線ノ各要所ニ晝間ハ標旗夜間ハ標燈ヲ揭クヘシ

第二十一條　前二條ノ標旗及標燈ノ制式ハ別ニ之ヲ定ム

第二十二條　地方長官ハ出火其ノ他非常ノ場合ニ際シ危險豫防ノ手續ヲ爲サシムルノ必要アリト認ムルトキハ常ニ線路ノ各要所ニ技術者又ハ工夫ノ散宿ヲ命スルコトアルヘシ

散宿所ニハ屋外衆人ノ睹易キ所ニ其ノ標札ヲ揭クヘシ

第二十三條　事業者第十條ニ規定スル期限內ニ工事施行認可ノ出願ヲ爲サス又ハ工事ニ著手セス又ハ落成期限ヲ過クルモ尙ホ落成セス若ハ使用認可證ヲ受ケタル日ヨリ六箇月以內ニ線路ヲ使用セサルトキハ遞信大臣又ハ地方長官ニ於テ事業ノ許可又ハ工事施行ノ認可ノ全部又ハ一部ヲ取消スコトアルヘシ但シ天災其ノ他正當ノ理由アリト認ムルトキハ相當ノ延期ヲ與フルコトアルヘシ

第二十四條　前條ニ據リ遞信大臣又ハ地方長官ニ於テ事業ノ許可若ハ工事施行ノ認可ヲ取消シタルトキ又ハ事業者廢業ノトキニ於テハ地方長官ニ於テ期限ヲ指定シ線路ノ撤去ヲ命スヘシ若事業者之ヲ怠ルトキハ地方長官ニ於テ之ヲ執行シ事業者ヲシテ其ノ費用ヲ辨償セシムヘシ

第二十五條　送電ヲ廢止シタル線路ハ地方長官ニ於テ期限ヲ指定シ之ヲ撤去ヲ命スルコトアルヘシ若事業者之ヲ怠ルトキハ前條ノ例ニ據リ處分ス

第二十六條　此ノ規則ニ據リ遞信大臣ニ差出ス書類ハ總テ所轄地方廳（東京府ハ警視廳）ヲ經由スヘシ

第二十七條　遞信大臣又ハ地方長官ハ必要ナリト認ムル場合ニ於テ此ノ規則第四十七條第六十九條第八十九條第九十條第九十二條第九十三條及第百四條ノ記錄ヲ差出サシムルコトアルヘシ

第二十八條　此ノ規則中第三十八條第七十五條第七十八條第七十九條第八十條及第九十五條第一項ノ規定ハ自家用電氣事業ニ適用セス

第二十九條　此ノ規則中第三十六條第四十條第五十五條第六十三條第六十四條第六十五條第六十七條第六十八條及第六十九條ノ規定ハ發電所配電所及變壓

所内ニ適用セス

第三十條　自家用ノ爲施設スル電氣事業ハ此ノ規則第三十三條及第三十四條若ハ第八十一條及第八十二條ノ願書ヲ同時ニ提出スルコトヲ得

第三十一條　事業者此ノ規則ノ條項ニ違背シ又ハ此ノ規則ニ據リ發スル命令ヲ遵守セサルトキハ逓信大臣ハ電氣ノ使用ヲ停止シ又ハ事業ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第三十二條　逓信大臣ハ必要ナリト認ムル塲合ニ於テ此ノ規則規定以内ノ施設ヲ命スルコトアルヘシ

第二章　電燈及電力

第一節　出願及報告

第三十三條　此ノ規則第七條ニ據リ電燈又ハ電力事業ノ許可ヲ得ムトスル者ハ其ノ願書ニ左ノ事項ヲ具備シタル書類ヲ添附スヘシ

一　會社又ハ事務所ノ名稱

二　事業ノ目的

三　供給區域（自家用ニアリテハ使用區域）

四　發電所、變壓所及配電所ノ供置並其ノ位置ヨリ供給區域（自家用ニアリテハ使用區域ニ達スル線路ノ經過地名及其ノ略圖（縮尺凡二萬分ノ一）

五　工事設計（原動力ノ種類及其ノ馬力數、電氣方式、電氣馬力數又ハ「ワット」數、線路ノ種類ヲ記スルヲ要ス）

水力ヲ原動力ニ使用スルモノハ水利使用許可書類若ハ承諾書又ハ其ノ謄本ヲ添附スヘシ

第三十四條　電燈又ハ電力事業ノ許可ヲ得タル者ハ工事施行前左ノ事項ヲ具備シタル書類ヲ逓信大臣ニ差出シ工事施行ノ認可ヲ受クヘシ其ノ事項ヲ變更スル塲合亦同シ

一　工事設計明細書（發電所、變壓所及配電所内機械器具ノ裝置法、發電機ノ種類、電氣馬力數、電氣方式、電氣馬力數又ハ「ワット」數、變壓器ノ種類、電氣方式、配電法、線路ノ種類及其ノ構造法、保安裝置法ヲ明細ニ記入スルヲ要ス）

二　落成期限（工事ヲ數部ニ區分シ各部ノ落成毎ニ第十四條ノ檢査ヲ受ケムトスルモノハ其ノ各部ノ落成期限）

工事設計明細書ニハ原動機ノ種類、個數及其ノ馬力數ヲ記載セル書類ヲ添附スヘシ其ノ事項ヲ變更シタルトキハ其ノ都度逓信大臣ニ屆出ヘシ

第三十五條　線路ヲ新設延長若ハ變更セムトスルトキハ其ノ都度工事施行前左ノ事項ヲ具備シタル書類ヲ地方長官ニ差出シ工事施行ノ認可ヲ受クヘシ其ノ

電柱、埋線試驗口ノ位置、埋線ノ深サ及落成期限ヲ變更セムトスル場合亦同シ但シ引込線共同引込線及使用者構內ニ在ルモノハ認可ヲ受クルヲ要セス

一　線路敷地使用許可書類若ハ地主ノ承諾書又ハ其ノ謄本

二　線路實測圖面(縮尺二千分ノ一)(發電所、變壓所及配電所ノ位置、電柱、埋線、試驗口及線路ノ位置、其ノ近傍ノ町村名、電柱ノ番號、道路ヘ出幅、其ノ最近地ノ番地、道路ノ幅員、埋線ノ深サ、電信線、電話線、其ノ他電氣信號線等ノ位置及鐵道ト交叉スルアレハ其ノ位置等ヲモ明瞭ナル凡例ヲ掲ケ記入スルヲ要ス)

三　落成限期(工事ヲ數部ニ區分シ各部ノ落成毎ニ第十四條ノ檢査ヲ受ケムトスルモノハ其ノ各部ノ落成期限)

第三十六條　電燈線又ハ電力線ヲ增設シ若ハ撤去シタルトキハ三日以內ニ地方長官ニ屆出ヘシ但シ引込線、共同引込線及使者構內ニ在ルモノハ此ノ限ニアラス

第三十七條　劇場、寄席、紡績工場又ハ火藥、石油其ノ他爆發燃燒シ易キ危險ノ物品ヲ製造シ若ハ貯藏スル場所內ニ電氣ヲ供給セムトスルトキハ事業者及需用者連署ノ上擔當技術者ノ署名シタル工事方法書ヲ地方長官ニ差出シ認可ヲ受クヘシ但シ一時限リ劇場內ニ於テ演藝興行用ニ供スル爲二千[ワット]ヲ超過セサル電氣ヲ供給セムトスルトキハ本條ノ認可ヲ受クルヲ要セス其ノ都度地方長

官ニ屆出ヘシ

前項ニ據リ地方長官ノ認可ヲ得テ施行シタル工事落成ノ後ハ三箇月毎ニ一回主任技術者ノ試驗成績書ヲ地方長官ニ差出スヘシ

第三十八條　引込線、共同引込線ヲ新設增設又ハ變更撤去シタルトキハ左ノ事項ヲ記シ毎月一回取纏メ地方長官ニ屆出ヘシ但シ引込線、共同引込線ニ移動ナキモ左ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキ亦同シ

一　需用ノ場所

二　電燈ノ種類(白熱燈、弧燈ノ別)及其ノ箇數

三　電動機ノ種類、箇數及電氣馬力數又ハ[ワット]數

第二節　工事

第三十九條　電路ハ全部大地ヨリ充分絕緣スヘシ但シ他ニ障害ヲ及ホスノ虞ナシト認ムル場合ハ遞信大臣ノ認可ヲ得テ本條ノ規定ニ據ラサルコトヲ得

第四十條　電線ハ使用電流ノ爲攝氏二十度以上ノ溫度ヲ增スコトナク且絕緣物ニ變化ヲ顯ハササルモノタルヘシ

第四十一條　各電線ニハ完全ナル安全器ヲ備ヘ電流ノ爲攝氏四十度以上ノ溫度

ヲ增サシムヘカラス

第四十二條　各電路ニハ必要ナル場所ニ避雷ノ裝置ヲ爲スヘシ

第四十三條　高壓線路ニハ各要所ニ開閉器ヲ裝置シ火急ノ場合ニ於テ送電ヲ停止スルニ便ナラシムヘシ

第四十四條　電路ニハ必ス漏電ヲ檢スルノ裝置ヲ爲スヘシ但シ遞信大臣ニ於テ電路ト大地トヲ接續スルコトヲ認可シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四十五條　各高壓電路ニハ發電所ニ於テ鋭敏ナル自働遮斷法ヲ設クヘシ

第四十六條　架空電線ハ總テ絶縁物ヲ以テ被覆シ外物ニ觸ルルモ容易ニ損傷セサル樣外裝シタルモノタルヘシ

三百「ヴォルト」以上ノ低壓ニ使用スル電線ノ被覆ハ適當ナル絶縁物ヲ以テシ其ノ絶縁力ハ二十四時間浸水ノ後更ニ鹽水ニ浸シ一分時間充電ノ後一百「ヴォルト」以上ノ電壓ヲ以テ試驗シ攝氏十五度ノ温度ニ於テ一里五百「オーム」以上ノモノタルヘシ

高壓ニ使用スル電線ノ被覆ハ護謨又ハ之ニ相當スル善良ナル絶縁物ヲ以テシ其ノ厚サ三厘五毛以上ニシテ其ノ絶縁力ハ二十四時間浸水ノ後更ニ鹽水ニ浸

シ一分時間充電ノ後一百「ヴォルト」以上ノ電壓ヲ以テ試驗シ攝氏十五度ノ温度ニ於テ一里四十萬「オーム」以上ノモノタルヘシ

人家ヲ離隔シ交通稀少ニシテ危險ノ虞ナシト認ムル場所ニ於ケル架空電線ハ遞信大臣ノ認可ヲ得テ前各項ノ制限ニ據ラサルコトヲ得

第四十七條　屋外架空高壓電線ノ大地トノ絶縁力ハ一百「ヴォルト」以上ノ電壓ヲ以テ試驗シ一里平均十萬「オーム」ヲ下ルヘカラス但シ土地ノ狀況ニ依リ危險ノ虞ナシト認ムル場合ハ遞信大臣ノ認可ヲ得テ本條ノ制限ヲ低減スルコトヲ得

前項ノ絶縁力ハ毎月一回之ヲ試驗シ其ノ成績ヲ記錄シ置クヘシ

第四十八條　屋外ニ架設スル架空電線ノ切斷面積ハ直徑六厘五毛ノ圓形ノ積ヨリ小ナルヘカラス

第四十九條　道路ニ架設スル架空電線ハ道路ノ片側ニアラサレハ其ノ架設ヲ許サス若電氣鐵道用架空電線又ハ他ノ電燈電力用架空電線ノ架設シアル道路ニ架設スルトキハ之ト同側ニ架設シ若道路ノ片側ニ電信線、電話線其ノ他電氣信號線ノ架設シアルトキハ他ノ片側ニ架設スヘシ但シ工事上止ムヲ得サル場所ハ遞信大臣ノ認可ヲ得テ本條ノ制限ニ據ラサルコトヲ得

第五十條　架空電線ハ道路ヲ横斷スル所ニ於テハ地表ヲ距ル二十尺以上其ノ他ノ場所ニ於テハ十六尺以上タルヘシ又造營物ニ沿ヒ架設スルトキハ四尺以上造營物ノ上ヲ架渉スルトキハ六尺以上離隔セシムヘシ但シ危險ノ虞ナシト認ムル場所ハ地方長官ノ認可ヲ得テ本條ノ制限ニ據ラサルコトヲ得

第五十一條　弧狀電燈用ノ架空電線ハ往復線ヲ並行ニ架設スヘシ但シ他ニ障害ヲ及ホスノ虞ナシト認ムル場合ハ遞信大臣ノ認可ヲ得テ本條ノ制限ニ據ラサルコトヲ得

第五十二條　他人ニ屬スル架空ノ電信線電話線又ハ電氣信號線ト並行交叉若ハ接近シテ架空電線ヲ架設スルトキハ左ノ距離ヲ保タシムヘシ但シ電信線電話線其ノ他電氣信號線管理者ノ承諾ヲ得タルトキ及引込線、共同引込線ニシテ工事上止ムヲ得サルモノニ限リ本條規定ノ距離ニ據ラスシテ架設スルコトヲ得ヘシト雖二尺以内ニ接近セシムヘカラス

一　電信線又ハ電氣信號線ト並行シテ架設スルトキ及往復線並架ノ直流法電燈線ト電話線ト並行シテ架設スルトキハ六尺以上

二　交流法電燈線單線架設ノ直流法電燈線又ハ電力線ニシテ電話線ト並行シテ架設スルトキハ十二尺以上

三　電信線、電話線其ノ他電氣信號線ト交叉又ハ接近シテ架設スルトキハ三尺以上

第五十三條　他人ニ屬スル架空ノ電燈線、電力線又ハ電氣鐵道用電線ト交叉シ若ハ之ニ接近シテ架空電線ヲ架設スルトキハ三尺以上離隔スヘシ但シ工事上已ムヲ得サル場所ニシテ地方長官ノ認可ヲ得タルモノ又ハ同一ノ電柱ニ架渉スルモノハ本條ノ制限ニ據ラサルコトヲ得

第五十四條　電信線、電話線又ハ其ノ他ノ電氣信號線ト其上部ニ於テ交叉シ若ハ六尺以内ノ距離ニ接近シテ架空電線ヲ架設スルトキハ其ノ前日マテニ關係管理者ニ通知シ立會ヲ請フヘシ

第五十五條　弧狀電燈ハ炭素粉ノ墜落スルコトナキ樣豫防ノ裝置ヲ爲スヘシ屋外ノ弧狀電燈ハ人ノ容易ニ觸レサル樣取附クヘシ

第五十六條　架空電線ノ分岐ハ其ノ電線ノ支持點ニ於テ之ヲ爲スヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ地方長官ノ認可ヲ得テ本條ノ制限ニ據ラサルコトヲ得

第五十七條　引込線ヨリ分岐シ道路ヲ横斷セスシテ五個以内ノ需用者ニ共同引

込線ヲ施設スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ家屋ニ接近シタル部分ニハ特ニ第四十六條ニ規定スル高壓用絶縁電線ヲ用フヘシ

第五十八條　架空電線以外ノ電線ヲ他ノ金屬體ト交叉シ若ハ之ニ接近シテ施設スルトキハ其ノ電線又ハ之ヲ納メ若ハ保護スル爲用フル金屬體ヨリ他ノ金屬體ニ放電ヲ起ササル樣豫防方法ヲ設クヘシ

第五十九條　埋線試驗口ハ成ルヘク瓦斯又ハ水ノ浸入スルコトナキ樣築造スヘシ若瓦斯ノ浸入スルコトアルモ電氣作用ノ爲爆發セサル樣豫防方法ヲ設クヘシ

第六十條　高壓電線ト低壓電線トヲ同一ノ管若ハ樋内ニ納ムルコトヲ許サス

第六十一條　架空電線以外ノ高壓電線ヲ人畜ニ危害ヲ及ホスノ虞アル場所ニ施設スルトキハ完全ナル絶縁方法ヲ施シ之ヲ堅牢ナル管若ハ樋内ニ納ムヘシ

第六十二條　電線ヲ納ムル暗渠管若ハ樋等ハ堅牢ニシテ荷車其ノ他重大ナル重量ノ壓力ニ耐ヘ且容易ニ瓦斯又ハ水ノ浸入セサル樣築造スヘシ

第六十三條　電線ヲ納メ若ハ之ヲ鎧裝スル爲用フル金屬體ハ充分大地ト電氣的接續ヲ爲スヘシ但シ電燈球取附用器具其ノ他之ニ類スル短小ナルモノハ此ノ

限ニ在ラス

第六十四條　開閉器、安全器、抵抗器及其ノ他導體ニ接スル器具ハ耐火質ノモノタルヘシ否ラサレハ耐火質ノ物體ニ取附クヘシ

第六十五條　屋内ニ施設スル電線ハ總テ被覆シタルモノヲ使用シ時々點檢シ得ヘキ所ニシテ常ニ人ノ容易ニ觸レサル樣取附クヘシ若點檢シ難キ所ニ取附クルトキハ第六十六條ニ規定スル高等絶縁電線ヲ使用スヘシ

第六十六條　前條ノ高等絶縁電線ハ護謨又ハ之ニ相當スル善良ナル絶縁物ヲ以テ被覆シ其ノ絶縁力ハ二十四時間浸水ノ後更ニ塩水ニ浸シ一分時間充電ノ後一百「ヴォルト」以上ノ電壓ヲ以テ試驗シ攝氏十五度ノ温度ニ於テ一里一百「メグオーム」以上ノモノタルヘシ

第六十七條　屋内ニ施設スル電線ハ碍子ヲ使用シテ之ヲ取附クヘシ常ニ乾燥セル場所ニシテ三百「ヴォルト」以下ノ電壓ニ使用スル電線ニ限リ臺附木製「クリート」ヲ使用スルモ妨ケナシ但シ第六十六條ニ規定スル高等絶縁電線ト同等以上ノモノヲ使用スル場合ニハ此ノ限ニ在ラス

第六十八條　電線ノ天井壁及床等ヲ通過スル箇所又ハ屋内ニ於テ電信線電話線

電氣信號線水管瓦斯管其ノ他金屬體ニ接近スルカ若ハ相互ニ交叉スル所ニ於テハ之ヲ碍管內ニ納メ又ハ特別ノ裝置ヲ爲スヘシ

第六十九條　屋內電線ノ絕緣力ハ機械器具及附屬物ヲ合セ漏洩電流ヲシテ最大供給電流ノ五千分ノ一ヲ超過セシムヘカラス

前項ノ絕緣力ハ每年一回以上之ヲ試驗シ其ノ成績ヲ記錄シ置クヘシ

第七十條　電柱ニハ其ノ事業者並電柱ノ番號ヲ記スヘシ

高壓電線ヲ支持スル腕木ハ其ノ全部ヲ赤色ニ塗ルヘシ

第三節　變壓

第七十一條　變壓所ハ事業ノ爲專用スル場所ニ設置スヘシ

變壓器ハ當業者ノ外容易ニ之ニ觸ルルコト能ハサル場所ニ設置スヘシ

石造、煉化造、土藏造及塗家等ノ外部ニ限リ第七十三條ノ例ニ據リ變壓器ヲ取附クルコトヲ得

第七十二條　變壓器ノ內外ヲ問ハス低壓電線ト高壓電線ト相互ノ接觸ヨリ生スル危險ヲ豫防スル爲適當ノ方法ヲ設クヘシ

第七十三條　電柱上ニ設置スル變壓器ハ耐火耐水質ノ函內ニ納メ地上十六尺以上ノ所ニ取附クヘシ

第四節　供給

第七十四條　需用者ノ家屋內ニ供給スル電氣ノ電壓ハ直流法ニアリテハ五百〔ヴォルト〕交流法ニアリテハ二百五十實效〔ヴォルト〕以下タルヘシ特ニ此ノ制限以上ノ電氣供給ヲ要スルトキハ事業者需用者ト連署ノ上工事方法書ヲ遞信大臣ニ差出シ認可ヲ受クヘシ

第七十五條　需用者ノ需メニ應スル電氣供給時間中ハ事業者其ノ契約セル電氣ヲ充分ニ供給シ正當ノ理由ナクシテ送電ヲ停止スルコトヲ得ス

第七十六條　電路ニ送電スルトキハ其ノ電路ヲ檢査シ安全ト認ムルニアラサレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第七十七條　架空ノ高壓電線ハ一線條ニ付五萬〔ワット〕以上其ノ他ノ場合ニ於テハ二十萬〔ワット〕以上ヲ送電スルコトヲ得ス但シ危險ノ虞ナシト認ムル場合ハ遞信大臣ノ認可ヲ得テ本條ノ制限ニ據ラサルコトヲ得

第七十八條　電燈幹線各部分ノ電壓ハ常ニ其ノ百分ノ三以上ノ變動ヲ起サス且變動ノ爲光力ニ不定ヲ顯ハササル樣維持スヘシ

第七十九條　需用者家屋內ノ線路ニ於テ害障アルコトヲ發見シタルトキハ障害ノ復舊スルマテ送電ヲ停止スヘシ此ノ場合ニ於テハ豫告ノ遑ナキトキハ外豫メ其ノ旨需用者ニ通知スヘシ

第八十條　修繕其ノ他ノ原因ニ因リ幹線中或ル部分ヘ一時間以上送電ヲ停止スル必要アルトキハ其ノ原因火急ニ起リタル場合ノ外豫メ關係需用者ニ停止ノ旨ヲ通知スヘシ

第三章　電氣鐵道

第一節　出願及報告

第八十一條　此ノ規則第七條ニ據リ電氣鐵道事業ノ爲電氣使用ノ許可ヲ得ムトスル者ハ其ノ願書ニ左ノ事項ヲ具備シタル書類ヲ添附スヘシ

一　會社又ハ事務所ノ名稱

二　事業ノ目的

三　發電所、變壓所及配電所ノ位置竝其ノ位置ヨリ軌道ニ達スル線路ノ經過地名及其ノ略圖(縮尺凡二萬分ノ一)

四　軌道略圖(縮尺凡二千分ノ一軌道ノ位置近傍ノ町村名他ノ鐵道ト交叉スル所アレハ其ノ位置(單線式電氣鐵道ニアリテハ地下埋設ノ金屬線、金屬管其ノ他金屬體ノ位置ヲモ等ヲ凡例ヲ掲ケ記入スルヲ要ス)

五　工事設計(原動力ノ種類及其ノ馬力數、電氣方式、電氣馬力數又ハ「ワツト」數、電氣鐵道方式線路ノ種類ヲ記入スルヲ要ス)

六　軌道設敷特許狀及命令書又ハ其ノ謄本

原動力ニ水力ヲ使用スルモノハ水利使用許可書類若ハ承諾書又ハ其ノ謄本ヲ添附スヘシ

第八十二條　電氣鐵道事業ノ爲電氣使用ノ許可ヲ得タルモノハ工事施行前左ノ事項ヲ具備シタル書類ヲ遞信大臣ニ差出シ工事施行ノ認可ヲ受クヘシ其ノ事項ヲ變更スル場合亦同シ

一　工事設計明細書(發電所、變壓所及配電所內機械器具ノ裝置法、發電機、原動機ノ種類、箇數及電氣馬力數又ハ「ワツト」數、電車ノ裝置法、變壓器ノ種類、箇數及電氣馬力數又ハ「ワツト」數、電車內機械器具ノ裝置法、電氣方式、配電法、電氣鐵道方式軌道ノ構造法軌鐵ノ種類及重量(單線式電氣鐵道ニアリテハ軌鐵ノ接續法ヲ構造法保安裝置法ヲ明細ニ記入スルヲ要ス)

二　軌道實測圖面(縮尺二千分ノ一)軌道ノ位置近傍ノ町村名軌道及道路ノ幅員、電信線、電話線、其ノ他電氣信號線ノ位置、他ノ鐵道ト交叉スル所アレハ其ノ位置(單線式電氣鐵道ニアリテハ發電氣ノ一極ヲ接地シタル點ノ位置地下埋設ノ金屬線、金屬管其ノ他金屬體ノ位置ヲモ等ヲ凡例ヲ掲ケ記入スルヲ要ス

三　落成期限(工事ヲ數部ニ區分シ各部ノ落成毎ニ第十四條ノ檢査ヲ受ケムトスルモノハ其ノ各部ノ落成期限

工事設計明細書ニハ原動機ノ種類個數及其ノ馬力數ヲ記載セル書類ヲ添附スヘシ其ノ事項ヲ變更シタルトキハ其都度遞信大臣ニ屆出ヘシ

第八十三條　左ノ事項ハ事業者三日以内ニ地方長官ニ屆出ヘシ

一　幹線又ハ絶縁歸線ノ增設又ハ撤去

二　車輛數及其ノ增減

第八十四條　此ノ規則第三十五條ノ規定ハ電氣鐵道ニモ亦之ヲ適用ス

第二節　工事

第八十五條　遞信大臣ハ土地ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ歸線ノ一部トシテ大地ヲ使用スルコトヲ許可セサルヿアルヘシ

第八十六條　架空電車線ノ太サハ直徑二分五厘以上ニシテ極メテ强硬ナル線條ヲ用フヘシ但シ危險ノ虞ナシト認ムル場合ハ遞信大臣ノ認可ヲ得テ本條ノ制限ニ據ラサルコトヲ得

第八十七條　歸線ハ軌道ノ中間若ハ軌道ノ外側一尺以内ニ敷設スル部分及軌鐵ヲ除ク外ハ總テ大地ヨリ絶縁スヘシ但シ他ニ障害ヲ及ホスノ虞ナシト認ムル場所ハ遞信大臣ノ認可ヲ得テ本條ノ制限ニ據ラサルコトヲ得

第八十八條　絶縁ヒサル歸線ヲ使用スル場合ニ於テ地下ニ埋設シタル金屬體アルトキハ左ノ各項ニ據リ施設ヲ爲スヘシ但シ金屬體所有者ノ承諾ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

一　歸線ハ地下埋設ノ金屬體ヨリ成ルヘク離隔シ其ノ距離六尺以上タルヘシ但シ工事上止ムヲ得サルトキハ六尺以内ニ近クルコトヲ得ルモ此ノ場合ニ於テハ遞信大臣ノ認可ヲ得テ歸線ト金屬體トノ間ニ不導體ノ離隔物ヲ設ケ電流ヲシテ地中六尺以上ヲ通過スルニアラサレハ兩者間ヲ流通スルコト能ハサラシムヘシ

二　歸線ト其ノ近傍ニ在ル金屬體トノ間ニ電流ヲ通スル場合ニ於テ其ノ方向歸線ヨリ金屬體ニ向テ流ルヽトキハ兩者間ノ電壓ノ差四「ヴオルト」又金屬體ヨリ歸線ニ向テ流ルヽトキハ兩者間ノ電壓ノ差一「ヴオルト」ヲ超過セシムヘカラス

三　軌鐵ハ電氣的完全ナル接續ヲ爲スヘシ

四　軌鐵ノ外一平方寸ノ百分ノ四以上ノ截面積ヲ有スル銅線又ハ之ト同等以上ノ導電力ヲ有スル歸線ヲ用フヘシ

五　軌道ノ中間又ハ軌道ノ外側一尺以内ニ敷設シタル絶縁セサル歸線長サ一百尺以下毎ニ一平方寸ノ百分ノ三以上ノ截面積ヲ有スル銅線又ハ之ト同等以上ノ導電力ヲ有スル他ノ方法ヲ以テ軌鐵ト接續スヘシ

第八十九條　前條ノ場合ニ於テハ歸線ノ絶縁セサル部分ニ起ルヘキ最大電位ノ差及第九十條ニ規定スル接地點ヨリ發電機ニ向テ流ル、電流ハ常ニ之ヲ表示スルノ裝置ヲ爲シ之ヲ毎日記錄シ置クヘシ

第九十條　發電機ノ一極ヲ接地シタル點ノ近傍ニ於テ二箇ノ地板ヲ埋設シ且四「ヴォルト」以下ノ電壓ヲ用ヒテ兩接地點間ニ二「アムペアー」以上ノ電流ヲ發セシムル樣之ヲ施設シ少クトモ毎月一回以上之ヲ試驗シ其ノ成績ヲ記錄シ置クヘシ

前項接地點ハ金屬體ヨリ六尺以上ヲ隔テタル所ニ施設シ又埋設スヘキ地板ノ距離ハ十間以上タルヘシ

本條ニ適合セル接地點ヲ得難キ場合ニハ遞信大臣ノ認可ヲ得テ他ノ方法ヲ用フルコトヲ得

第九十一條　絶縁電線ノ絶縁力ハ其ノ漏洩電流軌道一里ニ對シ一「アムペアー」ノ三十分ノ一ヲ超過セサル樣維持スヘシ若其ノ漏洩電流軌道一里ニ對シ一「アムペアー」ヲ超過シ二十四時間ヲ過クルモ之ヲ除去スルコト能ハサルトキハ直ニ車輛ノ運轉ヲ停止スヘシ但シ地下ニ埋設シタル絶縁電線ノ絶縁力ハ一里四百萬「オーム」ヲ下ルヘカラス

遞信大臣ハ土地ノ狀況ニ依リ前項ノ制限ヲ輕減スルコトアルヘシ

第九十二條　前條第一項本文ノ洩漏電流ハ毎日一回第一項但書ノ絶縁力ハ毎月一回使用最大電壓ヲ用ヒ之ヲ試驗シ其ノ成績ヲ記錄シ置クヘシ

第九十三條　歸線ト金屬體トノ電氣的接續ヲ爲スノ必要アル場合ニ於テハ金屬體所有者ノ承諾ヲ得タル後遞信大臣ノ認可ヲ受クヘシ其ノ接續ハ最モ善良ニシテ且容易ニ之ヲ點檢シ得ル樣施設シ三箇月毎ニ一回以上之ヲ試驗シ其ノ成績ヲ記錄シ置クヘシ

第九十四條　道路ニ架設スル架空電線ハ電車線ヲ除ク外道路ノ片側ニアラサレハ其ノ架設ヲ許サス若架空ノ電燈線電力線ニ之ト同側ニ架設シ若道路ノ片側ニ電信線電話線其ノ他電氣信號線ノ架設シアルトキハ他ノ片側ニ架設スヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ遞信大臣ノ認可ヲ得テ本條ノ制限ニ據ラサルコトヲ得

第九十五條　電車線ハ十町以内ノ區劃ニ分チ非常其ノ他道路ニ故障起リタル場合ニ於テ容易ニ電流ヲ遮斷シ得ル樣施設スヘシ但シ遞信大臣ハ土地ノ狀況ニ依リ本條ノ制限ヲ輕減スルコトアルヘシ

幹線ハ各要所ニ開閉器ヲ裝置シ火急ノ場合ニ於テ送電ヲ停止スルニ便ナラシムヘシ

幹線ニハ發電所ニ於テ銳敏ナル自動遮斷法ヲ設クヘシ

第九十六條　電信線電話線其ノ他電氣信號線ヲ架設セル場所ニ架空電線ヲ架設スルトキハ危險ノ虞ナク且障害ヲ與ヘサル樣離隔スヘシ

第九十七條　架空電線ハ電車線ヲ除ク外總テ絶緣物ヲ以テ被覆シ外物ニ觸ルヽモ容易ニ損傷セサル樣外裝シタルモノタルヘシ

三百「ヴォルト」以上ノ低壓ニ使用スル電線ノ被覆ハ適當ナル絶緣物ヲ以テシ其ノ絶緣力ハ二十四時間浸水ノ後更ニ鹽水ニ浸シ一分時間充電ノ後一百「ヴォルト」以上ノ電壓ヲ以テ試驗シ攝氏十五度ノ温度ニ於テ一里一百「オーム」以上ノモノタルヘシ

高壓ニ使用スル電線ノ被覆ハ第四十六條規定ノ制限ニ據ルヘシ

人家ヲ離隔シ交通稀少ニシテ危險ノ虞ナキ場所ニ於ケル架空電線ハ遞信大臣ノ認可ヲ得テ前各項ノ制限ニ據ラサルコトヲ得

第九十八條　架空ノ電車線ニハ其ノ上部三尺以上ノ距離ニ於テ少クトモ二條ノ金屬線ヲ大地ヨリ絶緣架設スルカ若ハ適當ナル方法ヲ設ケ電信線電話線其ノ他電氣信號線ト電氣的混觸ヲ豫防スルノ裝置ヲ爲スヘシ但シ危險ノ虞ナシト認ムル場合ハ遞信大臣ノ認可ヲ得テ本條ノ制限ニ據ラサルコトヲ得

第九十九條　架空ノ電車線ハ地表ヲ距ル十六尺以上其ノ他ノ架空電線ハ道路ヲ横斷スル所ニ於テハ表地ヲ距ル二十尺以上其ノ他ノ場所ニ於テハ十六尺以上タルヘシ又造營物ニ沿ヒ架設スルトキハ四尺以上造營物ノ上ヲ架渉スルトキハ六尺以上離隔セシムヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ危險ノ虞ナシト認ムル場所ハ地方長官ノ認可ヲ得テ本條ノ制限ニ據ラサルコトヲ得

第百條　此ノ規則中第四十條第四十一條第四十二條第四十四條第五十二條本文及第三項第五十三條第五十四條第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第六十四條第七十條第七十一條第一項及第二項第七十二條及第七十三條ノ規定ハ電氣鐵道ニモ亦之ヲ適用ス

第三節　機械及運轉

第百一條　電車線ニ使用スル電氣ハ直流法ニシテ其ノ電壓ハ六百〔ヴォルト〕以下タルヘシ但シ六百〔ヴォルト〕以上ノ電壓又ハ交流法ノ電氣ヲ使用セムトスルトキハ遞信大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第百二條　電車ニハ總テ避雷ノ裝置ヲ爲スヘシ

第百三條　地方長官ハ必要ト認ムル場合ニ於テ事業者ニ命シ電車ニ避難器速度制限器特種ノ緩急器等ヲ裝置セシムルコトアルヘシ

第百四條　毎日運轉スル車輛數及其ノ使用スル最大ノ電流及電壓ハ之ヲ記錄シ置クヘシ

第百五條　絶縁セサル歸線ヲ使用スルトキハ其ノ歸線ハ發電機ノ消極ニ接續スヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ遞信大臣ノ認可ヲ得テ本條ノ制限ニ據ラサルコトヲ得

第四章　罰則

第百六條　此ノ規則第七條第一項ノ許可若ハ第九條ノ認可又ハ第三十四條若ハ第八十二條ノ認可ヲ受ケス又ハ第七條第二項ノ屆出ヲ爲サスシテ工事ニ著手シ又ハ第十四條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ貳圓以上貳拾五圓以下ノ罰金又ハ十二日以上二十五日以下ノ禁錮ニ處ス

第百七條　此ノ規則第十五條第十九條第二十條第三十五條第三十七條第五十七條第七十條第七十四條第七十五條第七十七條第七十九條第八十條第九十三條前段及第百一條ノ規定ニ違反シ又ハ第十七條第十八條第三十六條第三十八條及第八十三條ノ屆出ヲ爲サス又ハ第二十七條ノ記錄ヲ差出サス若ハ第四十七條第六十九條第八十九條第九十條第九十二條第九十三條及第百四條ノ記錄ヲ爲ササル者ハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料又ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第百八條　第百六條第百七條ノ罰則ハ商事會社ニアリテハ其ノ所爲ヲ爲シタル業務擔當ノ任アル社員取締役若ハ使用人ニ之ヲ適用ス

第五章　附則

第百九條　此ノ規則ハ明治三十年七月十日ヨリ實施ス

第百十條　既設ノ電氣事業ニシテ此ノ規則第四十六條第二項及第三項第四十九條第五十二條本文及第三項第五十七條第六十五條第八十八條第二項第九十四條第九十七條第二項第三項及第九十八條ノ規定ニ適合セサルモノハ遞信大臣

ノ認可ヲ受ケタル事項ニ限リ其ノ指定スル期限内之カ施設若ハ改造ヲ猶豫スルコトアルヘシ

前項ノ猶豫ヲ受ケムトスル者ハ此ノ規則施行ノ日ヨリ一箇月以内ニ詳細ノ理由ヲ具シ遞信大臣ニ願出ヘシ

○遞信省令第八號　明治二十九年五月二十六日

私設鐵道條例ニ據ル電氣鐵道電氣取締規則

第一條　此ノ規則中電線トハ電氣傳送ニ用フル金屬線ヲ謂フ

第二條　此ノ規則中電路トハ發電機電線其ノ他ノ器具大地等電流ノ通過スル一全路ヲ謂フ

第三條　此ノ規則中低壓トハ直流法ニアリテハ五百「ヴォルト」交流法ニアリテハ二百五十實效「ヴォルト」ヲ超過セサル電壓ヲ謂フ

高壓トハ低壓ノ制限ヲ超過シ直流法ニアリテハ三千「ヴォルト」交流法ニアリテハ三千實效「ヴォルト」ヲ超過セサル電壓ヲ謂フ

特別高壓トハ高壓ノ制限ヲ超過セル電壓ヲ謂フ

第四條　電車線ニ使用スル電流ハ直通ニシテ其ノ電壓ハ六百「ヴォルト」以下タルヘシ但シ六百「ヴォルト」以上ノ電壓又ハ交番電流式ヲ使用セムトスルトキハ遞信大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第五條　特別高壓ノ電氣ヲ使用セムトスルトキハ特種ノ保安裝置ヲ爲スモノニ限リ土地ノ狀況ニ依リ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第六條　遞信大臣ハ土地ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ歸線ノ一部トシテ大地ヲ使用スルコトヲ許可セサルコトアルヘシ

第七條　電線ハ使用電流ノ爲攝氏二十度以上ノ溫度ヲ增スコトナク且絕緣物ニ變化ヲ顯ハササルモノタルヘシ又各電線ニハ完全ナル安全器ヲ備ヘ使用電流定量ノ二倍以上ニ達セシムヘカラス

第八條　架空電車線ノ太サハ遞信大臣ノ認可ヲ得タルモノヲ除ク外ハ徑二分五厘以上ニシテ極メテ强硬ナル線條ヲ用フヘシ

第九條　架空電線ハ堤塘田野等ニ架設シ特ニ遞信大臣ノ認可ヲ得タルモノ及電車線ヲ除ク外總テ被覆線ヲ用フヘシ其ノ高壓電線ニアリテハ護謨又ハ之ニ相當スル善良ナル絕緣物ヲ以テ被覆シ其ノ厚サハ四厘以上タルヘシ

第十條　各電路ノ必要ナル場所及各電車ニハ總テ避雷ノ裝置ヲ爲スヘシ

第十一條　饋電線又ハ幹線ニハ檢漏器ヲ設置スヘシ但シ遞信大臣ニ於テ電路ト大地トヲ接續スルコトヲ認可シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十二條　架空電線ハ總テ道路ノ片側ニアラサレハ其ノ建設ヲ許サス若架空ノ電燈線、電力線又ハ電氣鐵道用電線アルトキハ之ト同側ニ建設スヘシ但シ遞信大臣ハ土地ノ狀況ニ依リ道路ノ中央ニ其建設ヲ認可スルコトアルヘシ

電車線ハ二十間其ノ他ノ架空電線ハ三十間ヲ超過セサル距離ニ於テ之ヲ支持スヘシ但シ工事上止ムヲ得サル場合ニ於テ遞信大臣ノ認可ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十三條　架空電線ハ道路ヲ横斷スル所ニ於テハ電車線ヲ除ク外地表ヲ距ル二十尺以上其ノ他ノ場合ニ於テハ六十尺以上タルヘシ又造營物ニ沿ヒ架設スルトキハ四尺以上造營物ノ上ヲ架渉スルトキハ六尺以上離隔セシムヘシ但シ堤塘田野等危險ノ虞ナシト認ムル場所ニシテ遞信大臣ノ認可ヲ得タルモノハ地表上ノ距離ニ限リ本條規定ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第十四條　電信線電話線又ハ其ノ他ノ電氣信號線ト竝行シテ架空電線ヲ架設スルトキハ危險ノ虞ナク且障害ヲ與ヘサル樣離隔スヘシ

第十五條　電信線、電話線又ハ其ノ他ノ電氣信號線ト其上部ニ於テ交叉シ若ハ六尺以內ノ距離ニ接近シテ架空電線ヲ架設スルトキハ其ノ前日マテニ關係管理者ニ通知シ立會ヲ請フヘシ

第十六條　電信線、電話線又ハ其ノ他ノ電氣信號線ト交叉シテ被覆セサル架空電線ヲ架設スルトキハ墜落ノ爲電氣的混觸ヲ起ササル樣適當ノ方法ヲ設クヘシ

第十七條　他人ニ屬スル架空ノ電燈線、電力線又ハ電氣鐵道用電線ト交叉シ若ハ之ニ接近シテ架空電線ヲ架設スル場合ニハ三尺以上離隔スヘシ但シ遞信大臣ノ認可ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十八條　歸線ハ軌道ノ中間若ハ軌道ノ外側一尺以內ニ敷設スル部分及軌鐵ヲ除ク外ハ總テ大地ヨリ絕緣スヘシ但シ遞信大臣ノ認可ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十九條　絕緣セサル歸線ヲ使用スル場合ニ於テ地下ニ埋設シタル金屬體アルトキハ左ノ各項ヲ遵守スヘシ但シ金屬體所有者ノ承諾ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

一　歸線ハ地下埋設ノ金屬體ヨリ成ルヘク離隔シ其ノ距離六尺ヲ下ルヘカラ

ス但シ工事上已ムヲ得サルトキハ六尺以内ニ近クルコトヲ得ルモ此ノ場合ニ於テハ遞信大臣ノ認可ヲ得テ歸線ト金屬體トノ間ニ不導體ノ隔離物ヲ設ケ電流ヲシテ地中六尺以上ヲ通過スルニアラサレハ兩者間ヲ流通スルコト能ハサラシムヘシ

二　歸線ト其ノ近傍ニ在ル金屬體トノ間ニ電流ノ通スル場合ニ於テ其ノ方向歸線ヨリ金屬體ニ向テ流ルルトキハ「レクランシエー」電池三箇又金屬體ヨリ歸線ニ向テ流ルルトキハ一箇ヲ以テ之ヲ反對ニ變シ得ヘキ樣爲スヘシ

三　軌鐵ハ電氣的完全ナル接續ヲ爲スヘシ

四　軌鐵ノ外一平方寸ノ百分ノ四以上ノ截面積ノ銅線又ハ之ト同等以上ノ導電力ヲ有スル歸線ヲ用フヘシ

五　軌道ノ中間又ハ軌道ノ外側一尺以内ニ敷設シタル絶縁セサル歸線ハ長サ一百尺以下毎ニ一平方寸ノ百分ノ三以上ノ截面積ノ銅條又ハ之ト同等以上ノ導電力ヲ有スル他ノ方法ヲ以テ軌鐵ト接續スヘシ

六　歸線ハ發電機ノ消極ニ接續スヘシ

第二十條　前條ノ場合ニ於テハ歸線ノ絶縁セサル部分ノ發電所ヨリ最近及最遠兩點間ニ於ケル電位ノ差及第二十一條ニ規定スル接地點ヨリ發電機ニ向テ流ルル電流ハ常ニ之ヲ表示スルノ裝置ヲナシ毎日之ヲ記錄シ置クヘシ

第二十一條　前條ニ揭クル接地點ハ發電所ノ近傍ニ於テ大地ト二箇所ノ接續ヲナシ其ノ距離十間以上タルヘシ且四「ヴォルト」以下ノ電壓ヲ用ヒテ兩接地點間ニ二「アムペーア」以上ノ電流ヲ發セシムル樣之ヲ施設シ起業者ハ之ヲ確ムル爲少クトモ毎月一回以上之ヲ試驗シ其ノ成蹟ヲ記錄シ置クヘシ

前項接地點ハ金屬體ヨリ六尺以上ヲ隔テタル所ニ施設スヘシ

本條ニ適合セル接地點ヲ得難キ場合ニハ遞信大臣ノ認可ヲ得テ他ノ方法ヲ用フルコトヲ得

第二十二條　絶縁セル各種電線ノ絶縁力ハ左ノ各項ニ適合セシムヘシ

一　漏洩電流ハ軌道一里ニ對シ一「アムペーア」ノ三十分ノ一以上ヲ超過セサル樣之ヲ維持シ且其ノ漏洩電流ハ軌道一里毎ニ一「アムペーア」ヲ超過シタルトキハ速ニ之ヲ除去スヘシ若二十四時間ヲ過クルモ之ヲ除去スルコト能ハサルトキハ直ニ車輛ノ運轉ヲ停止スヘシ

二　地下ニ埋設セル被覆線ニアリテハ其ノ絶縁力ハ一里四百萬「オーム」ヲ下ル

ヘカラス

遞信大臣ハ土地ノ狀況ニ依リ本條ノ制限ヲ輕減スルコトアルヘシ

第二十三條　前條第一項漏洩電流ハ毎日一回第二項ノ絶緣力ハ毎月一回使用最大電壓ヲ用ヒ之ヲ試驗シ其ノ成蹟ヲ記錄シ置クヘシ

第二十四條　歸線ト金屬體トノ電氣的接續ヲ爲スノ必要アル場合ニ於テハ起業者ハ金屬體所有者ノ承諾ヲ得タル後遞信大臣ノ認可ヲ受クヘシ其ノ接續ハ最モ善良ニシテ且容易ニ之ヲ點檢シ得ル樣施設シ三箇月毎ニ一回以上之ヲ試驗シ其ノ成蹟ヲ記錄シ置クヘシ

第二十五條　架空電線以外ノ電線ニシテ他ノ金屬體ト交叉シ若ハ之ニ接近スル所ニ於テハ起業者ハ其ノ電線又ハ之ヲ納メ若ハ保護スル爲用フル金屬體ヨリ他ノ金屬體ニ放電ヲ起ササル樣豫防方法ヲ設クヘシ

第二十六條　埋線試驗口ハ成ルヘク瓦斯又ハ水ノ浸入スルコトナキ樣施設スヘシ若瓦斯ノ浸入スルコトアルモ電氣作用ノ爲爆發セサル樣豫防方法ヲ設クヘシ

第二十七條　高壓電線ト低壓電線トハ同一ノ暗渠內ニ納ムルコトヲ許サス

第二十八條　架空電線以外ノ高壓電線ニシテ人畜ニ危害ヲ及ホスノ虞アル場所ニ施設スルモノハ完全ナル絶緣方法ヲ施シ且堅牢ナル管若ハ樋內ニ納ムヘシ

第二十九條　電線ヲ納ムル暗渠、管若ハ樋等ハ堅牢ニシテ重荷ノ其ノ上ヲ通過スルモ損害ヲ受クルコトナク且成ルヘク瓦斯又ハ水ノ浸入スルコトナキ樣構造スヘシ

第三十條　電線ヲ納メ若ハ之ヲ鎧裝スル爲用フル金屬體ハ充分大地ト電氣的接續ヲ爲スヘシ

第三十一條　開閉器、安全器、抵抗器及其ノ他導體ニ接スル器具ハ耐火質ノ物體ニ取附クヘシ

第三十二條　開閉器ハ之ヲ開閉スルニ當リ其ノ把手中間ニ止マリ又ハ弧狀光若ハ熱氣ヲ生スル虞ナキモノタルヘシ且其ノ把手ハ電路ヨリ全ク絶緣スヘシ

第三十三條　變壓所ハ事業ノ爲專用スル場所ニ設置スヘシ

變壓器ハ當業者ノ外容易ニ之ニ觸ルルコト能ハサル場所ニ設置スヘシ

第三十四條　變壓器ノ內外ヲ問ハス低壓電線ト高壓電線ト相互ノ接觸ヨリ生スル危險ヲ豫防スル爲適當ノ方法ヲ設クヘシ

第三十五條　電柱上ニ設置スル變壓器ハ耐火耐水質ノ函内ニ納メ地上十六尺以上ノ所ニ取附クヘシ

第三十六條　起業者ハ其ノ使用ノ電柱ニ高サ地表上六尺乃至八尺ノ所ニ於テ其ノ起業者名竝電柱ノ番號ヲ記スヘシ

第三十七條　高壓電線ヲ支持スル腕木ハ其ノ全部ヲ赤色ニ塗ルヘシ

第三十八條　起業者ハ毎日運轉車輛數及其ノ使用スル最大ノ電流及電壓ヲ記錄シ置クヘシ

第三十九條　起業者ハ學識經驗アル主任技術者ヲ置キ工事施行前其ノ履歷書ヲ添ヘ遞信大臣ニ届出ヘシ爾後之ヲ變更シタル場合ニハ三日以内ニ其ノ履歷書ヲ添ヘ届出ヘシ但シ遞信大臣ニ於テ不適當ト認ムルトキハ其ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第四十條　遞信大臣ニ於テ必要ト認ムル場合ニハ起業者ヲシテ電氣用器具及物品ノ見本ヲ差出シ其ノ試驗ヲ受ケシメ又ハ當該官吏ヲシテ現場ニ就キ其試驗ヲ執行セシムルコトアルヘシ若試驗ノ成蹟不完全ナルトキハ之カ改修ヲ命シ又ハ其ノ使用ヲ停止スヘシ但シ其ノ費用ハ總テ起業者ノ負擔トス

第四十一條　遞信大臣ニ於テ必要ト認ムル場合ニハ第二十條第二十一條第二十三條第二十四條及第三十八條ノ記錄ヲ差出サシムルコトアルヘシ

第四十二條　遞信大臣ニ於テ必要ト認ムル場合ニハ線路ノ各要所ニ技術者又ハ工夫ノ散宿ヲ命スルコトアルヘシ

第四十三條　散宿所ニハ屋外衆人ノ睹易キ所ニ其ノ標札ヲ掲クヘシ

第四十四條　散宿所ノ技術者又ハ工夫ハ其ノ擔當區域ノ電線ニ送電中ハ濫リニ他行スヘカラス若疾病其ノ他ノ事故ニ依リ業務ヲ執ルコト能ハサルトキハ相當ノ代人ヲ置クヘシ

第四十五條　起業者ハ其ノ送電中ノ架空電線近傍ニ出火アルトキハ直ニ送電ヲ止メ又ハ開閉器ヲ開キ電流ヲ遮斷シ且其ノ區域内電路ノ各要所ニ晝間ハ標旗夜間ハ標燈ヲ掲クヘシ

第四十六條　起業者ハ送電中ノ架空電線近傍ニ出火アルトキハ直ニ現場ニ技術者又ハ工夫ヲ派遣シ危險豫防ノ手續ヲ施シ其ノ旨出張ノ警察官ニ届出ヘシ但シ該官ノ許可ヲ得ルニアラサレハ退場スルコトヲ得ス

出火ノ場所ニ派遣ノ技術者又ハ工夫ハ晝間ハ標旗夜間ハ標燈ヲ携帶スヘシ

第四十七條　前二條ノ標旗及標燈ノ制式ハ別ニ之ヲ定ム

第四十八條　起業者ハ其ノ事業ヨリ災害其ノ他ノ故障ヲ生シタルトキハ其ノ時日、場所、原因及狀況等ヲ具シ遞信大臣ニ屆出ヘシ

第四十九條　左ノ事項ハ三日以内ニ遞信大臣ニ屆出ヘシ

一　主任技術者ノ改氏名

二　送電ノ中止但シ其ノ理由ヲ記スヘシ

三　車輛數及其ノ增減

第五十條　此ノ規則ニ依リ遞信大臣ニ差出ス書類ハ總テ所轄地方廳（東京府ハ警視廳）ヲ經由スヘシ

第五十一條　起業者ニ於テ此ノ規則ノ條項ニ違背シ又ハ此ノ規則ニ依リ發スル命令ヲ遵守セサルトキハ遞信大臣ハ電氣ノ使用ヲ停止スルコトアルヘシ

第五十二條　此ノ規則第四條第二十四條前段第三十六條第三十七條第三十九條第四十五條及第四十六條ノ規定ニ違反シ又ハ第四十八條及第四十九條ノ屆出ヲ爲サス又ハ第四十一條ノ記錄ヲ差出サス若ハ第二十條第二十一條第二十三條第二十四條及第三十八條ノ記錄ヲ爲サヽル者ハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料又ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

前項ノ罰則ハ其ノ所爲ヲ爲シタル取締役若ハ使用人ニ之ヲ適用ス

第五十三條　此ノ規則ハ明治二十九年六月一日ヨリ實施ス

第四十五章　交通及河海

○法律第七十一號　明治二十九年四月八日

河川法

第一章　總則

第二章　河川ノ管理

第三章　河川ノ使用ニ關スル制限並警察

第四章　河川ニ關スル費用ノ負擔上地所有者ノ權利義務並河川ノ管理ヨリ生スル收入等

第五章　監督及强制手續

第六章　訴願及訴訟

第七章　附則

河川法

第一章　總則

第一條　此ノ法律ニ於テ河川ト稱スルハ主務大臣ニ於テ公共ノ利害ニ重大ノ關係アリト認定シタル河川ヲ謂フ

第二條　河川ノ區域ハ地方行政廳ノ認定スル所ニ依ル

流水河川ノ區域外ニ出テテ永期ニ渉ルヘキモノト認ムルトキハ地方行政廳ハ其ノ河川ノ區域ヲ變更スヘシ

第三條　河川並其ノ敷地若ハ流水ハ私權ノ目的トナルコトヲ得ス

第四條　地方行政廳ニ於テ河川ノ支川若ハ派川ト認定シタルモノハ命令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設クタル場合ヲ除クノ外總テ河川ニ關スル規程ニ從フ

堤防、護岸、水制、河津、曳船道其ノ他流水ニ因リテ生スル公利ヲ增進シ又ハ公害ヲ除却若ハ輕減スル爲ニ設ケタルモノニシテ地方行政廳ニ於テ河川ノ附屬物ト認定シタルモノハ命令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外總テ河川ニ關スル規程ニ從フ

第五條　此ノ法律ニ規定シタル事項ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ河川ニ流入シ若ハ河川ヨリ分岐スル水流若ハ水面又ハ第一條ノ認定ヲ受ケサル河川ニ準用スルコトヲ得

第二章　河川ノ管理

第六條　河川ハ地方行政廳ニ於テ其ノ管内ニ係ル部分ヲ管理スヘシ但シ他府縣ノ利益ヲ保全スル爲必要ト認ムルトキハ主務大臣ニ於テ代テ之ヲ管理シ又ハ其ノ維持修繕ヲナスコトヲ得

第七條　地方行政廳ハ河川ニ關スル工事ヲ施行シ其ノ維持ヲナスノ義務アルモノトス但シ第四十三條ニ依リ通航料徴收ノ許可ヲ得タル者ヲシテ其ノ義務ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ妨ケス

第八條　河川ニ關スル工事ニシテ利害ノ關係スル所一府縣ノ區域ニ止マラサルトキ又ハ其ノ工事至難ナルトキ若ハ其ノ工費著大ナルトキ又ハ河川ノ全部若ハ一部ニ付キ大體ニ渉ル一定ノ計畫ニ基キテ施行スル改良工事ナルトキハ主務大臣ハ自ラ其ノ工事ヲ施行シ又ハ其ノ工事ニ因リ特ニ利益ヲ受クル公共團體ノ行政廳ニ命シテ之ヲ施行セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ此ノ法律ニ依リテ地方行政廳ノ有スル職權ヲ

直接施行スルコトヲ得

第九條　地方行政廳ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ管内ノ下級行政廳ヲシテ河川ニ關スル工事ノ一部ヲ施行セシメ又ハ其ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

第十條　河川ノ附屬物ニシテ兼テ他ノ工作物ノ效用ヲナスモノアルトキハ地方行政廳ハ其ノ工作物ノ管理者ヲシテ其ノ附屬物ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ其ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

他ノ工作物ニシテ兼ネテ河川ノ附屬物ノ效用ヲナスモノアルトキハ地方行政廳ニ於テ其ノ工作物ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ其ノ維持ヲナスコトヲ得

第十一條　他ノ工事ニ因リ河川ニ關スル工事ノ必要ヲ生シタルトキハ地方行政廳ハ其ノ工事ノ施行者ヲシテ河川ニ關スル工事ヲ施行セシムルコトヲ得

河川ニ關スル工事ニ因リ必要ヲ生シタル他ノ工事又ハ河川ニ關スル工事ヲ施行スル爲ニ必要ナル他ノ工事ハ地方行政廳ニ於テ併セテ之ヲ施行スルコトヲ得

第十二條　行政廳ハ河川ニ關スル工事ノ請負ヲナスコトヲ得ス

第十三條　河川ニ關スル工事ノ請負ノ制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條　地方行政廳ハ其ノ管理ニ屬スル河川ノ臺帳ヲ調製シ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

臺帳ノ調製、保管、記載事項等ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

主務大臣ノ認可ヲ經タル臺帳ニ記載セル事項ニ關シテハ反對ノ立證ヲ許サス

但シ臺帳調製後其ノ事實ノ變更シタルコトヲ證スルヲ妨ケス

第十五條　地方行政廳ニ於テ河川管理ノ爲特ニ吏員ヲ置クコトヲ要スルトキハ其ノ定員、給料、手當、職務權限竝其ノ費用ノ負擔者等ハ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第三章　河川ノ使用ニ關スル制限竝警察

第十六條　舟筏ノ通航及流木ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條　左ニ記載スル工作物ヲ新築、改築若ハ除却セムトスル者ハ地方行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

一　流水ヲ停滯セシメ若ハ引用シ又ハ流水ノ害ヲ豫防スル爲ニ施設スル工作物

二　河川ニ注水スル爲ニ施設スル工作物

三　河川ノ區域内ニ於テ敷地ニ固著シテ施設スル工作物又ハ河川ニ沿ヒ若ハ河川ヲ横過シ若ハ其ノ床下ニ於テ施設スル工作物

第十八條　河川ノ敷地若ハ流水ヲ占用セムトスル者ハ地方行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

第十九條　流水ノ方向、清潔、分量、幅員若ハ深淺又ハ敷地ノ現狀等ニ影響ヲ及ホスノ虞アル工事、營業其ノ他ノ行爲ハ命令ヲ以テ之ヲ禁止若ハ制限シ又ハ地方行政廳ノ許可ヲ受ケシムルコトヲ得

第二十條　左ノ場合ニ於テ地方行政廳ハ許可ヲ取消シ若ハ其ノ效力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ又ハ既ニ施設シタル工作物ヲ改築若ハ除却セシメ又ハ原形ノ回復ヲ命シ又ハ許可セラレタル事項ニ因リテ生スル危害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナサシムルコトヲ得

一　工事施行ノ方法若ハ施行後ニ於ケル管理ノ方法公安ヲ害スルノ虞アルトキ

二　河川ノ狀況ノ變更其ノ他許可ノ後ニ起リタル事實ニ因リ必要ヲ生スルトキ

三　河川ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ許可ヲ與ヘタルモノヽ外ニ工事、使用若ハ占用ヲ許可スル爲ニ必要ナルトキ

四　此ノ法律ニ基キテ發スル命令ノ規程ニ依リ必要ヲ生スルトキ

五　法律命令ニ違背シタルトキ

六　公益ノ爲必要アルトキ

第二十一條　本章ノ規程ニ依リ與ヘタル許可ニ依リテ生スル權利義務ハ地方行政廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ他人ニ移スコトヲ得ス

第二十二條　法律、命令若ハ許可ノ條件ニ違背シタル者ハ行政廳ノ命スル所ニ從ヒ其ノ違背ニ因リテ生シタル事實ヲ更正シ且其ノ因リテ生スル損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナスヘシ

第二十三條　洪水ノ危險切迫ナルトキハ地方行政廳又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ハ其ノ現場ニ於テ直ニ防禦ノ爲ニ必要ナル土地ヲ使用シ土砂、竹木其ノ他ノ材料、車馬其ノ他ノ運搬具及器具等ヲ使用若ハ徵收シ又ハ其ノ現場ニ在ル者ヲ使役シ又ハ家屋其ノ他ノ障害物ヲ破毀スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ地方行政廳又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ハ其ノ管内ニ於テ

夫役ヲ命シ又ハ下級公共團體ニ命シテ土地、材料、運搬具、器具及夫役ヲ供セシメ又ハ市町村長其ノ他ノ市町村吏員等ヲ指揮シテ必要ナル處分ヲナサシムルコトヲ得

地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級公共團體ニ命シテ豫メ洪水防禦ノ爲必要ナル準備ヲナサシムルコトヲ得

第四章　河川ニ關スル費用ノ負擔、土地所有者ノ權利義務並河川ノ管理ヨリ生スル收入等

第二十四條　河川ニ關スル費用ハ府縣ノ負擔トス

主務大臣ニ於テ第六條但書ニ依リ河川ノ管理若ハ其ノ維持修繕ヲナス場合ニ於テハ國庫ニ於テ其ノ費用ノ全部若ハ一部ヲ負擔スルコトヲ得

第一項費用ノ範圍ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第二十五條　通航料徵收ノ許可ヲ受ケテ施設シタル工作物ノ爲ニ要スル費用ハ其ノ徵收期間許可ヲ受ケタル者ノ負擔トス

第二十六條　河川ノ改良工事ニ要スル豫算費用ニシテ其ノ府縣内ノ地租額十分ノ一ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ノ三分ノ二以内ヲ國庫ヨリ補助スルコトヲ得

但シ地租額ヲ超過スル部分ニ付テハ其ノ超過額ノ四分ノ三以内ヲ補助スルコトヲ得

災害ニ因リ必要ヲ生シタル工事ニ要スル費用ハ前項ニ依ルノ限リニ在ラス

工事費用精算ノ上豫算ヨリ減スルコトアルモ既ニ與ヘタル補助金ハ之ヲ還付セシメサルコトヲ得

第二十七條　第八條ニ依リ主務大臣ニ於テ工事ヲ施行スル場合ニ於テハ府縣ハ前條ノ規程ニ準シテ其ノ豫算費用ヲ負擔シ國庫ハ其ノ殘額ヲ負擔スヘシ

前項ノ場合ニ於テ府縣ノ負擔スヘキ金額並不足額ノ補充及殘餘金ノ處分等ハ主務大臣之ヲ定ム

第二十八條　第八條ニ依リ主務大臣ニ於テ工事ヲ施行スル場合ニ於テハ府縣ハ其ノ負擔スヘキ豫算金額ヲ國庫ニ納付スヘシ

第二十九條　地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級公共團體ヲシテ河川ニ關スル費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十條　河川ノ付屬物ニシテ兼子テ他ノ工作物ノ效用ヲナスモノアルトキハ其ノ工作物ノ管理者タル行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體若ハ管理者タル私

人ヲシテ其ノ附屬物ニ關スル費用ノ全部若ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十一條　營業ノ結果ニ因リ特ニ河川ニ關スル工事ノ必要ヲ生セシムルモノアルトキハ其ノ營業者ヲシテ其ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十二條　河川ニ關スル工事ニシテ他ノ工事ニ因リ必要ヲ生シタルモノナルトキハ其ノ費用ハ工事ノ必要ヲ生シタル程度ニ於テ其原因タル工事ノ費用負擔者ヲシテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得

河川ニ關スル工事ニ因リテ必要ヲ生シタル他ノ工事ノ費用ハ其ノ工事ノ管理者タル行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體若ハ管理者タル私人ノ負擔トス但シ命令ノ定ムル所ニ從ヒ河川ニ關スル費用ノ內ヨリ其ノ費用ノ全部若ハ一部ヲ補助スルコトヲ妨ケス

第三十三條　河川ニ關スル工事ニシテ他ノ府縣若ハ他府縣內ノ公共團體ニ於テ著シク利益ヲ受クルモノナルトキ又ハ河川ニ關スル工事若ハ其ノ維持ニシテ主トシテ他府縣內ノ住民ノ河川ノ使用ニ因リ必要ヲ生スルモノナルトキハ其ノ府縣若ハ其ノ府縣內ノ公共團體ヲシテ其ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十四條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ命シタル事項ヲ遵守スル爲ニ要スル費用ハ特別ノ規定ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外其ノ命ヲ受ケタル者ノ負擔トス

第五十二條ニ依リ主務大臣若ハ地方長官ニ於テ義務者ノ履行スヘキ事項ヲ自ラ執行シ若ハ第三者ヲシテ執行セシメタルカ爲ニ要シタル費用ハ其ノ義務者ヨリ追徵スルコトヲ得

第三十五條　公共團體ハ河川ニ關スル工事若ハ費用ノ爲寄付ヲナスコトヲ得

第三十六條　公共團體ハ河川ニ關スル費用ニ付キ私人若ハ其ノ區域內ノ下級公共團體ニ補助ヲナスコトヲ得

第三十七條　公共團體ハ河川ニ關スル費用ニ付キ利害關係ノ厚薄ヲ標準トシテ其ノ區域內ニ於テ不均一ノ賦課ヲナスコトヲ得

第三十八條　河川ニ關スル工事ノ爲必要ナルトキハ地方行政廳ハ管內ノ土地若ハ森林ノ所有者ニ命シテ補償金トシテ時價相當ノ金額ヲ下付シテ其ノ所有ニ係ル土石、砂礫、芝草、竹木及運搬具ヲ供給セシムルコトヲ得但シ時價ニ關シテ協議整ハサルトキ又ハ所有者不明ナルトキ若ハ其ノ所在不明ナルトキハ地方行

政廳ハ相當ト認ムル金額ヲ供託シテ本條ノ供給ヲナサシムルコトヲ得

第三十九條　河川ニ關スル工事ノ爲メ必要ナルトキハ地方行政廳ハ其ノ堤外地ニ立入リ又ハ其ノ土地ヲ材料置場等ニ供シ又ハ已ヲ得サルトキハ其ノ土地ニ現在スル建設物其ノ他ノ障害物ヲ除却スルコトヲ得

堤外地ニ非サル沿岸若ハ沿堤土地ニ關シテハ其ノ地先ニ施行スヘキ工事ノ爲必要ナル場合ニ限リ前項ヲ適用スルコトヲ得

前二項ノ適用ニ依リ損害ヲ受ケタル所有者ハ使用若ハ除却ノ後三箇月以内ニ府縣ニ對シ補償金ヲ請求スルコトヲ得

第四十條　第二十三條第一項ノ處分ニ因リ著シク損害ヲ受ケタル者アルトキハ地方行政廳ハ其ノ管内ノ市町村、町村組合若ハ水利組合ニ命シテ其ノ物件ノ價額ヲ補償セシムルコトヲ得其ノ價額ハ行政廳之ヲ定ム

前項補償ノ手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十一條　法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタル工事、設備、使用、占用若ハ工作物ノ管理ニ因リ損害ヲ受ケシメタル者ハ其ノ損害ヲ賠償スヘシ

前項ニ依リ行政廳ニ於テ下付スヘキ賠償金ハ其ノ行政廳ノ直接ニ管轄スル公

共團體ノ負擔トス

第四十二條　流水ヲ停滯シ若ハ引用スル爲ノ工作物ノ施設其ノ他河川ノ使用若ハ占用ヲ許可スルトキハ其ノ管理者、使用者若ハ占用者ヨリ使用料若ハ占用料ヲ徵收スルコトヲ得

本條ノ使用料若ハ占用料其ノ他河川ヨリ生スル收入ハ府縣ニ歸ス

第四十三條　地方行政廳ハ私人若ハ其ノ管内下級公共團體ニ於テ舟筏ノ便ヲ謀ル爲新築若ハ改築工事ヲ施行スル場合ニ限リ舟筏ヨリ通航料ヲ徵收スルコトヲ許可スルコトヲ得但シ其ノ年限ハ當初許可シタル時ヨリ三十箇年ヲ超過スルコトヲ得ス

通航料ノ徵收ヲ停止スヘキ場合ニ於ケル補償其ノ他通航料ノ制限等ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十四條　河川敷地ノ公用ヲ廢シタルトキハ地方行政廳ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ處分スヘシ但シ此ノ法律施行前私人ノ所有權ヲ認メタル證跡アルトキハ其ノ私人ニ下付スヘシ

第四十五條　河川附近ノ土地若ハ工作物ノ所有者ハ命令ノ規程ニ依リ行政廳ノ

命スル所ニ從ヒ其ノ土地ノ缺壞若ハ土砂流出ヲ豫防スル爲又ハ其ノ工作物ノ河川ニ及ホス損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ノ全部若ハ一部ヲナシ又ハ其ノ費用ノ全部若ハ一部ヲ負擔スルノ義務ヲ有ス

第四十六條　河川ニ土砂ヲ流出スルノ虞アル土地ノ所有者ハ行政廳ニ於テ其ノ土地ニ竹木芝草ヲ植附ケ若ハ培養シ又ハ其ノ他土砂扞止ノ設備ヲナシ若ハ之ヲ維持スルコトヲ拒ムコトヲ得ス

前項ニ依リ植附タル竹木芝草ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ土地所有者ヲシテ收益ノ全部若ハ一部ヲ取得シテ之ヲ培養スルノ義務ヲ負ハシムルコトヲ得

土砂扞止ノ爲ニ要スル土地ハ行政廳ニ於テ土地收用法ニ依リ之ヲ收用スルコトヲ得

第一項土地ノ區域ハ地方行政廳ニ於テ豫メ之ヲ告示スヘシ

第四十七條　此ノ法律ヲ以テ定メタルモノヽ外尙河川附近ノ土地家屋若ハ其ノ他ノ工作物ニ關シ河川ノ公利ヲ增進シ又ハ公害ヲ除却若ハ輕減スル爲ニ必要ナル制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十八條　河川若ハ河川附近ノ土地ニ關シテ規定シタル事項ハ命令ノ定ムル

所ニ從ヒ河川ニ關スル工事ニ因リ新ニ河川トナルヘキ區域若ハ其ノ附近ノ土地ニ之ヲ準用スルコトヲ得

第五章　監督及强制手續

第四十九條　主務大臣ハ河川ニ關スル行政ヲ監督ス

地方長官ヲシテ第一次ニ於テ監督セシムヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

此ノ法律ニ規定シタル事項ニシテ主務大臣若ハ地方長官ノ認可ヲ要スルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條及第三十六條ニ規定シタル事項竝此ノ法律ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ニ關シテハ命令ヲ以テ制限ヲ設クルコトヲ得

第五十條　他ノ府縣若ハ他ノ府縣內ノ公共團體ヲシテ費用ヲ負擔セシムル爲ニ必要ナル手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十一條　主務大臣ハ地方行政廳ニ命シテ河川ニ關スル工事ヲ施行セシメ又ハ河川ノ區域及其ノ附屬物ノ認定若ハ臺帳ノ更正ヲナサシメ其ノ他此ノ法律ニ規定シタル地方行政廳ノ職權ヲ施行セシムルコトヲ得

第五十二條　義務者ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依ル義

務ヲ履行セス若ハ之ヲ履行スルモ必要ノ期限内ニ終了スルノ見込ナキトキ又ハ其ノ履行ノ方法宜ヲ得サルトキハ主務大臣若ハ地方長官ハ自ラ之ヲ執行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

第五十三條　私人ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依ル義務ヲ怠ルトキハ主務大臣若ハ地方長官ハ一定ノ期限ヲ示シ若期限内ニ履行セサルトキ若ハ之ヲ履行スルモ不充分ナルトキハ千圓以内ニ於テ指定シタル過料ニ處スルコトヲ豫告シテ其ノ履行ヲ命スルコトヲ得

第五十四條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ納付セシメタル保證金ハ行政廳ニ於テ直ニ其ノ納付ノ目的又ハ過料ニ充用スルコトヲ得

前項保證金ハ他ノ債權ノ爲ニ差押フルコトヲ得ス

第五十五條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ私人ニ於テ負擔スヘキ費用及過料ハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外行政廳ニ於テ國稅滯納處分法ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ費用及過料ニ付キ行政廳ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有スルモノトス

此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ公共團體ニ於テ負擔スヘキ費用ニ關シテハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外主務大臣若ハ地方長官ハ必要ナル場合ニ於テハ金額ヲ定メテ之ヲ其ノ豫算表ニ揭ケ其ノ他必要ナル處分ヲ指揮シ直ニ其ノ金額ヲ支出セシムルコトヲ得

第五十六條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ハ行政處分ニ依リ之ヲ强制スルコトヲ得

行政廳ノ許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ關シテモ亦本條及前條ヲ準用ス

第五十七條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ於テ規定シタル事項ニ關シテハ河川視察ノ職務ヲ有スル官吏ヲシテ命令ノ定ムル所ニ從ヒ警察官ノ職權ノ全部若ハ一部ヲ執行セシムルコトヲ得

第五十八條　此ノ法律ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シテハ命令ヲ以テ二百圓以内ノ罰金若ハ一年以下ノ禁錮ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

第六章　訴願及訴訟

第五十九條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ主務大臣若ハ地方行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ主務大臣ニ訴

願スルコトヲ得

此ノ法律若ハ法律ニ基キテ發スル命令若ハ地方行政廳ノ委任ニ依リ下級行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ地方長官ニ訴願シ地方長官ノ裁決ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律ニ依リ行政訴訟ノ提起ヲ許シタル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

第六十條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ行政廳ノ違法處分ニ依リ權利ヲ毀損セラレタリトスル私人若ハ公共團體ハ前條ニ依リ訴願ノ裁決ヲ經タル後行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ主務大臣若ハ地方行政廳ノ處分ニ對シテハ直ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第六十一條　第四十一條第一項ニ依リ損害賠償ヲ請求スル私人若ハ公共團體ハ損害ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以內ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタルヤ否ヤニ付キ爭アルトキハ前數條ノ手續ニ依リ其ノ違背シタリトノ事實確定シタル後ニ非サレハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス但シ此ノ場合ニ於テハ前項ノ期間ハ確定ノ日ヨリ起算スルモノトス

第六十二條　第三十八條若ハ第三十九條ニ依リ下付スヘキ補償金額ニ對シ不服アルトキハ行政廳ニ於テ補償金額ノ通知ヲナシタル日ヨリ六箇月以內ニ民事訴訟ヲ提起スコトヲ得但シ第三十九條ノ場合ニ於テ補償金請求ノ後三箇月以內ニ其ノ金額ノ通知ナキトキハ其ノ期限經過後六箇月以內ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第六十三條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シテハ本章ノ規程ニ依リ特ニ許シタル場合ヲ除クノ外訴願若ハ行政訴訟ヲ提起シ又ハ行政廳ニ對シ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第七章　附則

第六十四條　此ノ法律ノ全部若ハ一部ヲ施行スヘキ區域及時期ハ主務大臣之ヲ定ム

此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十五條　河川ノ臺帳ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ二箇年以內ニ之ヲ調製スヘシ

第六十六條　災害土木費負擔ニ關スル慣例及外國人居留地內ニ於ケル河川ニ關

スル慣例ハ此ノ法律ヲ以テ變更スルノ限ニ在ラス

○布告第三百廿五號　明治五年十月二十八日

近來道路掃除ノ儀多クハ等閑ニ相成甚以不相濟事ニ候條各地方官ニ於テ厚ク注意シ追テ道路ノ制被相定候マテハ從前掃除請持有之道筋ハ勿論持場無之場所ハ最寄町村ヘ公平ニ割渡左ノ條目ノ通掃除可爲致事

第一條　總テ掃除請持丁場ハ風雨等ノ障リ有無ニ不拘必ス三ケ月中一度ツヽ掃除可致事

第二條　風雨ノ後ハ必ス其持場ヲ掃除シ溜水ハ左右溝ヘ導キ水溜ノ場所相減候樣可致事

第三條　並木根返リ風折雪折等ハ追テ其廳ヨリ處分有之ト雖モ不取敢通路妨ナキ樣取片付置可申事

第四條　左右ニ溝渠無之道路ハ成丈ケ路ノ兩緣ヲ低下ニシ雨水捌方宜敷樣可致事

第五條　掃除丁場標杭往々等閑ニ致シ置候向モ有之右ハ必ス其請持丁場境ニ從是東西或ハ南北何百何十何丁何郡何村掃除丁場ト誌シ標杭可相建事

第六條　路舗往々田畑ニ切添候ヨリ並木根サシヲ失シ之カ爲メ根返ニ及ヒ易ク以ノ外ノ事ニ候以來決テ右等ノ所業致ス間敷事

右ノ通堅可相守候若等閑ニ差置ニ於テハ掛リ官員巡廻ノ節屹度可申付事

○內務省訓示陸警第一二七號　明治十八年一月廿七日

途上ニ於テ車馬行逢フ時ハ互ニ左方ヘ避讓スヘキ旨各地方ニ於テ規定有之候處今般陸軍卿ヨリ照會ノ旨モ有之ニ付軍隊並砲車輜重車ニ行逢フタル時ニ限リ右方ヘ避讓スヘキ樣管下ヘ告示スヘシ此旨及訓示候也

但一般車馬互ニ左方ヘ避讓スヘキ規則ト相抵觸セサル樣致スヘシ

○內務省訓令訓第四七二號　明治廿三七月十六日

道路橋梁修築等ニ際シ衆庶ノ往來車馬ノ通行ヲ止ムル儀ハ公衆ノ不便ヲ感スル尠ナカラサル處ナルニ依リ右等通行止ヲ爲ス場合ニ於テハ事實精査ヲ遂ケ工事上大ナル支障アルカ又ハ通行ニ危險ノ虞アルモノヲ除ノ外ハ可成一般交通ノ便ヲ欠カサル樣注意セラルヘシ

右訓令ス

○內務大藏兩省訓令訓第四六二號　明治廿四年五月廿二日

地盤ノ官有ニ屬スル堤塘道路並木敷ノ使用ハ自今其費用ヲ負擔スル府縣及市町村ニ於テ處分スヘシ但市町村ノ處分ニ係ルモノハ府縣廳ノ認可ヲ請ハシムヘシ

前項堤塘道路並木敷使用料及堤塘道路用惡水路土居敷等ニ屬スル竹木其他收益ハ其費用ヲ負擔スル府縣及市町村ノ收入ニ屬スヘシ

費用ノ主擔定マラサルカ又ハ年々負擔ヲ異ニスル堤塘道路並木敷用惡水路土居敷等ニ關スル事項ハ府縣廳ニ於テ處分シ其收益ニ屬スルモノハ府縣廳ニ於テ之ヲ徵收シ費用ヲ負擔スル府縣及市町村ニ配付スヘシ

地盤ノ市町村ニ屬スル堤塘ノ使用及堤塘ヨリ生スル收益等ハ市町村ノ管理ニ歸セシムヘシ

○太政官達無號　明治九年一月二十日

東京府

皇城接近ノ場所ニ於テ商店ヲ開キ候テハ不取締ニ付左ノ區域内ハ開店商業不相成儀ト可心得此旨相達候事

櫻田　馬場先　和田倉　雉子橋　一ッ橋
神田橋　常盤橋　道三橋　錢瓶橋（入堀ヲ境トス）

○内務省訓令訓第二五二號　明治二十三年四月四日

警視廳

電信電話電燈等柱基ノ街路ニ傍フハ人車馬ノ運輸交通ノ便ヲ障碍スルモノ既ニ少ナカラス從來既ニ建設スルモノト將來ノ希圖ニ係ルモノトヲ問ハス改設及新設等ノ方法ニ付テハ官私ヲ論セス其處分ニ先チ設計ニ詳細ナル圖面ヲ添ヘ東京市區改正委員會ヘ協議セラルヘシ

（參照）

○長崎縣伺　明治廿四年七月十日

本縣ニ於テ施行スル街路取締規則ノ儀ハ廿三年十月訓第七二一號御訓令ノ旨趣ニ基ツキ警察上適當ノ取締ヲナシ工事其他ノ場合ニ於テ一時限リ道路ヲ使用セシムルヲ以テ交通上衛生上保安上便益尠ナル如キハ總テ警察署分署ヲシテ取扱ハシムルヲ以テ地盤ノ官有ニ屬スル堤塘道路並木敷ノ使カラス候處本年五月訓第四六二號ヲ以テ地盤ノ官有ニ屬スル堤塘道路並木敷ノ使用ハ自今其費用ヲ負擔スル府縣及市町村ニ於テ處分スヘシ云々ト定メラレタリ右ハ一時限リニアラサル道路ノ使用及借地料ヲ徵收スル道路ノ使用ヲ指稱セラレタルモノニシテ取締上一時限リ道路使用ヲ許可スルカ如キハ其管理ノ市町村ニ屬スルモノト雖モ總テ現今ノ通警察署分署ヲモテ取扱ハシメ差支無之義ニ候哉又ハ一時限リノモノト雖モ總テ御訓令ニ依リ市町村ニ於テ認可スヘキ哉果シテ然ラハ到底今日迄ノ如ク市街ノ体裁ヲ保持シ又ハ交通ノ安全ヲ保護スルコトハ覺束ナキノミナラス其取扱上ニ於テモ種々ノ支障ヲ生出スヘキハ必然ノ勢ニシテ當初街路取

締規則ヲ設ケタルノ事旨ハ遂ニ其完キヲ得サルニ至ランヿヲ恐ル右ハ容易ナラサル關係ヲ生スル義ニ付至急何分ノ御指示相成度此段相伺候也

右伺ニ付總務局長ヨリ通牒　明治廿四年八月六日

明治廿四年七月十日甲保第八四六號ヲ以テ道路使用ニ關スル件伺出相成候處右調第四六號訓令第一項ノ趣旨ハ一時ノ使用ト否ト使用料若クハ貸地料ヲ徴收スルト否トヲ問ハス總テノ使用ヲ指シタル義ニ有之候得共警察上街路取締ノ爲メ道路ノ使用ヲ制限スル如キハ本訓令ノ範圍外ニ付從前ノ通處分相成可然尤モ處分ノ兩樣ニ渉ルモノハ互ニ相照會協議シテ處分スル場合モ可有之ト被存候本件ハ別段指令及レス候ニ付此段及通牒候也

○大藏省達第七十五號　明治六年五月七日

諸道川々渡船場ノ儀ハ至當ノ賃錢ヲ請取立越候儀ニ付譬一人タリ共速ニ可立越ハ當然ニ候處多人數ニオヨヒ候迄行旅ヲ留置候弊習有之趣相聞以テノ外ノ儀ニ付以來一人タリ共早々出船候樣川場ヘ掲示可致置候事

○内務省達甲第十六號　明治八年七月二日

諸道橋梁渡船賃ノ儀各種ノ賃額川場ハ勿論賃錢受取所ヘモ明瞭掲示可致且賃錢受取方ニ付テハ時間ヲ費シ通行人ノ迷惑不相成樣厚ク注意可爲致此旨相達候事

○内務省達甲第四號　明治九年三月五日

道路橋梁渡津等ニテ公私ノ別無ク賃錢請求ノ儀許可致置候場所モ有之候處自今警部並巡査持區内巡視ノ節制服着用ノ者ニ限リ賃錢請求不相成候條此旨布達候事

○内務省達乙第十七號　明治十三年四月九日　府縣

人民私費ヲ以テ架設ノ橋梁渡津自今軍隊隊伍ヲ組ミ行進之節ハ其賃錢請求不相成候條兼テ許可有之架橋渡船願人共ヘ無漏可相達候此旨相達候事

○内務省達乙第六十二號　明治十四年十二月廿日　府縣

人民私費ヲ以テ架設ノ橋梁渡津及其私費開鑿ノ道路等憲兵巡行之節ハ單騎獨歩ト雖モ制服着用ノ節ニ限リ其賃錢請求不相成候條兼テ許可有之架橋渡船及開路願人共ヘ無漏可相達候此旨相達候事

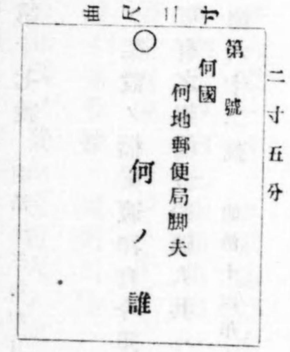
○内務省達乙第十八號　明治十五年三月十三日　府縣

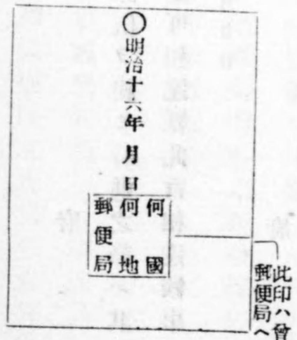
人民私費ヲ以テ架設ノ橋梁渡津及ヒ私費開鑿ノ道路等郵便脚夫ノ飛信遞送幷郵便物遞送集配特ニ配達人タルヲ證スルノ服ヲ着シ配達スルトキノ時ニ限リ賃錢請求不相成候條兼テ許可

有之架橋渡船及ヒ開路願人共ヘ無洩可相達候此旨相達候事

○内務省達乙第三十一號　明治十六年六月十九日　府　縣

人民私費ヲ以テ架設ノ橋梁渡津及私費開鑿ノ道路等郵便脚夫ノ飛信遞送幷ニ郵便物遞送集配（特ニ配達人タルヲ證スル服ヲ着シ配達スル時）ノ時ニ限リ賃錢請求不相成旨客年三月當省乙第十八號ヲ以テ相達置候處自今郵便局ヨリ左ノ如キ印鑑相渡置候條右所持ノ者ハ制服ノ着否ニ拘ハラス賃錢請求不相成儀ト可心得此旨免許人共ヘ遺漏ナク達シ置ヘシ此旨相達候事





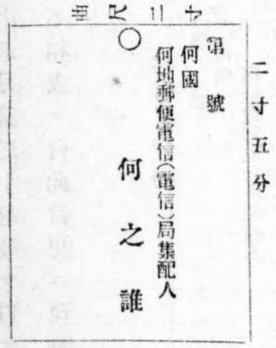
○内務省達乙第六十六號　明治十五年十二月九日　府　縣

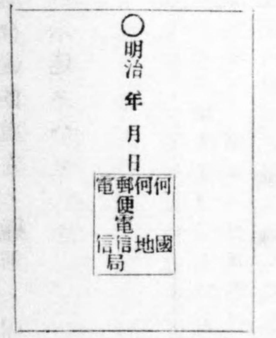
人民私費ヲ以テ開設シタル橋梁渡津及道路等電信配達人配達（特ニ配達人タルヲ證スル服ヲ着シ配達ス）ル片ノ時ニ限リ賃錢請求不相成候條免許人共ヘ遺漏無ク達シ置ク可シ此旨相達候事

○内務省訓令第二十七號　明治二十一年十二月二十二日

人民私費ヲ以テ開設シタル橋梁渡津及道路等制服ヲ着シタル電報配達人ヨリ賃錢請求不相成旨明治十五年乙第六十六號ヲ以テ相達候處左ノ雛形ノ印鑑携帶ノ者ハ制服ノ着否ニ拘ハラス賃錢請求不相成ニ付此旨更ニ免許人ヘ示達ス可シ

印鑑雛形

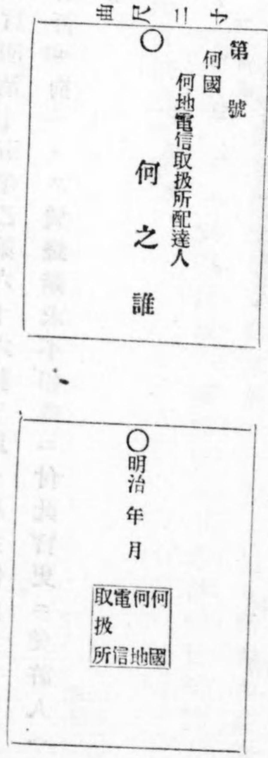




○内務省訓令第六號　明治二十四年五月二日

人民私費ヲ以テ開設シタル橋梁渡津及道路等電報配達人ヨリ賃錢請求不相成旨明治二十一年十二月第二十七號ヲ以テ及訓令置候處左ノ雛形ノ印鑑携帶ノ者モ同樣賃錢請求不相成ニ付此旨更ニ免許人ヘ示達スヘシ

印鑑雛形



（參照）

○滋賀縣伺　明治十八年八月八日

橋梁渡津等人民私費ヲ以テ架設ノ分警部巡査持區內巡視ノ節制服着用ノ者ニ限リ賃錢請求不相成旨追々御布達相成候處持區內ノ外ヘ出張及監獄看守押丁護送等ノ節時トシテ神速ヲ要シ或ハ護衛等ニ不便不尠義モ有之ニ付本縣下ニ在ル橋梁渡津ニ於テハ府縣自他ノ差別ナク警部巡査ハ持區ノ內外ヲ問ハス制服着用ノ節及看守押丁ハ囚人護送ノ節ニ限リ其囚人一同賃錢請求停止致レ度見込ニ候得共其關係自

ラ一般ニ及フモノニ付爲念相伺候

○內務省指令　明治十八年二月十三日

書面伺之通

○群馬縣伺　明治十九年三月五日

明治十八年八月八日滋賀縣伺ニ對シ御指令相成候儀今般警保局ヨリ通牒有之本縣ニ於テモ自今同樣取計申度就テハ囚人賃錢ノ儀モ獨リ看守押丁ノ押送スル時ノミニ限ラス巡査ノ護送スル囚人モ等シク賃錢請求セシメサル樣致度相伺候也

○內務省指令　明治十九年三月十日

書面伺之通

○熊本縣伺　明治廿年六月二十日

明治十九年十月陸軍省令甲第卅九號召集條例第廿八條三項ノ主旨タルヤ兵員ノ通行敘速ヲ期スルニ外ナラサルヘク思考致候就テハ從來人民私費ヲ以テ開設セル道路橋梁渡津ニ於テ賃金請求致來候分ト雖トモ近衛鎭臺充員及ビ後備軍召集ニ際シ令狀所持ノ者並該令狀配達ノ脚夫等通行ノ節ハ賃金請求相成ラサル旨命令致シ可然哉

○內務省指令　明治二十年七月五日

書面伺之通

○內務省訓令第十二號　明治二十七年六月十三日

廳府縣

人民私費ヲ以テ開設シタル橋梁渡津及道路等電報配達人ヨリ賃錢請求不相成旨明治二十四年五月第六號ヲ以テ及訓令置候處本年勅令第十五號消防組規則ニ依リ設置シタル消防組員ニシテ水火災警防演習等ニ際シ一定ノ服裝ヲ爲シタルトキニ限リ其賃錢請求不相成候條此旨豫テ免許人ヘ示達シ置クヘシ

○內務省訓令第七百六十二號　明治二十九年十二月三日

道路往來止若クハ車止ノ場合ニ郵便ノ遞送及集配並ニ電報集配人ヲシテ他ノ迂路ヲ取ラシムルトキハ通信ノ遲達ヲ來スヘクニ付右等ノ場所ト雖可成通過セシムル樣取計ハルヘシ右訓令ス

外國船乘込規則

〔沿革〕明治元年六月士商人ヲ論セス諸港ヨリ外國船ニ乘込ム者必ス其地府縣ノ證書ヲ受ケシム○五年八月第二百二十八號達ヲ以テ外國船ニ乘込ミ內地各港間航海スル者ノ乘込免狀ヲ發ス○九年三月第三十號布告ヲ以テ再ヒ外國船乘込規則ヲ制定ス○同年同月內務省丙第十四號ヲ以テ乘船證書渡方ヲ達ス○同年四月第六十一號布告ヲ以テ規則第三條中手數料ヲ改正ス

○布告第三十號　明治九年三月十八日

外國船ニ乘込旅行セントスル者取締ノタメ左ノ通規則相定候條此旨布告候事

外國船乘込規則

第一條　外國船ニ乘込旅行セントスル者ハ出船當日或ハ一日前其屬籍住所姓名及ヒ何國人所持船何號ニ乘込何港迄赴ク旨ヲ具シタル屆書ヲ其出船スル地ノ廳ニ差出シ乘船證書ヲ受クヘシ

第二條　乘船證書ハ壹人壹枚タルヘシ

第三條　乘船證書ヲ受取ルニハ壹枚ニ付手數料トシテ金拾錢ヲ納ムヘシ

第四條　乘船證書ハ每人親ラ出廳シテ受取ルヘシ代人ヲ以テスルヲ許サス

第五條　乘船證書ハ着港上陸ノ上其地警察官吏ニ返付スヘシ其途中一時上陸ヘ例ハ横濱港ヨリ長崎港ニ到ル者其船船神戶港ニ御碇シタル時用便ノタメ暫時上陸スルノ類スル者ハ其地臨檢警察官吏ニ其證書ノ檢閱ヲ受クヘシ

第六條　乘船證書ハ一度ノ出船ニ用フルモノトス故ニ途中ヨリ上陸スル歟又ハ事故アリテ乘込ヲ止メ更ニ他ノ船ニ乘込歟又ハ同船タリトモ他日航海ノ便ニ乘込ム時ハ最初受取タル證書ハ其出帆スル地ノ廳ニ納メテ更ニ證書ヲ受取ルヘシ

第七條　乘船證書ヲ所持セスシテ乘船シタル者ハ上陸ノ節違式ニ照シテ處分ス

ヘシ

第八條　開港場アル地方廳ニ於テハ外國船ニ乘込ントスルノ屆書ヲ差出ス者アル時ハ第一條第四條ノ手續ニ相違ナキヤヲ檢閲シ別紙雛形ノ證書ヲ直ニ本人ニ相渡シ手數料ヲ領收スヘシ

第九條　右地方廳ハ兼テ船場ノ要所ニ於テ警察官吏ノ出張所ヲ設ケ置キ外國船出入港毎ニ若干員ヲ檢臨セシメ內國人ノ乘船又ハ上陸スル者ノ證書ヲ一々檢閲シ若シ證書ヲ所持セサル歟又ハ其證書最前ノ出船ニ受取リタルヲ其儘再用シタル歟ヲ視認メタル時ハ詳カニ其所由ヲ取糺シ證書所持セサル者ハ乘船證書ヲ受取ル手續ヲナサシメ或ハ其乘込ミヲ止ム證書ヲ再用スル者ハ違式ニ照シテ處分スヘシ

第十條　警察官吏乘船證書ヲ臨檢シ著港上陸者ノ分ハ之ヲ領收シ一時途中上陸者ノ分ハ之ヲ本人ニ還付スヘシ

證書雛形（料紙西ノ內紙八ツ切割）

表

何府（縣）何「大小區」何町（村）住（寄留）
何府（縣）華（士）族（平民）

姓名　年齡

右何國何號船ニ乘込何港ニ到ルヲ認了ス

年　月　日　廳名　印

裏

一此證書ヲ授與スルカタメ規則ノ通手數料ヲ領收セリ

面

一此證書ハ何港到著ノ節其地臨檢警察官吏ヘ返付スヘシ

○內務省達丙第十四號　明治九年三月三十一日

外國船乘込規則本年第三十號ヲ以テ御布告相成候ニ付テハ各廳ニ於テ可相渡乘

大阪府　神奈川縣　兵庫縣　長崎縣　新潟縣

船證書ノ儀休日又ハ退廳後タリトモ乘込ニ指支無之樣無遲滯渡方可取計且乘船場ニ於テ警察[出張所]取設方吏員配置ノ方法等當省ヘ可屆出此旨相達候事

○內務省令第三號　明治二十七年二月廿八日

各開港場ヲ發シ海外ヘ航行スル內外國船舶ノ請求ニ依リ健康證書ヲ下付スルトキハ該船長ヨリ手數料トシテ金貳圓ヲ徵收ス但各國條約ニ於テ手數料ヲ定メタルトキハ其額ニ據ル

○內務省令第二號　明治二十七年二月十六日

明治二十七年三月一日ヨリ外國船乘込證書手數料ハ登記印紙ヲ以テ納ムヘシ

第四十六章　田野漁獵及獸類傳染病

○法律第十七號　明治二十九年三月二十四日

害蟲驅除豫防法

第一條　此ノ法律ニ於テ害蟲ト稱スルハ農作物ヲ害スル各種ノ蟲類ヲ謂フ

第二條　驅除豫防スヘキ害蟲ノ種類及驅除豫防ノ方法ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ府縣知事之ヲ定ム

認可ヲ經タル種類以外ノ害蟲發生シ急速ノ處分ヲ要スルトキハ府縣知事ハ臨時驅除豫防ノ方法ヲ定メ之ヲ施行スルコトヲ得此ノ場合ニ於ハ直ニ其ノ旨ヲ農商務大臣ニ具申スヘシ

第三條　害蟲田畑ニ發生シタルトキ又ハ發生ノ虞アルトキハ府縣知事ハ豫メ期限ヲ定メ該田畑ノ作人ヲシテ驅除豫防ヲ行ハシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ作人驅除豫防ヲ行ハサルトキハ府縣知事ハ市町村費ヲ以テ之ヲ行ヒ市町村ヲシテ該作人ヨリ其ノ費用ヲ徵收セシムルコトヲ得其ノ費用ノ徵收ニ關シテハ市制第百二條及町村制第百二條ヲ適用ス

第四條　害蟲蔓延シタルトキ又ハ蔓延ノ兆アルトキ若ハ害蟲田畑以外ノ地ニ發生シタルトキ又ハ發生ノ虞アルトキハ府縣知事ハ市町村費ヲ以テ驅除豫防ヲ行フコトヲ得

第五條　府縣知事ハ前條ノ驅除豫防ノ爲ニ市町村ニ命シテ夫役ヲ市町村全部又ハ一部ノ田畑ノ作人及所有者ニ賦課セシムルコトヲ得

夫役ハ害蟲ノ種類ニ依リテ田又ハ畑ニ區別シテ賦課スルコトヲ得

夫役ノ賦課ハ段別又ハ地價ヲ以テ準率ト爲スヘシ

夫役ハ各別ノ率ニ據リ小作人、自作人及地主ニ賦課スルコトヲ得

本條ノ場合ニ於テハ市制第百二十三條及町村制第百二十七條ヲ適用セス

第六條　府縣知事ハ驅除豫防ノ爲必要アルトキハ市町村費ヲ以テ溝渠ヲ設ケ又ハ農作物藁稈、刈株、雜草ヲ拔棄若ハ燒棄スルコトヲ得

本條ノ場合ニ於テハ第五條ノ規定ヲ適用ス

第七條　驅除豫防ノ必要ヨリ生シタル損害ニ對シ被害者ハ賠償ヲ要求スルコトヲ得ス

第八條　土地所有者、管理者又ハ使用者ハ官吏及其ノ指揮ヲ承クル者ノ其ノ地ニ入リ驅除豫防ニ從事スルヲ拒ムコトヲ得ス

第九條　府縣知事又ハ郡長ハ必要ナル場合ニ於テハ府縣稅(地方稅)又ハ郡費ヲ以テ第三條、第四條、第六條ノ費用ヲ補助シ若ハ驅除豫防ニ必要ナル器具ヲ給與シ又ハ貸與スルコトヲ得

第十條　蟲類以外ノ動物ト雖モ農作物ヲ害スルトキ又ハ害スルノ虞アルトキハ府縣知事ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ此ノ法律ヲ適用スルコトヲ得

第十一條　第三條ノ場合ニ於テ府縣知事ノ命令ニ從ハサル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料又ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第十二條　第六條及第八條ニ依レル官吏若ハ其ノ指揮ヲ承クル者ノ行爲ヲ妨害スル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金又ハ十一日以上二十日以下ノ重禁錮ニ處ス

第十三條　此ノ法律ハ北海道沖繩縣其ノ他市制、町村制ヲ施行セサル島嶼ニ之ヲ施行セス別ニ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條　此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

○農商務省訓令第六號　明治二十九年三月二十八日

害蟲驅除豫防法取扱手續

第一條　害蟲驅除豫防法第二條第一項ニ依リ驅除豫防スヘキ害蟲ノ種類及驅除豫防ノ方法ニ付キ本大臣ノ認可ヲ請フトキハ各害蟲ニ付キ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　名稱、方言

二　主ナル被害農作物ノ種類

三　驅除豫防ノ方法

害蟲驅除豫防法第二條第二項ノ場合ニ於テモ本條ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添フヘシ

第二條　害蟲驅除豫防法ノ施行ニ係ル命令ハ本大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三條　害蟲一市町村以上ニ蔓延シタルトキ又ハ蔓延ノ兆アルトキハ鄰接市町村ニ於テ同時ニ驅除豫防ヲ行フヘシ

第四條　害蟲隣接府縣ニ蔓延セントスルノ虞アルトキハ其ノ旨ヲ關係府縣ニ急報スヘシ

第五條　二府縣以上ニ跨リ害蟲蔓延シタルトキハ關係府縣ハ臨時驅除豫防ノ方法ヲ議定シ施行區域ヲ定メ驅除ヲ行フヘシ此場合ニ於テハ府縣知事ハ其ノ區域及第一條第一項ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添ヘ直ニ其ノ旨ヲ本大臣ニ具申スヘシ

第六條　害蟲驅除豫防法第十條ニ依リ蟲類以外ノ動物ニ對シ該法律ノ適用ニ付キ本大臣ノ認可ヲ請フトキハ本令第一條第一項ノ規定ヲ適用ス

第七條　害蟲發生シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ本大臣ニ急報スヘシ

第八條　害蟲蔓延シ若クハ蔓延ノ兆アリテ市町村費ヲ以テ之カ驅除豫防ヲ行フトキハ其ノ都度直ニ左ノ事項ヲ本大臣ニ報告スヘシ

一　害蟲ノ種類

二　郡市町村名

三　被害農作物ノ種類及被害見積段別

四　被害ノ狀況

第九條　毎年度ニ於テ市町村費ヲ以テ施行シタル害蟲驅除豫防ニ關スル事項ハ左ノ表式ニ依リ翌年四月三十日マテニ本大臣ニ報告スヘシ

害蟲驅除豫防報告樣式（各害蟲ニ付區分スヘシ）

害蟲名	郡市名	被害町村ノ數	同上農作物ノ種類	同上見積段別	此平年收穫高	被害ニ付見積減收高	驅除豫防ニ係ル市町村費	同上夫役數	同上郡費補助額	同上府縣費補助額（地方費）
計										

○農商務省訓令第五號　明治二十一年三月十五日　警視廳　府縣沖繩縣ヲ除ク

各地方ニ於テ火入ト稱ヘ山野ノ枯草ヲ燒キ其火延燒シテ隣接官私林ニ災害ヲ及

スコト少シトセス因テ地方廳ハ左ノ標準ニ據リ從來ノ習慣ヲ酌量シ山野火入取締規則ヲ設クヘシ

山野火入取締規則標準

第一條　山野火入ヲ爲サント欲スル者アルトキハ地方廳ハ左ノ各項ヲ具シタル願書ニ認可ヲ受ケシムヘシ

一　火入期日

一　箇所限地目段別及字番號

一　四至境界ヲ見ヘキ實地略圖

第二條　前條ノ認可ヲ受ケタル者ハ其火入ヲ爲サント欲スル山野ノ森林原野ニ接シタル境界ニ防火線ヲ設ケ且其森林原野所有者（官林ナルトキハ大小林區署若クハ大林區署派出所若ク）及警察署（官林巡邏ハ）ヘ少ナクトモ火入期日五日以前ニ其旨ヲ報告セシムヘシ

第三條　防火線ハ幅三間以上トス都テ柴草ヲ刈採リ落葉竝塵芥ヲ除去リ或ハ土堤又ハ堀溝等ノ設ケヲ爲サシムヘシ但道路谿谷等ニテ本條ノ防火線ヲ設ケサルモ延燒ノ虞ナキ地ハ此限ニアラス

第四條　日出前日沒後及風勢穩ナラサルトキハ火入ニ着手セシムヘカラス

第五條　火入ノ期日間ハ番人ヲ出シ火氣全ク消滅スルニ至ルマテ其場ヲ退カシムヘカラス

第六條　火入認可ヲ受ケタル者ト雖モ郡區長警察官大小林區署員、大林區署派出所員、戸長官林巡邏ニ於テ防火ノ準備不充分ト認メタルトキ又ハ風勢ノ變動等ニヨリ他ヘ延燒ノ虞アリト思量スルトキハ直チニ之ヲ中止セシムルコトアルヘシ

○法律第二十條　明治二十八年三月二十日

狩獵法

第一章　獵具獵法

第一條　此ノ法律ニ於テ狩獵ト稱スルハ銃器、各種ノ網、放鷹、竊繩又ハ撲ヲ以テ鳥獸ヲ捕獲スルヲ謂フ

前項各獵具ノ種類及制限ハ農商務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第二條　爆發物、据銃若ハ危險ナル罠及陷穽ヲ以テ鳥獸ヲ捕獲スルコトヲ得ス

前項ノ外ノ獵具獵法ニシテ第一條ニ掲ケサルモノニ就テハ地方長官（東京府下ハ警視總監以下之ヲ傚ヘ）ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ便宜取締規則ヲ設クルコトヲ得

第三條　日出前、日沒後又ハ市街、人家稠密ノ場所、衆人群集ノ場所ニ於テ若ハ銃丸ノ達スヘキ虞アル建物、船舶、汽車ニ向テ銃獵ヲ爲スコトヲ得ス

第四條　左ニ揭クル場所ニ於テハ狩獵ヲ爲スコトヲ得ス

一　御獵場

二　禁獵制札アル場所

三　公道

四　公園

五　社寺境内

六　墓地

七　欄、柵、圍障又ハ作物植付アル他人ノ所有地及免許ヲ受ケタル他人ノ共同狩獵地但シ所有者又ハ管理人ノ承諾ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條　地方長官ハ土地所有者ノ出願又ハ其ノ他ノ理由ニ因リ必要ト認ムル場合ニ於テハ禁獵制札ヲ建ツルコトヲ得

第二章　狩獵免許

第六條　狩獵ヲ爲サムト欲スル者ハ地方長官ニ願出テ免狀ヲ受クヘシ但シ欄、柵圍障アル所有地内ニ於テ銃器ヲ使用セスシテ狩獵ヲ爲ス者ハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條ノ處罰ヲ受ケタル者ハ滿一箇年ヲ經過セサレハ再ヒ免狀ヲ受クルコトヲ得ス

第七條　從來地方ノ慣行ニ依リ一定ノ區域内ニ於テ共同狩獵ヲ爲ス者ハ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ願出テ免許ヲ受クルコトヲ得但シ其ノ出願ニ關スル規則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第八條　免狀ヲ分チテ甲乙ノ二種トス

甲種免狀ハ銃器ヲ使用セスシテ狩獵ヲ爲ス者ニ下付シ乙種免狀ハ銃器ヲ使用シテ狩獵ヲ爲ス者ニ下付スルモノトス

第九條　免狀ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ免許稅ヲ納ムヘシ

一等　（所得稅十五圓以上若ハ地租二百圓以上納ムル者）　（甲種金五十圓　乙種金五十圓）

二等　（所得稅三圓以上若ハ地租四十圓以上納ムル者又ハ一等ニ相當スル者ノ家族）　（甲種金一圓五十錢　乙種金三圓）

三等　一等二等以外ノ者　（甲種金五十錢　乙種金一圓）

第十條　甲種免狀ノ有效期限ハ十月十五日ヨリ滿一箇年トシ乙種免狀ノ有效期限ハ十月十五日ヨリ翌年四月十五日マテトス

地方長官ハ土地ノ狀況ニ因リ農商務大臣ノ認可ヲ經テ前項ノ期限ヲ三十日以內伸縮スルコトヲ得

第十一條　免狀ノ使用ハ本人ニ限ルモノトス但シ助手ヲ要スル獵法ニアリテハ免狀ヲ有セサル者ヲ同伴スルコトヲ得

第十二條　獵者ハ出獵ノ際免狀ヲ携帶スヘシ

警察官、憲兵、森林官及市町村長ハ獵者ノ免狀ヲ檢査スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ獵者ハ免狀ノ檢査ヲ拒ムコトヲ得ス

第十三條　免狀ヲ亡失シタルトキハ其ノ地ノ所轄警察官署及當初之ヲ下付シタル官廳ニ届出ヘシ

免狀ヲ亡失シ若ハ毀損シタルトキハ其ノ再渡又ハ書換ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ手數料金二十五錢ヲ納ムヘシ

第十四條　十六歲未滿ノ者ハ乙種免狀ヲ受クルコトヲ得ス

第十五條　免狀ハ其ノ效力ヲ失ヒタル日ヨリ三十日以內ニ當初之ヲ下付シタル官廳ニ返納スヘシ

第十六條　遊步規程ノ制限アル外國人ニシテ狩獵免狀ヲ受クル者ハ甲種金五圓乙種金十圓ノ免許稅ヲ納メ其ノ規程內ニ限リ狩獵スルコトヲ得若其ノ規程外ニ於テ狩獵シタルトキハ該免狀ハ爾後無效ノモノトス

第三章　鳥獸保護

第十七條　保護ヲ必要トスル鳥獸ヲ捕獲シ又ハ之ヲ販賣スルコトヲ禁ス但シ捕獲ノ禁止又ハ停止以前ニ於テ捕獲シタル鳥獸ハ其ノ禁止又ハ停止ノ日ヨリ二週間以內ニ於テ販賣スルハ此ノ限ニ在ラス

飼養ニ係ル保護鳥獸ハ前項期日後ト雖農商務大臣定ムル所ノ規則ニ依リ販賣スルコトヲ得

捕獲ヲ禁止シ又ハ停止スヘキ保護鳥獸ノ種類及期限ハ農商務大臣之ヲ定ム

第十八條　捕獲ヲ禁スル鳥類ノ卵又ハ雛ヲ取リ若ハ之ヲ販賣スルコトヲ禁ス

第十九條　捕獲ヲ禁スル鳥獸ト雖學術研究其ノ他特別ノ理由ニ因リ捕獲ヲ要スルトキハ地方長官ハ特ニ其ノ許可ヲ與フルコトヲ得

有害鳥獸ヲ驅除スル爲必要ト認ムル場合ニ於テモ亦同シ

第四章　罰則

第二十條　第六條第一項ニ違背シテ狩獵ヲ爲シ又ハ第十四條ニ違背シテ乙種免

狀ヲ受ケタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ第九條ニ違背シテ免狀ヲ受ケタル者ハ七圓以上七十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條　第二條第一項第三條第四條第一乃至第六ニ違背シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ處罰ヲ受タタル者ノ免狀ハ其ノ效力ヲ失フモノトス

第二十二條　第四條第七第十二條第三項、第十七條第一項、第十八條ニ違背シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス但シ第四條第七ニ付テハ土地所有者又ハ管理人ノ告訴ヲ待テ處斷ス

第二十三條　第十二條第一項、第十三條第一項第十五條ニ違背シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

附則

第二十四條　狩獵ニ關スル從前ノ規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

此ノ法律施行以前設定ノ免許ヲ受ケタル獵區ハ其ノ免許期限間效力ヲ有スルモノトス

第二十五條　此ノ法律施行以前免狀ヲ受ケタル者ハ更ニ免狀ノ下付ヲ要セス引

續キ狩獵ヲ爲スコトヲ得

○農商務省令第四號　明治二十八年三月二十七日

狩獵法施行細則

第一條　狩獵法第一條ニ揭クル各種ノ網ハ羅網、投網、霞網其他ノ張網トシ竊繩ハ流シ竊、張竊繩トシ又撲ハ高撲、千本撲トス

第二條　銃器ノ制限ハ銃砲取締規則ノ定ムル所ニ依ル

第三條　狩獵免狀ヲ受ケント欲スル者ハ願書ニ免狀ノ種類及住所族籍職業氏名年齡ヲ詳記シ且狩獵法第二十一條ノ處罰ヲ受ケタルコトノ有無及若シ處罰ヲ受ケタルコトアルトキハ其年月日ヲ附記スヘシ

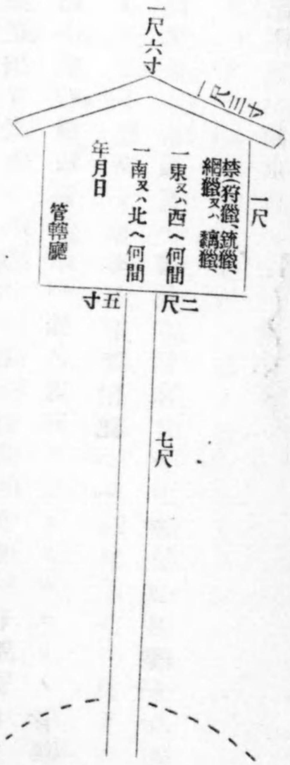
第四條　狩獵免狀ノ再渡又ハ書換ヲ請求スルトキハ其手數料ハ登記印紙ヲ以テ納ムヘシ

前項ノ登記印紙ハ請求書ニ貼付消印スヘシ

第五條　狩獵免狀ヲ受ケタル者ニシテ族籍氏名ヲ變換シ又ハ住所ヲ移轉シタルトキハ地方長官（東京府下ハ警視總監以下之ニ倣フ）ニ又其移轉ノ地、他ノ管轄廳ニ屬スルトキハ甲乙兩地ノ地方長官ニ三週日以內ニ屆出ツヘシ

第六條　禁獵制札ノ建設ヲ要スル者ハ其理由ヲ詳記シ地方長官ニ出願スヘシ但該建設費ハ出願者ノ負擔トス

第七條　地方長官ニ於テ建設スヘキ禁獵制札ノ雛形左ノ如シ



第八條　共同狩獵地ノ免許ヲ受ケント欲スル者ハ免許期限ヲ定メ其地形面積ヲ記載シタル圖面及其土地ニ於ケル狩獵ノ慣行ヲ詳記シタル書類ヲ願書ニ添付シ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ出願スヘシ

免許ノ繼續ヲ出願スルトキ亦同シ

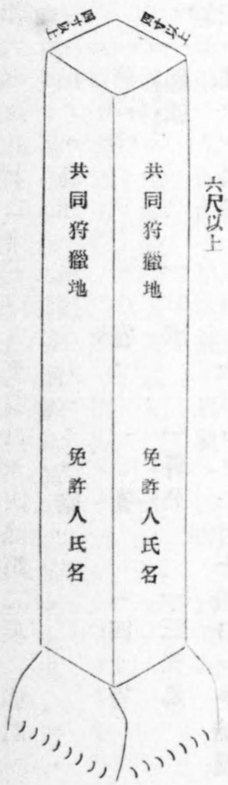
第九條　共同狩獵地ノ免許ヲ受ケント欲スル場所官有ニ屬スルトキハ豫メ管轄官廳ニ願出テ使用ノ許可ヲ受クヘシ若シ其場所他人ノ所有ニ係ルトキハ所有者ノ承諾ヲ受クヘシ

前項ノ許可若クハ承諾ヲ受ケタルトキハ第八條ノ願書ニ其書類ノ寫ヲ添付スヘシ

第十條　共同狩獵地ノ區域ヲ變更セント欲スルトキハ其地形面積及變更ノ區分ヲ明記シタル圖面ヲ願書ニ添付シ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ出願スヘシ

共同狩獵地ヲ廢シタルトキハ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ届出ツヘシ

第十一條　共同狩獵地ニハ其周圍五十間ヲ超ヘサル距離毎ニ見易キ場所ヲ撰ヒ左ノ雛形ニ據リ木標ヲ建設シ其旨所轄警察官署ニ届出ツヘシ



第十二條　公益ノ爲メ必要ト認ムルトキ又ハ免許人第十一條ノ制限ニ從ハサル

トキハ共同狩獵地ノ全部若クハ一部ニ對シテ免許ヲ取消スコトアルヘシ

第十三條　第十一條第十二條ハ狩獵法第二十四條第二項ノ獵區ニモ適用ス

第十四條　左ニ掲クル鳥類ハ捕獲スルコトヲ禁止ス

一鶴　一燕岩燕ヲ除ク　一小雀　一日雀　一四十雀　一五十雀

一柄長　一鶺鴒　一杜鵑　一郭公　一三光鳥

第十五條　左ニ掲クル鳥類ハ三月十六日ヨリ十月十四日マテ捕獲スルコトヲ停止ス

一雉　一鶯雉

第十六條　左ニ掲クル鳥類ハ四月十六日ヨリ八月十四日マテ捕獲スルコトヲ停止ス

一鶺鴒　一椋鳥　一鷄　一雲雀　一鷸　一鴨

一小啄木　一雷鳥　一松鷄　一鳩鴿ヲ除ク

第十七條　牝鹿ハ十月一日ヨリ七月十五日マテ牡鹿ハ十月一日ヨリ十一月三十日マテ捕獲スルコトヲ停止ス

第十八條　北海道ニ於テハ第十七條ノ保護期外タリトモ鹿ノ捕獲ヲ停止ス

第十九條　營業ノ爲メ保護鳥獸ヲ飼養スル者ハ捕獲禁止又ハ停止ノ日ヨリ二週日ヲ經過シタル翌日現在ノ名稱及員數ヲ卅日以內ニ所轄警察官署ニ屆出ツヘシ

前項ノ鳥獸ニシテ蕃殖又ハ斃死シタルトキハ其年月日及鳥獸ノ名稱員數ヲ三十日以內ニ所轄警察官署ニ屆出ツヘシ

第二十條　保護鳥獸ヲ販賣シタルトキハ其買受人ノ住所氏名年月日及鳥獸ノ名稱員數ヲ三十日以內ニ所轄警察官署ニ屆出ツヘシ

○農商務省訓令第四號　明治二十八年三月二十七日

警視廳　北海道廳　府縣東京府ヲ除ク

狩獵法取扱手續

第一條　狩獵法第十九條第一項ニ據リ鳥獸ノ捕獲ヲ許可セントスルトキハ豫メ其捕獲スヘキ鳥獸ノ種類員數及捕獲期限ヲ定ムヘシ

同條第二項ニ據リ有害鳥獸ノ驅除ヲ出願スル者アルトキハ被害ノ狀況ヲ調査シ必要ト認メタル場合ニ限リ驅除期限及區域ヲ定メ之ヲ許可スヘシ

本條第一項ノ捕獲許可ノ期限ハ三週日以內トス

第二條　第一條ニ據リ鳥獸ノ捕獲又ハ驅除ヲ許可スルトキハ期限ヲ定メ其鳥獸

ノ名稱及員數ヲ報告セシムヘシ

前項ノ報告ハ毎月十五日マテ前月分ヲ取纏メ第一號表第二號表ノ區別ニ從ヒ本大臣ニ差出スヘシ

第三條　免狀ハ毎年使用高ヲ概算シ其年七月三十一日限リ本大臣ニ請求スヘシ

第四條　免狀原簿ヲ備置キ免狀下付ノ際之ニ其番號獵者ノ住所族籍職業氏名及年齡ヲ登錄スヘシ

第五條　免狀ニハ獵者ノ住所族籍職業氏名及年齡ヲ記入シ廳印ヲ押捺スヘシ

第六條　免狀ヲ亡失シタル者アルトキハ其種類番號及亡失者ノ住所族籍職業氏名及年齡ヲ官報又ハ其他ノ方法ヲ以テ公告スヘシ

第七條　獵者ヨリ免狀ヲ返納シタルトキ及概算ヲ以テ領收シタル免狀ニ剩餘ヲ生シタルトキハ之ヲ斷裁スヘシ

第八條　免狀統計表ハ第三號表式ニ據リ調製シ毎年甲種ハ十二月十五日マテ乙種ハ五月十五日マテニ本大臣ニ報告スヘシ

第一號表式

鳥獸捕獲表　自明治何年何月何日　至同　年何月何日

廳府縣名

鳥獸名	雌	雄	牝	牡	計	郡村氏名

備考　學術研究其他ノ理由ニ因リ某地方ニ於テ捕獲云々

第二號表式

有害鳥獸驅除表　自明治何年何月何日　至同　年何月何日

廳府縣名

鳥獸名	數	被害ノ狀況	郡村氏名

備考

第

明治何年度狩獵甲(乙)種免狀統計表

廳府縣名

三號表式

種目	一等	二等	三等	計
免狀受取高				
免狀下付高				
免許稅				
免狀再渡高				
免狀再渡手數料				
狩獵禁止地名	新設地名 何々 解除地名 何々			

○農商務省內訓丙第三七九號　明治二十五年十月十五日

皇族ニ於テ御遊獵相成候節ハ狩獵規則遵守可相成ハ勿論ニ有之候得共右ハ免狀御携帶ニ及ハサル義ニ付別段狩獵免狀交付不相成候條御出獵ノ際不都合無之樣取扱フヘシ

○農商務省內訓丙第四〇二號　明治二十五年十月二十六日

本邦在留朝鮮人墨西哥人及葡萄牙人ニシテ狩獵免狀ヲ請求スルトキハ遊獵免狀ヲ下付シ狩獵規則ニ遵ヒ處分候儀ト心得ヘシ

但葡萄牙人ノ狩獵區域ハ條約規程內ニ限ル

○農商務省訓令第三十四號　明治二十五年十一月十一日

朝鮮人墨西哥人葡萄牙人ニシテ遊獵免狀ヲ申受ケントスル者アルトキハ出願手續免許料納付等總テ本邦人同樣ノ手續ニ依ラシムヘシ

警視廳　北海道廳　府縣（東京府ヲ除ク）

○農商務省內訓丙第三九八號　明治二十五年十月二十六日

帝國在留各國交際官ノ義ハ從來無稅免狀ヲ交付セシモ今般狩獵規則公布セラレタルニ付テハ自今別段狩獵免狀ヲ交付セス狩獵セシメ苦シカラス尤モ出獵ノ際ハ別紙雛形之通リ其官職ヲ記載シタル書札ニ本省ノ證印ヲ押捺シ常ニ携帶セシムヘキニ付不都合ナキ樣取扱フヘシ乍去交際官ト雖モ狩獵規則ノ制限ヲ遵守スヘキハ勿論ノ義ニ有之候間萬一違反等有之候節ハ其官職姓名及事由詳記ノ上直ニ外務大臣及本大臣ヘ報告スヘシ

但拘留引致等不相成ハ勿論ノ義ト心得ヘシ

○農商務省內訓農第五〇五六號　明治二十五年十一月十日

清佛露ノ三國人ニシテ遊獵免狀ノ交付ヲ申出ツルコトアルモ右ハ追テ何分ノ通知ニ及フマテハ免狀交付不相成義ト心得ヘシ

○農商務省內訓農第五二一三號　明治二十五年十一月十四日

本月十日付第五〇五六號ヲ以テ清佛露三國人ニハ何分ノ通知ニ及フマテハ遊獵免狀交付不相成義ト可心得旨及內訓置候處佛國人ニシテ右免狀ノ交付ヲ申出ツルトキハ他ノ外國人同樣交付方取計フヘシ

○內務省達乙第三十六號　明治九年三月二十四日

廳府縣

警察官吏ニ於テ外國人ノ銃獵スルヲ見認メ差留候節若シ肯セザル者アル時拘引スヘキ場合柄並手續等ハ豫テ外務省ヘ伺置候樣可致此旨相達候事

○法律第七號　明治三十年三月十五日

狩獵法ニ依リ政府ニ納ムル免許稅ハ稅額ニ相當スル印紙ヲ狩獵免許出願書ニ貼用シテ納ムルモノトス

此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

○法律第十號　明治二十八年三月二日

臘虎臘肭獸獵法

第一條　臘虎臘肭獸ヲ獵獲セムトスル者ハ農商務大臣ノ免許ヲ受クヘシ

第二條　臘虎臘肭獸保護ノ爲勅令ヲ以テ禁獵區及禁獵期ヲ設ケ獵船、獵具、獵法ヲ制限シ牝牡、年齡ニ依リ其ノ獵獲ヲ禁止スルコトヲ得

第三條　軍艦艦長、警察官吏、稅關官吏其ノ他特ニ命令ヲ受ケタル官吏ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ臘虎臘肭獸獵船、獵具及獵獲物ノ檢査ヲ行ヒ犯則者ト認ムヘキ者及船員ヲ抑留シ獵船、船具、獵具、船籍證書及獵獲物ヲ差押フルコトヲ得

第四條　禁獵區內又ハ禁獵期間ニ於テ臘虎臘肭獸ノ獵獲ヲ爲シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮又ハ二十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ何人ノ所有ヲ問ハス獵船、船具、獵具及獵獲物ヲ沒收ス

第五條　獵船、獵具、獵法ノ制限及牝牡、年齡ニ依レル獵獲ノ禁止ニ違背シ又ハ獵船獵具及獵獲物ノ檢査ニ關スル規程ニ違背シタル者ハ十一日以上一月以下ノ重禁錮又ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條　第一條ノ免許ヲ受ケスシテ臘虎臘肭獸ヲ獵獲シタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ獵獲物ヲ沒收ス

第七條　第四條、第六條ニ依リ沒收セラルヘキ獵獲物ヲ既ニ販賣シタルトキハ其ノ代價ヲ追徵ス

第八條　此ノ法律ハ明治二十九年一月一日ヨリ施行ス

明治十七年第十六號布告及明治十九年勅令第八十號ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

○農商務省令第十二號　明治二十八年十二月六日

臘虎膃肭獸獵免許規則

第一條　臘虎若クハ膃肭獸ヲ獵獲セントスル者ハ其住居地又ハ獵船定繫場管轄ノ地方長官（東京府下ハ警視總監以下之ニ倣フ）ヲ經由シテ農商務大臣ニ出願スヘシ

第二條　前條獵業免許ノ願書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ但地先沿岸ニ於テ獵銃ヲ使用セス臘虎若クハ膃肭獸ノ獵獲ヲナス者ハ第三ノ事項ヲ記載スルヲ要セス

一　獵業ノ種類
二　本籍及住所身分
三　獵船ノ數及其船名噸數
四　獵船定擊場
五　獵期及獵場

六　獵具獵法

第三條　獵業ヲ免許シタルトキハ左ノ雛形ニ依リ各獵船ニ免許證ヲ下付ス

（水色紙）　五寸五分

表

三寸八分

印

許證　臘虎（膃肭獸）獵業免

番號	本籍及身分	住所	氏名	船名又ハ種類	獵船定擊場
第　號					

花紋

一

明治　年　月　日

農商務省

第四條　獵業免許狀ヲ得タル者獵業ニ從事スルトキハ出港地管轄警察本分署ニ届出ヲ獵期ノ終了ニ際シ獵船定繫場若クハ寄港地管轄ノ警察本分署ニ獵業免許證ヲ差出シ檢印ヲ受クヘシ

前項警察本分署ノ檢印ヲ受ケサルコト二箇年以上ニ渉ルトキハ免許ノ效ヲ失フモノトス

裏

獵業從事之檢閱									警察署檢印	檢閱ヲ受ケタル年月日	警察署檢印	檢閱ヲ受ケタル年月日	備考

第五條　獵業免許ヲ得タル者ハ左ノ雛形ニ依リ旗章ヲ製シ獵業ニ從事スルトキハ常ニ船檣又ハ船部ノ見易キ所ニ揭クヘシ

獵船ニ屬スル端艇ニハ本船船名ヲ便宜見易キ所ニ表記スヘシ

獵虎獵船旗章

地色	白
筋	紅、縱ノ四分ノ一
横	縱ノ一ト二分ノ一

臘鼈獻獵船旗章

地色	白
節	紺、縱ノ四分ノ一
横	縱ノ一ト二分ノ一

臘虎臘鼈獻獵船旗章

地色	白
筋	上紅、下紺、縱ノ四分ノ一
横	縱ノ一ト二分ノ一

第六條　獵業免許ヲ得タル者獵業ニ從事スルトキハ常ニ免許證ヲ携帶シ軍艦艦長警察官吏稅關官吏其ノ他特ニ命令ヲ受ケタル官吏ニ於テ檢閱センコトヲ求ムルトキハ直ニ之ヲ示スヘシ

第七條　獵業免許ヲ得タル者獵業ニ從事シタルトキハ終了ノ後二箇月以內ニ於テ其ノ獵獲シタル臘虎臘鼈獻ノ獵獲時日頭數獵獲場所及獵業ニ使用シタル端艇ノ數乘組員ノ種別人員ヲ詳記シ管轄地方廳（東京府下ハ警視廳以下之ニ倣フ）ヲ經由シテ農商務

省ニ報告スヘシ

第八條　獵業免許ヲ得タル者第三條ノ免許證ヲ亡失毀損シ又第二條第二第三第四ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ具シ免許證ノ下渡又ハ訂正ノ願書ヲ管轄地方長官ニ差出スヘシ

第九條　獵業免許ヲ得タル者獵業ヲ廢止シ又ハ第四條第二項ニ據リ免許ノ效ヲ失ヒタルトキハ直ニ免許證ヲ管轄地方廳ニ返納スヘシ

○農商務省訓令第十五號　明治二十八年十二月六日　警視廳　北海道廳府縣（東京府ヲ除ク）

明治二十八年農商務省令第十二號臘虎膃肭獸獵免許規則第二條但書ニ該當スル出願免許ノ件ヲ委任ス

○農商務省訓令第十六號　明治二十八年十二月六日　警視廳　北海道廳　府縣

臘虎膃肭獸獵免許取扱手續

第一條　臘虎膃肭獸獵免許規則第一條ニ據リ出願スル者アルトキハ免許規則第二條ニ記載シタル各項ヲ調査シ意見ヲ添ヘ本大臣ニ差出スヘシ

第二條　臘虎膃肭獸獵免許規則第二條但書ニ該當スル出願アルトキハ願書記載ノ事項ヲ調査シ不都合ナキモノハ免許證ヲ下付スヘシ

第三條　本手續第二條ノ免許證ハ使用高ヲ概算シ毎年三月本大臣ニ請求スヘシ

第四條　本手續第二條ノ免許證ニハ獵業者ノ本籍身分住所氏名船種及獵船ノ定繫所ヲ記入シ廳印ヲ以テ契印ヲ爲スヘシ

第五條　臘虎膃肭獸獵免許規則第八條ニ據リ免許證ノ下渡訂正ヲ出願シタルトキハ同則第一條ニ依レルモノハ農商務省ニ差出シ本手續第二條ニ依レルモノハ調査ノ上亡失毀損ハ再渡シ異動ハ朱書ヲ以テ訂正シ備考欄內ニ其事由ヲ記シテ下付スヘシ

第六條　臘虎膃肭獸獵免許規則第九條ニ據リ返納スヘキ免許證ニシテ同則第一條ニ依レルモノハ其都度農商務省ヘ送付シ本手續第二條ニ依レルモノハ直ニ斷截スヘシ

第七條　免許證原簿ヲ備置キ本手續第二條ノ免許證下付ノ際臘虎膃肭獸獵免許規則第二條但書ノ事由ヲ登錄シ廢業又ハ免許ノ效ヲ失ヒタルモノハ其事由ヲ記スヘシ

第八條　本手續第二條ノ免許證ヲ下付シタルモノ又ハ免許證再渡訂正ヲ許可シタルモノハ翌年二月十五日マテニ左ノ表式ニ據リ本大臣ヘ報告スヘシ

第一號表式

臘虎膃肭獸獵免許者報告（明治　年）　廳府縣名

免許證番號	獵業種類	許可ノ月日	獵期及獵場	獵具獵法	獵船定繫場	本籍身分	住所氏名
第一號	（臘虎）（膃肭獸）		（北海道何々沿岸）（何洋何々沿岸）				
第二號	（膃肭獸）		、、、、、				
第三號	（臘虎）		、、、、、				

第二號表式

臘虎膃肭獸獵免許者異動報告（明治　年）　廳府縣名

免許證番號	獵業種類	月日	事由	住所氏名
第一號	（臘虎）（膃肭獸）	何月何日再渡	何月何日何所ニ於テ（亡失）何何ニテ毀損ニ據ル	
第二號	（膃肭獸）	何月何日訂正	何々（轉居）（定繫場）（改名）願出ニ據ル	
第三號	（臘虎）	、、、、、	、、、、、	
第四號	（臘虎）（膃肭獸）	何月何日廢業	、、、、、	
第五號	（膃肭獸）	何月何日返納	何年何月ヨリ何年何月マテ二箇年以上檢印ヲ受ケサルモノ	

第九條　臘虎膃肭獸獵免許規則第四條第一項ニ據リ屆出又ハ檢印シタル獵船ノ數ハ同則第一條ニ依レルモノハ其都度第二條但書ニ依レルモノハ毎年二月取纏メ本大臣ニ報告スヘシ

○勅令無號　明治二十三年一月八日

日本朝鮮兩國通漁規則

大日本大朝鮮國政府ハ日本明治十六年七月二十五日朝鮮開國四百九十二年六月二十二日兩國全權大臣ノ協議訂定セル朝鮮國貿易規則第四十一款ニ據リ兩國海濱ニ往來捕魚スル者ノタメニ漁業稅ヲ定メ取締規則ヲ立ルヲ必要トシテ日本政府ハ代理公使近藤眞鋤ニ委任シ朝鮮政府ハ督辯交涉通商事務閔種默ニ委任シ各委命ヲ奉シテ會議定立スル各條左ノ如シ

第一條　兩國議定地方ノ海濱三里（日本國海里ノ算測ニ據ル已下之ニ準フ）以内ニ於テ漁業ヲ營マントスル兩國漁船ハ其船ノ間數所有主ノ住所姓名及乘組人員ヲ詳記シ其船主若クハ代理人ヨリ願書ヲ認メ日本漁船ハ其領事官ヲ經テ開港場地方廳ヘ朝鮮漁船ハ議定地方ノ郡區役所ニ差出シ該船ノ檢査ヲ經テ免許鑑札ヲ受クヘシ但免許鑑札ハ漁業ノ時必ラス携帶スヘシ

第二條　漁業免許ノ鑑札ヲ受クル者ハ漁業稅トシテ左ノ割合ニ照シ稅金ヲ納ムヘシ而シテ此鑑札ハ之ヲ受ケタル日ヨリ滿一年間其效ヲ有スルモノトス

乘組人　十名已上　日本銀貨拾圓
同　五名已上九名已下　同　伍圓
同　四名已下　同　參圓

第三條　漁業免許ノ鑑札ヲ受ケタル此國漁船ハ其捕護シタル魚介ヲ彼國海濱ノ地方ニ於テ販賣スルコトヲ得ヘシト雖モ彼國政府ニ於テ衞生上又ハ其他ノ事故ニ由リ一般ニ販賣ヲ禁シタル魚介類ハ之ヲ販賣スルコトヲ許サス

第四條　兩國ノ漁船ハ漁業免許ノ鑑札ヲ受ケタルモノト雖モ特許ヲ得ルニアラサレハ兩國海濱三里以內ニ於テ鯨鯢ヲ捕獲スルコトヲ許サス

第五條　此國ノ漁船彼國海濱三里以內ニ於テ地方ノ禁制ニ背キ魚介其他海產ノ蕃殖ヲ害スヘキ方法ヲ用ユルコト勿ル可ク又ハ各地方ニ於テ魚介ノ種類ヲ限リ其捕獲ヲ禁制シタル時期ニ方リテハ彼是ノ漁民決シテ該魚介ヲ捕獲スルコト勿ル可シ

第六條　兩國地方官署ノ官吏ハ此規則ヲ執行スル爲メ必要ナリト認ムルトキハ該地方海濱三里以內ニ在ル彼國漁船內ヲ查檢シ若シ違犯者アレハ之ヲ押留スルコトヲ得但朝鮮地方官ニテ日本船ヲ押留シタルトキハ其趣速カニ最寄日本領事官ニ通知シ該規則ニ從テ處分ヲ求ムヘシ

第七條　漁業免許ノ鑑札ヲ受ケスシテ海濱三里以內ニ於テ魚介ヲ捕獲シ若クハ捕獲セントシタル漁船ハ五圓已上十五圓以下ノ罰金ニ處シ其捕獲物ヲ沒收ス

第八條　第一條免許鑑札ヲ携帶セサルモノ第四條ヲ犯スモノ及ヒ第六條地方官吏ノ查檢ヲ拒ムモノハ一圓已上二圓已下ノ罰金ニ處ス但シ第四條ヲ犯シタルモノハ別ニ捕獲シタル鯨鯢ヲ沒收ス

第一條乘組人員ヲ僞リ稅金ヲ不足納シタルモノハ其不足高二倍ノ罰金ニ處ス

第三條禁制ノ魚介ヲ販賣シ及ヒ第五條魚介海產ノ蕃殖ヲ害スルノ方法ヲ用ヒ若クハ禁制ノ魚介ヲ捕獲シタルモノハ日本海濱ニ於テハ地方規則ニ照シテ處分シ朝鮮海濱ニ於テハ一圓已上二圓已下ノ罰金ニ處シ其捕獲物ヲ沒收ス

第九條　漁業鑑札ヲ他人ニ貸附シ海濱三里以內ニ於テ魚介ヲ捕獲セシメタルモノハ貸者借者共ニ該鑑札ニ相當スル稅額二倍ノ罰金ニ處シ其捕獲物ヲ沒收ス

第十條　兩國議定地方ニアラサル海濱三里以內ニ於テ魚介ヲ捕獲シタルモノハ

漁船漁具及ヒ其捕獲物ヲ沒收ス

第十一條　此規則ニ據テ處分スヘキ者ハ日本國海濱ニ於テハ日本地方裁判所ノ裁斷ニ歸シ朝鮮國海濱ニ於テハ其地方官ヨリ最寄日本領事官ニ告訴シ其裁斷ニ歸スヘシ

第十二條　此規則實行ノ後更ニ增減スヘキ事項出來スルトキハ雙方協議改正スルヲ得漁業稅ニ至テハ此規則調印ノ日ヨリ二年間施行ノ後漁利ノ有無ヲ看テ再ヒ改正スヘシ

茲ニ雙方記名調印シ右確實ナルヲ證スル者也

大日本國明治二十二年十一月十二日　　代理公使近藤眞鋤　印

大朝鮮國開國四百九十八年十月二十日　　督辯交涉通商事務閔種默　印

○農商務省訓令第十四號　明治廿八年十月廿三日　北海道廳府縣

漁業取締及漁業組合規則其他水產動植物ノ蕃殖保護等ニ關スル命令ハ自今本大臣ヘ經伺ノ上施行スヘシ

但從前發布ニ係ル命令ノ改正又ハ廢止ヲナサントスルトキモ本文ニ準スヘシ

獸類傳染病豫防

〔沿革〕明治九年二月內務省乙第二十號達ヲ以テ疫牛處分假條例ヲ定ム○同年五月同省乙第二十四號達ヲ以テ傳染牛疫豫防法幷斃死後處置方ヲ定ム○同年同月同省乙第六十號達ヲ以テ假條例第五條尤以下ヲ追加シ但書ヲ改正シ第七條第九條ニ但書及ヒ第十條第十一條ヲ追加ス○同年八月同省乙第九十四號達ヲ以テ假條例第九條但書中ヘ追加ス○同年九月同省乙第六號達ヲ以テ獸類劇症ハ直チニ勸業寮ヘ報告セシム○十一年二月同省乙第九號達ヲ以テ假條例第八條中ヘ追加ス○十四年二月同省乙第九號達ヲ以テ獸醫取締及獸畜衛生事務勸農局ニ於テ取扱ハシム○同年十一月農商務省乙第十一號達ヲ以テ假條例第七條但書ヲ改正ス○十九年九月全省令第十一號ヲ以テ獸類傳染病豫防規則ヲ定ム○全年九月第十八號告示ヲ以テ豫防心得ヲ示ス○二十九年三月法律六十號ヲ以テ獸疫豫防法ヲ定ム○明治三十年一月七日農商務省令第一號ヲ以テ獸疫豫防法施行細則ヲ定ム○同年二月二十四日農商務省告示第四號ヲ以テ獸疫豫防心得ヲ定ム

○法律第六十號　明治二十九年三月二十九日

獸疫豫防法

第一條　此ノ法律ニ獸類ト稱スルハ牛、馬、羊、豚、犬ヲ謂ヒ獸疫ト稱スルハ左ノ十病ヲ謂フ

一　牛疫

二　炭疽
三　氣腫疽
四　鼻疽及皮疽
五　傳染性胸膜肺炎
六　流行性鵞口瘡
七　羊痘
八　豚虎列刺
九　豚羅斯疫
十　狂犬病

第二條　獸類獸疫ニ罹リタルコト若ハ其ノ疑アルコトヲ發見シタル所有者管理人又ハ獸醫ハ直ニ其ノ旨ヲ所轄警察署又ハ市町村長（特別市制ヲ施行スル市ニ於テハ區長、市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ區戸長、又ハ之ニ準スヘキ者）ニ屆出ヘシ

所有者又ハ管理人ニ於テ狂犬病ニ罹リタル獸類ヲ撲殺シタルトキ亦同シ

第三條　獸類獸疫ニ罹リタルトキ若ハ其ノ疑アルトキハ所有者又ハ管理人ニ於テ警察官及獸醫又ハ檢疫委員ノ指揮ニ從ヒ直ニ之ヲ鎖鋼シ若ハ健獸ト隔離シ

其ノ監督ヲ承クヘシ

第四條　牛疫感染ノ疑アリ又ハ之ニ罹リタル牛、羊及狂犬病ニ罹リタル犬ハ所有者又ハ管理人ニ於テ警察官及獸醫又ハ檢疫委員ノ指揮ニ從ヒ直ニ之ヲ撲殺スヘシ

前項ノ所有者又ハ管理人現場ニ在ラサルトキハ警察官及獸醫又ハ檢疫委員ニ於テ直ニ撲殺シ及病毒ニ汚染シ又ハ其ノ疑アル物品ヲ燒棄、埋却シ若ハ之ニ消毒ヲ行フコトヲ得

第五條　地方長官（東京府ハ警視總監以下之ニ倣フ）獸疫豫防上必要ト認ムルトキハ病性鑑定ノ爲剖檢ヲ要スル獸類ヲ撲殺シ又ハ鼻疽及皮疽、傳染性胸膜肺炎、豚虎列刺、豚羅斯疫ニ罹リタル獸類ノ撲殺ヲ命スルコトヲ得

第六條　所有者又ハ管理人第四條ノ指揮ニ從ハス及前條ノ命令ニ從ハサルトキハ警察官及獸醫又ハ檢疫委員ニ於テ直ニ撲殺スルコトヲ得

第七條　病性鑑定ノ爲撲殺シタル獸類ヲ除クノ外此ノ法律ニ依リ撲殺シ又ハ獸疫ニ罹リ斃死シタル獸類ノ屍體ハ所有者又ハ管理人ニ於テ警察官及獸醫又ハ檢疫委員ノ指揮ニ從ヒ直ニ之ヲ燒棄又ハ埋却スヘシ

前項ノ屍體ハ各部ヲ截取シ又ハ剖檢ヲ爲スコトヲ得ス但シ病性鑑定又ハ學術研究ノ爲特ニ地方長官ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條　所有者又ハ管理人ハ警察官及獸醫又ハ檢疫委員ノ指揮ニ從ヒ病毒ニ汚染シ又ハ其ノ疑アル物品ヲ燒棄、埋却シ若ハ之ニ消毒ヲ行フヘシ

所有者、管理人、車長又ハ船長ハ警察官及獸醫又ハ檢疫委員ノ指揮ニ從ヒ獸疫ニ罹リ若ハ其ノ疑アル獸類ヲ繫留シタル場所、汽車、船舶等ニ消毒ヲ行フヘシ

所有者又ハ管理人前二項ノ指揮ニ從ハサルトキ及車長、船長前項ノ指揮ニ從ハサルトキハ警察官及獸醫又檢疫委員ハ直ニ燒棄、埋却シ若ハ消毒ヲ行フコトヲ得

第九條　此ノ法律ニ依リ撲殺シ又ハ獸疫ニ罹リ斃死シタル獸類ノ屍體及病毒ニ汚染シタル物品ノ埋却地ハ發堀若ハ使用スルコトヲ得ス但シ地方長官ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十條　第四條、第五條及第八條第一項ノ場合ニ於テ地方長官ハ三人以上ノ評價人ヲシテ物品及發病前ノ獸類ノ價格ヲ評價セシメ左ノ標準ニ依リ所有者ニ手當金ヲ下付ス其ノ評價額ヲ不當ト認ムルトキハ更ニ他ノ三人以上ノ評價人ヲシテ評價セシムルコトヲ得

一　牛疫、鼻疽及皮疽傳染性胸膜肺炎、豕虎列刺、豕羅斯疫ニ罹リ撲殺シタル獸類　評價額三分ノ一

二　病性鑑定ノ爲撲殺シタル獸類　評價額五分ノ三

三　牛疫ニ感染ノ疑アル爲撲殺シタル牛羊　評價額五分ノ四

四　燒棄又ハ埋却シタル物品　評價額二分ノ一

手當金額ハ第一ノ場合ニ於テハ一頭六十圓、第二ノ場合ニ於テハ一頭百五十圓、第三ノ場合ニ於テハ一頭二百圓、第四ノ場合ニ於テハ總計十圓ヲ超過スルコトヲ得ス

第十一條　此ノ法律ニ依リ左ニ掲クル獸類ヲ撲殺シ又ハ物品ヲ燒棄若ハ埋却シタルトキハ手當金ヲ下付セス

一　第二條ニ違背シ屆出ナキ獸類及之ニ觸接シタル物品

二　第六條ノ場合ニ於ケル獸類及第八條第一項ニ違背シタル場合ニ於ケル物品

三　狂犬病ニ罹リタル犬及其ノ病毒汚染ノ疑アル物品

四　第十二條ノ命令ニ違背シ移動シタル獸類及物品

五　第十五條ノ命令ニ違背シ檢疫ヲ受ケス又ハ輸入シタル獸類及物品

第十二條　地方長官ハ獸疫豫防上必要ト認ムルトキハ區域ヲ定メ獸類ノ種類ヲ限リ其ノ出入、往來竝病毒傳播ノ疑アル物品ノ運搬ヲ停止スルコトヲ得

第十三條　地方長官ハ獸疫流行中必要ト認ムルトキハ屠獸場及獸類化製場ノ營業ヲ停止シ又ハ獸類ノ種類ヲ限リ其ノ市場共進會等ノ開設ヲ停止スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ直ニ其ノ旨ヲ農商務大臣ニ屆出ヘシ

第十四條　地方長官ハ獸疫豫防上必要ト認ムルトキハ區域ヲ限リ健獸ノ檢査ヲ行フコトヲ得

第十五條　外國ヨリ獸疫侵入ノ危險アリト認ムルトキハ有病地ヨリ又ハ有病地ヲ經テ輸入スル獸類及ヒ物品ノ檢疫ヲ行ヒ若ハ其ノ輸入ヲ停止スルコトヲ得

第十六條　獸疫豫防ニ關スル費用ハ國庫、府縣、市町村及一個人ノ負擔トス其ノ負擔ノ區分ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條　第四條第一項ニ違背シタル者、第五條ノ命令ニ違背シタル者及第十五條ノ檢疫ヲ受ケス又ハ輸入停止ニ違背シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

獸醫第二條ニ違背シタルトキハ罰前項ニ同シ

第十八條　第七條、第八條第一項第二項、第九條ニ違背シタル者及第十三條ノ命令ニ違背シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

所有者又ハ管理人第二條ニ違背シタルトキハ罰前項ニ同シ

第十九條　第三條ニ違背シタル者及第十二條ノ命令ニ違背シタル者ハ刑法第二百四十九條ノ例ニ依リ處罰ス

第二十條　第一條ニ揭ケタル獸類獸疫ノ外獸畜傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ勅令ヲ以テ此ノ法律ノ全部又ハ一部ヲ他ノ獸畜又ハ他ノ獸畜傳染病ニ適用スルコトヲ得

第二十一條　此ノ法律施行ニ關スル規則ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

第二十二條　此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

獸畜傳染病豫防ニ關スル從前ノ規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

○農商務省令第一號　明治三十年一月七日